

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

特集

フットボールを もっと 子どもたちに

グラスルーツの重要性とJFAの取り組み
田中順也 FC岐阜育成普及ダイレクター インタビュー
子どもたちの成長における運動機会の重要性
～田中雅人教授(愛媛大学)に聞く

9 NO.497
2025.
月情報号





アディダス 最新スパイクはこちらをチェック



特集

フットボールをもっと子どもたちに



※本誌の記事・写真・図表などの無断転載を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真：
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、
©F.LEAGUE、©Walnix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス」に取り組んでいます。これは“地球 (earth) の未来 (明日) のために私たち (us) がつなぐパス”の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて“パスを繋いでいく”という強い決意を表現しています。

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること
フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

CONTENTS

- 004 **グラスルーツの重要性とJFAの取り組み**
- 011 **田中順也 FC岐阜育成普及ダイレクター インタビュー**
- 014 **子どもたちの成長における運動機会の重要性**
～田中雅人教授(愛媛大学)に聞く

大会・試合

- 066 令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(男子)
- 067 令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(女子)
- 068 第49回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会
- 069 第7回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)
- 070 第40回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会
- 071 令和7年度全国中学校体育大会 第56回全国中学校サッカー大会
- 072 第21回全日本大学フットサル大会
- 073 JFA 第12回全日本U-18フットサル選手権大会
- 074 JFA パーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会
- 076 2025/26 WEリーグ キックオフカンファレンス
- 078 2025/26 SOMPO WEリーグ開幕

連載

- 018 短期連載 **フットボールがつなぐもの**
「第2回：V・ファーレン長崎の取り組み」
- 020 隔月連載 **My Coaching**
浅野智久
「選手たちのトライする姿勢を尊重する」
- 022 **日本全国FAコーチ巡り**
香川県サッカー協会
「たくさんの仲間と一丸になって『香川県から日本代表選手を!』」
- 024 **いつも心にリスペクト**
大住良之
「歴史を語り継ごう」
- 025 隔月連載
JFAの所蔵品からひもとく日本サッカーの歴史
「極東選手権」
- 017 JFA情報発信局
- 026 月刊レポート
- 035 蹴球通信
- 041 会議レポート
- 045 データボックス
- 064 サッカーファミリー広場
- 080 次号予告

JFAリスペクト・フェアプレーデイズ2025開催

日本サッカー協会(JFA)は9月1日から30日をリスペクト・フェアプレーの強化月間とし、「JFAリスペクト・フェアプレーデイズ2025」を開催しています。JFAリスペクト・フェアプレーデイズは、全国のサッカーファミリー一人一人がリスペクト・フェアプレーを考え、実行する期間。あらためてその大切さについて、みんなで考えてみましょう。

●【ホットピ!～HotTopic～】あらためて考える「大切に思うこと」
<https://www.jfa.jp/special/news/00035454/>



J. J. J.
dunhill





特集 **フットボールを
もっと
子どもたちに**

**「もっとやりたい」
「もっととできる」
そんなスポーツ体験を
届けたい**

外遊びや運動機会の減少に伴う子どもたちの体力低下は、将来、健全な社会の発展に影響を及ぼしかねない問題だ。日本サッカー協会（JFA）はサッカーを通じて子どもたちにスポーツの楽しさを伝えようと、都道府県サッカー協会（FA）や地域のクラブと連携してさまざまな普及活動を展開してきた。今、サッカー界は子どもたちに何ができるのか。

今号では、グラスルーツ活動の重要性をテーマにJFAや都道府県FA、Jクラブ、WEクラブの取り組みを紹介するほか、FC岐阜の田中順也育成普及ダイレクター、愛媛大学の田中雅人教授に話を聞いた。



ルーツの重要性とJFAの取り組み

日本サッカー協会（JFA）は7月24日と25日、高円宮記念JFA夢フィールドでグラスルーツセミナーを開催した。セミナーの開催は今年で4回目。JFA、都道府県サッカー協会、Jクラブ、WEクラブの担当者ら約200人が一堂に会する初の機会となった。



<グラスルーツセミナーの目的>

- ・ JFAは、誰もが等しくサッカーを楽しめる環境をつくるため、都道府県サッカー協会（FA）やクラブと共に地域のサッカー活動をサポートする。
- ・ 都道府県FA、Jクラブ、WEクラブそれぞれの普及活動を共有し、地域と連携してサッカー活動の規模を広げ、それぞれが助け合い、刺激し合って、地域のサッカーファミリーの輪を大きくする。
- ・ サッカーファミリーを増やすためにこれから何が出来るかをオープンに話し合い、仲間づくりをする。

全体でアイデアを共有し、各地域で連携して活性化を

JFAが2022年から実施しているグラスルーツセミナー（年1回）は、JFAと都道府県サッカー協会（FA）、Jクラブ、WEクラブのグラスルーツ担当者らと関係性を深めて、各地域のサッカー普及活動を発展させていくことを目的としている。2年目まではJFAが47FA、Jクラブ、WEクラブのそれぞれとミーティングの場を設けていたが、昨年は初の試みとしてJFAと47FA、Jクラ

ブの三者が集う形で開催。ここで初めて県FAと同県のJクラブの担当者が合わせ、新たな連携が生まれたケースもあった。

例えば秋田県、サッカーの競技人口が少ないことが課題としてある。サッカーをしている子どもたちが生涯にわたって地元でサッカーをプレーできる環境が必要との考えから、秋田県FAとブラウブリッツ秋田が連携して普及イベントや女子の普及活動などに取り組みようになった。秋田県FAの佐々木健太さん（巡回指導担当、女子普及コーディネーター）は「昨年は事務局長が参加し、それまで普及の現場でなかなか交流を持てなかったブラウブリッツさんといろいろな話をした。以前よりもコミュニケーションを密にして活動できるようになった」と、良い関係を築いている。

JFAとJクラブの新たな交流も生まれた。「セミナーで顔を合わせて話したことで、JFAにも仲間としてお願いしやすくなった」と話すのは名古屋グランパスの加藤史泰さん（育成普及部スクールグループリーダー）だ。昨年のセミナーに参加したクラブの担当者の提案でJFAにイベント開催のサポートを依頼した。「今年の夏に開催する普及イベント



今年で4回目となったグラスルーツセミナーは約200人が参加。2日間にわたって議論を深めた

についてスクールの担当者や話し合っていたが、同じメンバーで考えていってもなかなか新しいアイデアが思いつかない。そこでJFAに相談したところ、快く引き受けてもらった（加藤さん）。イベントの企画だけでなく、当日もJFAのスタッフが現地へ赴き、一緒にイベントを開催した。

プロクラブにとってもグラスルーツ活動に投資することは将来的なファン層の拡大と収入の増加につながっていく。JFAが示した数字によると、サッカー経験のある人はクラブを応援する際の投資額も高くなる（資料1）。

今年45の都道府県FA、48のJクラブに加え、WEリーグの9クラブもグラスルーツセミナーに

■資料1 なぜプロクラブはグラスルーツ活動に投資する必要があるのか？

◎チケット購入

「現在サッカーをしている人」はチケット購入に、「以前していた人」の2.2倍、「1回もサッカーをしたことのない人」の6.3倍のお金を出す

◎動画配信サービスの利用（観戦サブスク）

「現在サッカーをしている人」は、テレビ観戦サブスクに「以前していた人」の1.2倍、「1回もサッカーをしたことのない人」の3倍のお金を出す

◎グッズ購入

「現在サッカーをしている人」はサッカーグッズ購入に「以前していた人」の2倍、「1回もサッカーをしたことのない人」の5倍のお金を出す

参考文献：Fiona Green.Winning with Data in the Business of Sports:CRM and Analytics 2nd Edition.2021,pp.79-80.

■図1 FIFA Global Football Development



参加。四者が初めて一堂に会した。JFAの中山雅雄普及ダイレクター(技術委員)は、「われわれに何ができるのか、オープンマインドで話し合いたい。互いに刺激し合い、セミナーが終わった後、すぐ取り組めるようなきつかけやアイデアを持ち帰ってもらいたい」と、情報共有だけで終わらせず実際の活動に反映する姿



「グラスルーツは本当に幅広く関わっている。地域に合った取り組みを探してほしい」と影山委員長

■図2 Japan's Wayの実現に向けて



グラスルーツは代表チームの強化、ユース育成、指導者養成のすべての土台となるもの

三位一体+Grassroots

指導者育成 代表 若年層育成

代表の強化だけに力を入れれば、代表チームは強くなるだろう。しかし、「良い選手が偶然集まったときには良い成績を出せるが、

そうじゃないときには陥落してしまう。われわれが目指す日本サッカーの姿はそうではない。代表チーム、選手育成、指導者養成、そして全ての領域に関わるグラスルーツをもっと大事にしていく。

JFAと47都道府県FA、そしてクラブも、みんなで手を携えて、地域に根差したそれぞれの考え方ややり方で普及活動を進めていってほしい」と影山委員長は訴えた。

勢を求めた。

世界がグラスルーツを重視「楽しみをもっと大切に」

JFAは2022年に『Japan's Way』を再定義した。「JFA 2005年宣言」に掲げた「2050年までにサッカーファミリーを1000万人にし、FIFAワールドカップで優勝する」という「約束」を実現したとき、日本サッカーはどういう状態になっているのか。そこから逆算して目指すべき姿をまとめたものだ。『Japan's Way』では「サッカーをやる・みる・支えることを楽しむ」、「競技力を高めて強くなることを楽しむ」、「この両方を充実させること」が「世界一、サッカーで幸せな国」になるために、そしてワールド

カップで優勝するために不可欠なことだと明記している(図2)。「プロになる選手は全体の0.1%にも満たない」と影山雅永

JFA技術委員長は話す。それにもかかわらず、「日本ではファンスポーツ(楽しむスポーツ)の部分で欠落している」と指摘。プロ選手になれなければサッカーをやめる、厳しい練習についていけなくてサッカーを諦める、そういう選手が少なくない。

国際サッカー連盟(FIFA)は、選手育成やその先にあるプロや代表チーム、そしてサッカー人口の大部分を占めるアマチュアも、全てがグラスルーツから発展するとしている(図1)。また、欧州サッカー連盟(Uefa)やアジアサッカー連盟(AFC)、JFAは、アマチュアを含めた全てをグ

ラスルーツのターゲットに捉えている。そして、グラスルーツで最も重要なことは、サッカーを楽しむこと。

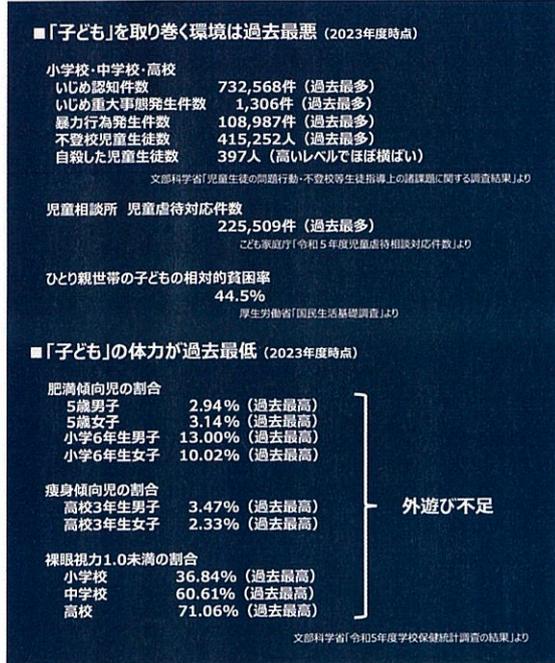
グラスルーツをおろそかにしては、継続したサッカーの成長は望めない。「日本でもファンスポーツを文化としてしっかり根付かせたいこう、という思いで『Japan's Way』をつくった」と影山委員長。日本サッカーがさらなる成長を遂げるためには、サッカーを楽しむことを大切にする機運を醸成していかなければならない。

日本の子どもの数は過去最少の1366万人を記録した(2025年4月1日時点/総務省統計局発表)。1982年から44年連続で減少しており、前年に比べて35万人も少なく、総人口に占める子どもの割合も11.1%と前年比0.2ポイント減で、75年から51年連続で低下した。

「どうつくっていくか」

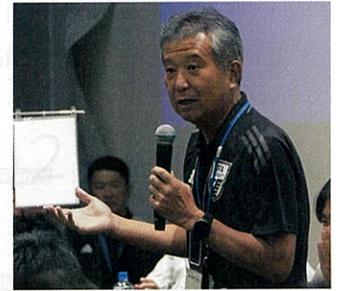
JFAは、2002年に日本と韓国で開催されたFIFAワールドカップの盛り上がりや日本サッカーの永続的な発展につなげようと、翌03年に10歳以下のキッズを対象とした「JFAキッズプログラム」をスタートさせた。全国の幼稚園や保育園に出向いてサッカーの楽しさを伝える「巡回指導」と、サッカー経験を問わず誰もが参加できる「フェスティバル」の開催、そして、子どもたちが運動やサッカーを楽しめるように関わり方を学び、積極的に関わる人を増やすための「キッズリーダー養成」のこの三つの事業がキッズプログラムの三本柱だ。

資料2「子ども」を取り巻く環境



「もちろん将来的にサッカーを選んでもくれたらうれしい。しかし、そうじゃなくてもいい。とにかく、子どもたちにとって健全な環境とを大切にしてきた。」

当時、子どもたちの外遊びの減少や体力低下を問題視していたJFAは、キッズプログラムの展開に当たって子どもたちにサッカーを通じてスポーツそのものの楽しさや素晴らしさを伝えることを大切にしていた。

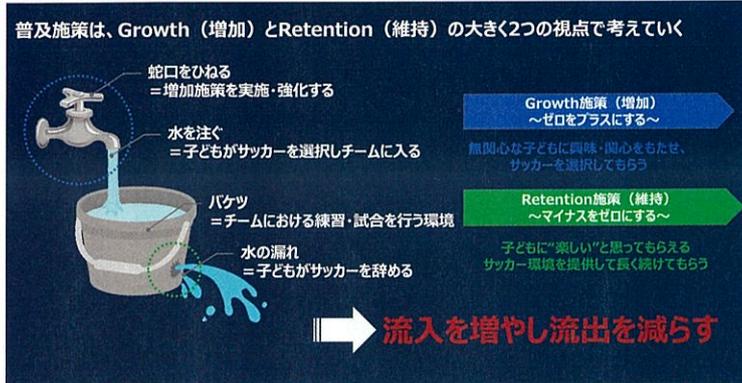


中山ダイレクターは「サッカーと出会い、続けてもらうにはどうしたらいいかを考えていきたい」と話した

JFAは、2023年にJFAMEジャーパートナーのTOYO TIRE株式会社と提携し、子どもたちが外で遊ぶ機会をもっと届けていかなければならない。

JFAは、2023年にJFAMEジャーパートナーのTOYO TIRE株式会社と提携し、子どもたちが外で遊ぶ機会をもっと届けていかなければならない。

資料3「普及」の捉え方



「他競技が教えている様子を見ているとわれわれも新鮮な発見だ。」

と共に「マルチスポーツチャレンジ」をスタートさせ、他競技と連携して小学生年代の子どもたちにもさまざまなスポーツに触れる機会を提供している。今年も、株式会社ユニクロの特別協賛により、6月21日に国立競技場（東京都）で初の「JFAユニクロマルチスポーツキッズ」を開催。小学1～3年生の約400人が集まってサッカー、ラグビー、野球、陸上を楽しんだ。

JFAは47都道府県FAと連携しながら、キッズプログラムや各種フェスティバルなどを全国各地で開催してきた。その取り組みはアジアでも高く評価され、AFCグラスルーツチャーターでは最上位の「ゴールド」ステータスに認定されている。

しかし、「キッズプログラムを始めた当初、われわれに欠けていた視点があった」と中山ダイレクターは振り返る。それは、サッカーと出会い、サッカーを始めた子どもたちが、ライフワークとしてサッカーを楽しむ環境をつくるという視点だ。せっかくサッカーを始めると、さまざまな理由から

や学びがある。有意義なイベントになっている」と中山ダイレクター。他競技と手を組んでイベントを開催することで、それぞれの競技にとってもこれまで出会えなかった多くの子どもたちと出会う機会になるだろう。競技間で子どもたちを取り合うのではなく、一緒になってスポーツの魅力伝えていくことが、サッカー界にとっても新しい可能性につながるはずだ。



6月21日には国立競技場でJFAユニクロマルチスポーツキッズを開催。子どもたちはトップアスリートの下、サッカー、野球、ラグビー、陸上をそれぞれ楽しんだ

「子どもたちには「サッカーをやってしまおう子どもたちがいる。中山ダイレクターは「子どもだけではない。大人を含めたみんなが生涯にわたってサッカーを楽しむ環境をつくっていきたい」とその思いを共有した。

グラスルーツセミナーでは、地域ごとに分かれて「明日から取り組めるアクションを考えると、未到達層の獲得に向けて」をテーマにグループディスカッションを行った。同じ地域で活動するFAとクラブがアイデアを出し合い、一人でも多くの人がサッカーと出会い、定期的にサッカーを続けられる環境を実現するための施策を考案。今後、各地域でそれぞれの普及活動が展開されていくことが期待されている。

■資料4 アジアで評価される日本サッカー界の取り組み

●ベストグラスルーツプロジェクト賞受賞(2018年11月14日)

AFCが2018年に開始した「AFC Special Grassroots Awards」において、「JFAフェスティバル」がグラスルーツプロジェクトを受賞。47都道府県サッカー協会によって年間600回以上開催されているJFAフェスティバルが評価された。

●AFCグラスルーツチャーター・ゴールド認定(2018年11月14日)

日本はAFCが制定した「AFCグラスルーツチャーター」において、最上位の「ゴールド」ステータスに認定。グラスルーツの発展において重要とされる全20項目の評価基準を日本が全て満たしたことによるもの。

■資料5 JFA主催のフェスティバル開催例 ※2025年7月時点

◎JFAユニクロサッカーキッズ(2003年開始)

総開催数 : 239回
総参加人数 : 約30万人
海外でも2014年のシンガポールを皮切りに、2023年はドイツ、ベトナム、2024年はフランスで開催

◎JFAマジカルフィールド(2022年開始)

総開催数 : 33回
総参加人数 : 約6,808名(3,404組)
※ファーストタッチ、ファーストタッチプレミアムのみを対象

◎<JFA×TOYO TIRES> マルチスポーツチャレンジ(2023年開始)

総開催数 : 3回
総参加人数 : 約205人
これまで実施した競技 : サッカー、野球、ダンス、陸上、バスケットボール

◎<JFA×資生堂> ANESSA Sunshine Project(2024年開始)

開催数 : 1回
子ども向けの体験イベントを通じて外遊びやスポーツの楽しさを伝えること、屋外で安全に遊ぶための紫外線対策講座。2025年からは、日焼け止め塗り方講座を交えたイベントを全国で順次開催。

◎<JFA×みずほ> BLUE DREAM みらいスクール(2024年開始)

総開催数 : 2回
総参加人数 : 約400人
子どもたちを対象にスモールサイドゲーム(5人制サッカー)とゆめプログラム(子どもたちが自身の夢について考えるきっかけを提供するプログラム)の2部構成により実施

◎エデュすほ! ~教員のための体育授業研究会~(2024年開始)

総開催数 : 3回
総参加人数 : 約895人
日本野球機構(NPB)と合同で「運動が苦手でも安心して先生方が楽しく参加できる」「児童・生徒が体育の授業を通して運動・スポーツと出合える場を大切に」をキーワードに小学校・中学校の教員を対象に開催

◎JFAユニクロマルチスポーツキッズ(2025年開始)

総開催数 : 1回
参加人数 : 約400人

グラスルーツの取り組みの詳細は下記を参照
JFA.jp「グラスルーツ」
https://www.jfa.jp/grass_roots/



能登からサッカーファミリーへ ~能登で見られる変化とサッカーの力

2024年1月1日に発生した能登半島地震と同年9月に奥能登地方(能登半島北部)を襲った記録的な豪雨は、能登半島に大きな爪痕を残した。サッカーの大会や合宿などが行われていた施設や学校のグラウンドも使えない状態に。現在は少しずつ復旧しているがまだ十分とは言えない。

石川県サッカー協会(IFA)の北野孝一会長(IFA復興プロジェクトリーダー、JFA復興支援特任リーダー)は「能登はサッカーがあまり盛んな地域ではなかった」と話す。2024年度のIFAチーム登録数は281チームで、そのうち被災6市町(輪島市・珠洲市・穴水町・能登町・七尾市・志賀町)では26チーム、選手登録数は628人と県全体(8406人)の0.8%だ。震災後、能登から他地域に引越す人も多く、また、サッカー環境が整わず、存続が難しくなっているチームもある。

しかし、その中でもある変化が見られた。昨年、選手が20人だったサッカークラブが今年は50人に増えているという。北野会長は「(被災地に)サッカーが届いているということだ」と話す。

今までサッカーがそれほど盛んではなかった能登ではこの1年半、JFA復興支援活動の一環として、サッカーOB・OGらを含めたアスリートによる学校・幼稚園訪問やウォーキングフットボール交流イベント「JFA・キリンビックスマイルフィールド」の開催、日本代表戦への招待、災害ボランティア、支援物資の提供など、多くの活動が行われてきた。それにより、人々がサッカーに触れる機会が増え、その魅力が伝わってきたのだという。

北野会長は「JFAや関係者の皆さんの支援活動が私たちの救いになっている。皆さんが来るとみんな笑顔になる。みんな感謝している。支援して下さる全国のサッカーファミリーの皆さんに伝えたいことは『能登の人たちに思いは届いています』ということ」と力を込める。能登の選手からは「もっと芝のグラウンドで練習したい」「サッカーを練習する場所や遊ぶ場所を確保してほしい」といった声も上がっている。

「この声に応えるために活動を進めていく。サッカーやスポーツの力でできることをやっていけたら」と、北野会長は継続した支援を求めた。



サッカー界の支援に感謝を伝えた北野会長。復興にはまだまだ時間がかかる状況も報告した

●能登半島地震復興支援活動【2025年7月版】 ~地震発生から1年半の活動報告~

https://www.jfa.jp/social_action_programme/relief_efforts/contribution_noto/activity.html



グラスルーツの重要性とJFAの取り組み

都道府県サッカー協会とクラブの活動事例

7月24日と25日のグラスルーツセミナーで共有された、沖縄県サッカー協会（FA）と群馬県FA、WEリーグのちふれASエルフェン埼玉、Jリーグの清水エスパルス、サンフレッチェ広島、FC東京それぞれの普及活動について紹介する。

■沖縄県サッカー協会

予算を確保して登録者数拡大へ、登録も義務化

2024年度のJFAサッカー選手登録数は83万8657人で、前年度から4234人増えた。都道府県別で最も増加率が高かったのは沖縄県で、4.8%増加した。沖縄県では予算を確保して登録の拡大を推し進めており、これが4種と女子、シニアのカテゴリにおける登録数増につながっていると考えている。

4種では公式大会においてKICKOFFシステムをフル活用しており、チームの事務作業軽減と引き換えに大会参加選手の登録は必須とした。登録者が増加したことによって得た収益で新たな育成大会を実施し、さらなる登録者増につなげる好循環を維持している。

第4種委員会独自のウェブサ

イト「沖縄ジュニアサッカー」や

YouTubeチャンネル「沖縄県ジュ

ニアサッカーチャンネル」を運営

し、大会レポートや動画を配信し

ていることも4種年代の活性化

に影響を与えているといえる。そ

のほかキッズ委員会と連携した

フェスティバルも各地で行い、多

くの子どもたちにサッカーをプ

レーする機会を届けている。

女子に関しては、小学生と中学

生、中学生と高校生の交流フェス

ティバルや年代を問わず参加で

きる交流会などを開催。シニア

についてもKICKOFFシステム

からの登録を義務化し、O-40、

O-50、O-60各年代のリーグ戦

を行っている。選手とチームとも

に登録数は増加傾向にある。

今後は既存の取り組みを発展

させながら、SNSを活用した告

知や活動報告を行い、各種別委員

会との連携や事業に関わる人員の確保などを強化していく方針だ。



●沖縄ジュニアサッカー
(第4種委員会の独自サイト)
<https://futbol.ryukyu/>



■群馬県サッカー協会

保護者の声を聞き、開催情報やチーム情報を届ける

群馬県では幼稚園や保育園での巡回指導のほか、4年前から開催しているJFAユニクロサッカーキッズにおいて4種チームの登録につながる施策を講じている。例えば巡回指導を行った際には、ユニクロサッカーキッズを開催する際にメールで告知して参加を促すほか、保護者からの声に応じて県内全ての4種チームの連絡先を掲載した冊子を配布し、チームへの加入をサポート。また、ユニクロサッカーキッズでは県内の高校男子サッカー部員がスタッフを、高校女子サッカー部員がピッチマネージャーを務めるなど高校生の手を借りて運営している。

一方で、女子の選手登録者数

は減少傾向にある。中学生年代の女子チームが少ないこと

から、普段は中学校の男子サッ

カー部で練習している女子選手

のために月1回、合同練習会を

実施。この練習会は高校生も

参加することができ、部活動や

チームに属していない選手にも

サッカーを続けられる環境をつ

くついている。また、一般女性を対

象にした練習会も月1回、平日

の昼間に開催。参加者は、サッ

カーをしている子どもたちの母親が

多く、子どもがサッカーを続け

る上での悩みや進路などの相談

に乗る場にもなっている。そこ

で得た意見を参考に、2023

年4月にFJAのウェブサイトを

リニューアルした際には、各年

代のチーム情報を掲載したペー

ジを新たに作成した。現在のと

ころは、掲載チーム数はそれほ

ど多くないが今後、増やしてい

特集 フットボールをもっと子どもたちに

ちふれASエルフェン埼玉 (E.L.埼玉)は2024年、飯能市にあるちふれ飯能グラウンドで女性限定のイベント「大きく笑ってつながるEnjoy Ladies Football」を開催した。サッカー経験や年齢を問わず、女性たちが集まってサッカーを楽しむクリニックで、7月の第1回では地域の子どもの母親、クラブ所属選手の母親など約25人が参加。これが好評を博し、11月の第



く予定で、加入チームや練習試合の対戦相手などを探すときに活用できるように整えていく。

ちふれASエルフェン埼玉

お母さんたちが全力で楽しめる機会を創出

2回には約30人が集まった。「この一日は、お母さんたちに思い切り楽しんでもらいたい」というクラブの思いから、子どもたちは別にサッカーを楽しむ時間を設定。そのほか、地元企業の協力を得て屋台を準備するなど親子で楽しめる工夫を凝らしている。

WEリーグのWE ACTION DAYSの活動に加え「TSUDOIプロジェクト」と称したクラブ独自の取り組みも展開。「子供たちの未来に夢や希望を！」をテーマに、トップチームの選手がホームタウンの子どもたちと共に体を動かしたり、トークしたりするなど継続的に交流を図るほか、参加者にはオリジナルデザインのパーカーやTシャツを贈呈し、全員で着用して一体感を醸成している。

ちふれASエルフェン埼玉 (E.L.埼玉)は2024年、飯能市にあるちふれ飯能グラウンドで女性限定のイベント「大きく笑ってつながるEnjoy Ladies Football」を開催した。サッカー経験や年齢を問わず、女性たちが集まってサッカーを楽しむクリニックで、7月の第1回では地域の子どもの母親、クラブ所属選手の母親など約25人が参加。これが好評を博し、11月の第



ちふれASエルフェン埼玉では強化育成担当を務める山郷のぞみさん (JFA普及部会部会員)。Enjoy Ladies Footballは参加者の仲間づくりやクラブのファンを増やす場にもなっている。

では、大型ビジョンでの選手紹介や音楽で演出し、試合後には最優秀選手の発表やヒロインインタビューをするなど、WEリーグの公式戦と同様の体験を得られる機会を提供した。そのほかホームタウン4市とサポータータウン1市で、さまざまな地域活動も行っている。

清水エスパルス

普及含む社会課題に貢献するソーシャルビジネスを展開したパートナーの獲得により、イベントも充実

清水エスパルスのスクールは、ピーク時は4000人ほどいたが、現在は2000人と半減している。クラブは持続可能な活動を実現するため、普及事業を含む社会課題に貢献するソーシャルビジネスを展開したパートナーシップを地元企業と提携。今季は教育事業部だけで9000万円超の協賛金が集まっており、未就学児を対象にした親子サッカー教室や親子運動教室、一般およびシニア年代向けの健康増進プログラムなどの事業を数多く展開している。パートナー企業の協賛によって参加費無料で開催することができており、毎回多くの人々が集まって楽しく体を動かしている。

今年5月には女子選手のプレー機会や試合機会の創出などを目的に「森永乳業株式会社静岡支店 presents SDGs Jクラブガールズサッカーフェスティバル&ジュニアスポーツ栄養講座」を開催。エスパルスとFC東京、横浜F・マリノス、川崎フロンター

レの4クラブの選手63人、エスパルスのダンススクール生40人の総勢100人以上が集い、ダンスによるウォーミングアップやサッカー交流戦、栄養講座などを行った。7月20日のJ1リーグ第24節の試合前には、サッカーズクールとダンススクールに通う小学生女子91人による「ガールズ前座試合イベント」を企画し、試合前のピッチで選手たちが楽しくプレー。こうした活動は、クラブの存在価値を広く多くの人々に知ってもらう機会となり、スクールへの入会やファンの獲得につながる。実際に入会者数は今年6月の時点で昨年よりも



清水エスパルスの今泉幸広ヘッドコーチング (JFA普及部会部会員)。参加者も見ている人も「エスパルスでサッカーをしたい、応援したい」と思ってもらえるようなイベントを企画している。

増加し、取り組みの成果が表れている。

■サンフレッチェ広島

普及部はクラブで最も市民と接する“営業と広報の最前線”

サンフレッチェ広島の普及部は「地域に根差したサンフレッチェであること」を掲げて事業を展開している。クラブスタッフの中でも、とりわけ普及部のコーチたちは地元の人々と接する機会が多い。そのため、自らが「(クラブの)営業と広報の最前線」であるという認識の下、サンフレッチェを地域の文化財とすること、クラブの応援団を増やすことを念頭に置いて活動している。つまり、クラブにとってスクールが「売り場」ならば、スクールコーチは「商品」であるということ。そのコーチ(商品)の価値を高めることが、クラブそのものの価値につながっていくという考えだ。コーチの指導の質はもちろん大切だが、その役割は子どもにサッカーを教えるだけでなく、保護者や地元の人々に安心・安全を届けるため、サッカー以外の場面でも対話することを重視している。

初代GMの今西和男氏は、日本一の育成クラブになることを

目指し、トップチームがJ2に降格して事業費の減額を余儀なくされた時期にも育成の予算を削らず、アカデミー出身の選手や指導者がクラブを支える土台をつくり上げた。「育成とは、人を大切にすること。一流のサッカー選手、コーチである前に立派な社会人であれ」という同氏の言葉は、今もクラブの信念として息づいている。

女子の普及においては、サンフレッチェ広島レジーナが大きな役割を担っている。現在の課題は、広島県内で女子のトレセン活動や女子対象のイベントを開

催すると多くの参加者が集まるが、女子や女性対象のスクールなどの会員数が伸び悩んでいること。こうした状況を受け、レジーナの選手たちは小学校や児童館の訪問、サッカー教室の開催や企業訪問などを積極的に取り組んでおり、2025年は前年度よりも多くの活動を実施した。「女子チームがあることは知っているが試合は見たことがない」という層はまだ多い。地道に活動を続けて存在を知ってもらい、試合づくりやサンフレッチェファミリーの拡大につなげていくことが重要になっている。

■FC東京

サッカーをプレーすることを「習慣化」させる

FC東京の普及部は、コーチや事務スタッフら84人から成り、Jクラブの中でも人員と事業規模においてトップクラスを誇る。普及においては、サッカーの「習慣化」をゴールとして、サッカーを知ってもらう「認知」「サッカーと出合ってもらったための「興味・関心」、実際にプレーしてもらった「参加」と四つのフェーズで活動を展開している。

「興味・関心」では、幼稚園や保育園への巡回指導、小学校でサッカー教室やキャリア教育を行う「スマイルキャラバン」、親が主導して子どもにプレー機会を提供する「親子サッカー」、試合観戦の機会を提供する「ホームゲーム招待施策」などを実施。巡回指導では子どもたちに記念品をプレゼントし、楽しかった思い出をより印象深いものにする工夫をしている。

学校でもサッカーとクラブを身近に感じてもらうよう、運動ドリル「あおあかドリル」(※)を都内9市区の小学1年生および島しょ地域(伊豆諸島と小笠原諸島の9町村)の子どもたちに配布。学校から依頼があればドリルを使ったデモ授業も行っている。

「参加」のフェーズでは、当日でも参加できるイベントの開催やスクール体験、親子サッカー、初心者向けのサッカー教室などを実施。また、自治体が主催するサッカー教室に「指導協力」という形で関わることで、参加費を無料または安価にすることができ、普段は届かない層にもアプローチすることができ。クラブは、物理的、心理的、金銭的なハードルを下げることが「参加しやすさ」を生む



FC東京の中村淳普及部部長。巡回指導では「楽しかった」という経験がより特別なものとして子どもたちに残るようオリジナルグッズもプレゼント

と考えており、そこからさらに習慣化につなげることを重視。そして「習慣化」のフェーズでは、都内27カ所でサッカーやフットサルのスクールを開校するほか、サッカー教室も定期的に実施。いずれもさまざまな年代やレベル、志向に合わせたクラスを用意し、多くの人が成功体験や達成感、満足感、安心感を得られるような環境を提供している。

※学校でも使用しやすいよう、小学校学習指導要領「体づくり運動」の領域、特に低・中学年における「多様な動きをつくる運動(遊び)」の内容に合致するように制作された運動ドリル

クラブと社会、子どもたちをつなぐ 最前線にいる という責任感と情熱を持って



インタビュー
田中順也
FC岐阜 育成普及ディレクター

現役時代は日本、ポルトガルで活躍し、サムライブルー（日本代表）でもプレーした。引退後、当時所属していたFC岐阜でセカンドキャリアをスタートさせ、現在は同クラブの育成普及ディレクターを務める田中順也さんにクラブでの取り組みや普及活動への思いについて聞いた。

○オンライン取材日・2025年8月21日

楽しむことと強くなること
試行錯誤しながら追求を

——2023シーズン終了後に現役を引退されました。セカンドキャリアについてはどのようにお考えでしたか。

田中 ヴィッセル神戸に在籍していた2018年ごろから考え始めました。まずは社会勉強が必要でしたから、いろいろなことにチャレンジしました。その中で形になったのが、妻と立ち上げたファッションプランドです。物販、物流、ブランディングなどを学び、とても良い経験になりました。その後、FC岐阜に移籍していいよ。現役引退が見えてきたときに、あらためて自分のキャリアや強みを最大限に生かせることは何かと考えました。その結果、自分の経験を次世代に伝え、プロとしてプレーできる選手を育てることが最も適した道だという結論に至り

ました。幸いにも当時の岐阜では僕のジュニアユース時代の恩師でもある米田徹さんがアカデミーディレクターをしてらっしゃったので、米田さんの下で指導の勉強をさせていただくことにしました。

——24年1月にFC岐阜のクラブアンバサダーに就任され、翌月にはテクニカルジュブナイルコーチとしてアカデミーでの指導をスタートされました。

田中 振り返れば、僕はサッカーを始めた頃から自由に楽しくプレーさせてもらってきました。サッカーを続けていけば厳しいことやつらいことももちろんありますが、やはりサッカーはボール一つあれば時間を忘れて楽しめる魅力的なスポーツであり、“遊び”なんです。子どもたちが成長していく過程で、そのフェーズによって指導方法や伝えることも変わってきますが、まずは楽しむことを根幹に据えて指導していきたいと考えています。

——指導者ライセンスは？

田中 Aジェネラルライセンスを取得しています。選手時代にBライセンスまで取って、引退して

からAジェネラルを取りました。今はまだ指導経験が浅いのですが、ゆくゆくはProライセンスにチャレンジしたいと思っています。

——引退後すぐに指導者としての活動をスタートされ、今年4月には育成普及ディレクターに就任されました。

田中 米田さんがクラブを離れることになったタイミングで社長を含めてクラブと話し合い、僕がやらせてもらうことになりました。これまで在籍した神戸や柏レイソル、スポルティングCP（ポルトガル）は、アカデミーに投資し、素晴らしい選手を育てていました。岐阜もそういったクラブに早く追い付かなければなりません。われわれのところではプレーしてくれている子どもたちをトップ選手に育てたいという強い思いがあり、指導とマネジメントの両方にチャレンジしたいと考えてました。

——育成普及ディレクターとして普及活動にも力を注がれていると思います。岐阜ではどのような方針で取り組まれているのですか。

田中 この活動に関わるスタッフは、クラブと社会、クラブと子ども

たちをつなぐ最前線にいて、営業的な役割を担っていると思っ
ます。育成普及には、アカデミー
9人、スクール7人、非常勤2人の
スタッフが在籍していますが、そ
れぞれがクラブ愛を持って社会や
子どもたちと接していく。一人で
も多く、将来、このクラブを背負っ
て立つプロの選手を送り出してい
く。そういった情熱を持って活動
していくことが重要だと考えてい
ます。

——具体的な普及活動を教えてく
ださい。

田中 スクール事業を中心にキッ
ズ巡回指導や短期合宿、シヨッピ
ングモールなどのスクール体
験、ホームゲームでのイベントな
どを行っています。メインはス
クール事業ですので、1回1回の
セッションでどれだけ子どもたち
が成長できるかというところを重
視しています。年間での回数は限
られますが、クラブOBの古橋亨
梧選手（現、バーミンガム・シテイ
／イングリランド）や柏木陽介氏ら
とボールを蹴るイベントも開催し
ていて、子どもたちにも喜んで
らっています。



——育成普及ダイレクターとして
クラブからどのようなことを求め
られていますか。

田中 クラブからというよりも
自分自身が目指しているのは、「岐
阜は育成部門が強い」と言われる
ようになること。われわれはまだ
多くのプロ選手を育てられていな
いので、まずは育成部門を強化し
たいと考えています。子どもたち
にサッカーの楽しさを伝えながら
プロとして戦える選手を育ててい
く。楽しむことと強くなること、
両立するのは簡単なことではない

のですが、スタッフは試
行錯誤しながらやって
います。

——日本代表や欧州の
クラブでプレーしたご自
身の経験を生かせるので
はないでしょうか。

田中 そうですね。僕
は、スポルティング時代、
厳しい指導の下、日々ト
レーニングを行っていま
したが、試合に起用され
ませんでした。それで
もその監督の下で半年

間、頑張りが続けたら
徐々に褒められるよう
になり、試合にも出場できるよう
になりました。トップ選手にな
るには、きつくても我慢できる力、
見返してやるといふ強いメンタリ
ティーが欠かせないと分かった一
方で、選手の自尊心を傷つけるよ
うな指導は絶対にしてはならない
とも思いました。僕は、どのよう
な状況でもサッカーを楽しめる選
手を育てたいと思っています。楽
しむ心と耐えて伸びる力、その両
方をどう育んでいくか。難しさを
実感しているところです。

何事も前向きに捉え 楽しむことが大切

——7月24、25日にはJFA主催
の「グラスルーツセミナー」に参加
されました。

田中 J1クラブの取り組みを知
りたいと思っていました。実際、
J1で長くやっているトップクラ
ブの取り組みや考え方は興味深
かったですね。中でもサンフレ
ッチェ広島は、普及の方針や考え
方を分かりやすいキャッチフレーズ
にしている、これはわれわれの育

成普及活動にもすぐに取り入れた
い、と。ほかにも貴重な話をたく
さん聞くことができましたので、
とても有意義なセミナーでした。

——グループディスカッションに
も参加され、岐阜、静岡、愛知、三重
4県のサッカー協会（FA）やク
ラブの関係者と議論されていまし
た。

田中 本場に良い議論ができ、「マ
ルチススポーツ教室」を具体的な施
策として発表しました。岐阜県
FAとは以前から良好な関係が
あり、一緒にマルチススポーツのイベ
ントを行ったこともありますが、
FA主催のストライカーキャンプ
に指導者として参加させてもらっ
たこともあります。各所との連携
も視野に入れながら、今回のディ
スカッションで皆さんから得た学
びを今後の活動に生かしていきた
いと思います。

——「楽しむことを根幹に据えて」
というお話がありました。楽
しむことは選手として成長する
大きな要因になりますか。

田中 選手は試合に出場するた
めに指導者の言っていることを理
解し、その上で自分の特色を出し





高校や特別支援学校などで講演も行っている

©FC GIFU

——プロ選手と指導者を経験され

ていかなければなりません。ですが、成長するためには、時には指導者から厳しいことを言われたり、厳しい課題を課されたりすることもあります。それをどう昇華させ、楽しみに変えられるか。これはトップ選手になるために必要な力だと思えますし、指導者もそういう選手を育てていけないといけない。もちろん、サッカーに限らず社会人としてもそうだと思います。僕自身は幸いにもボールに触れているだけで幸せを感じられるタイプで、これは天性だと思っています(笑)。

ている立場から見ても、成長していく選手にはどのような特徴がありますか。

田中 目の色を変えてサッカーに集中できる子は伸びていきます。年齢が上がるにつれてサッカー以外の遊びなどいろいろな誘惑があったり、指導も厳しくなっていくたりしますが、何があってもサッカーに集中して楽しめるマインドというのは、プロになるために必要な条件だと思っています。もつたないのは、自分なりの結論をすぐに出してしまうこと。まずは何事も前向きに捉えて、トライしてほしいと思います。

クラブの思いを大切にビジョンを明確にする

——育成普及ダイレクターに就任されて約4カ月、意識の変化や新たな発見はありましたか。

田中 スタッフや指導者がクラブ愛を持って取り組める環境を整備していかなくてはならないな、と。そうじゃないと良い選手も育っていきませんから。FC岐阜では、立ち上げ当初から「人を大切にすること」「一流のサッカー選手である前に一流の社会人である

こと」といったマインドが受け継がれています。そういうクラブの思いを大切に、ビジョンを明確にしながら素晴らしい組織をつくっていききたいと思います。

——普及活動の重要性については、どのように捉えていらっしゃるのですか。

田中 普及活動に携わったり、グラスルーツセミナーで学んだりすることによって、その重要性が理解できてきました。われわれの活動はプロ選手の育成や観客動員に直結しますから、育成、営業、広報の最前線に立っているという責任感と情熱を持って活気ある組織にしていかなければならないと思っています。

——今では田中さん同様、元日本代表などのトップ選手がダイレクターやマネジャーの職に就くケースも増えてきました。

田中 プロを経験した人がこういう立場に就いたり、引退後すぐに指導者になったりするケースはまだ少ないので、もつと増えてほしいですね。そのためには、より環境を整備する必要があります。また、年齢や経験ではなく、

指導者を実力で評価することも大切です。そうでなければ健全な競争は生まれませんし、子どもたちに良い指導をすることもできません。

——田中さんは小学生のお子さんがいらっしゃるそうですが、ご自身の子育て経験が現在の活動に生かされているとお感じになることはありませんか。

田中 とても役に立っています。子どもは小学5年生の女の子で、仲が良いんですよ。ところが先日、「部屋を片付けなさい」と叱ったところ、ものすごい反発を食らいまして……。「同じような部屋の散らかり具合でも怒るときと怒らないときがある。考え事をしているとか、仕事が忙しいとか、そのときの気分が変わる。基準がブレている。ママは同じ基準で怒る」と。小学5年生でここまで考えているのか、と驚かされました。これはそのままサッカーの指導にも当てはまりますよね。自分の言動に一貫性があるか見直すきっかけにもなりました。いつも本当に勉強に

なっています。

——最後に、育成普及ダイレクターとしての今後の目標を教えてください。

田中 まだダイレクターとしては半人前ですので、目の前の業務に全力で向き合っているとありますが、より良い組織をつくるために、良いアイデアを生み出していかなければなりません。ですから、まずはダイレクターという仕事への理解を深めて、やらなければならないことを明確にしていきたいと思います。



「FC岐阜は育成部門が強いと言われるようにしたい。まずは東海地域で負けないように」と話す

©FC GIFU

子どもたちの成長における運動機会の重要性

田中雅人教授（愛媛大学）に聞く

大事なのは 子どもたちに楽しむ場を提供し、自由にプレーさせてあげること

運動機会の減少や体力低下などに関わる子どもたちの運動環境や生活習慣について、2017年4月から2021年3月まで愛媛大学教育学部附属幼稚園の園長を、2023年4月から今年3月まで同教育学部附属小学校で校長を務めていた愛媛大学の田中雅人教授（教育学部 学校教育教員養成課程 保健体育）に話を聞いた。

○オンライン取材日・2025年8月25日

影響する価値観と子ども間で進む二極化

——昨年末、文部科学省から2024年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（全国体力テスト）」の結果が公表されました。子どもたちの体力低下について、お聞かせください。

田中 小学生の体力は1985年くらいがピークでした。ですから40年前、現在50歳の方が10歳だった頃がピークで、そこから体力テストの平均値はずっと落ちてきている印象です。現状でいうと、いわゆる運動習慣の二極化が進んでいることが一番の問題だと思っています。調査では平均値を取りまですから全体的に数値は下がっているのですが、例えばスポーツ教室やサッカーであればJクラブのアカデミーやスクールに通っている子どもは運動能力がとても高い。一方、スポーツをしていない子どもたちの体力が極端に落ちていて、それが平均値を引き下げている原因と考えられます。

——スポーツをしている子としていない子では歴然とした差が出ていると。

田中 そうです。そして「運動の適時性」というものがあり、発達段階に応じた運動を行うことで

子どもたちの運動能力を最大限に引き出してあげることが重要です。プレゴールデンエイジといわれる5歳から9歳は神経系の発達が著しい時期、ゴールデンエイジにあたる9歳から12歳はさまざまな動きを習得するのに最適な時期です。

体力にはエネルギー系とサイバネティクス系（神経系）という分け方がありますが、どちらかというときサイバネティクス系の敏しう性や平衡性、協調性（協応性）といった能力、つまり、物を投げたり、キャッチしたり、打ったり、ドリブルしたりという動きをゴールデンエイジまでに経験しておかないと、自分の体をコントロールできなくなるとい問題につながります。

——例えば、転んだときに手をつかず顔から落ちてしまう、スキップができない、体をかがめて靴のひもを結べないといったケースもあると聞きます。実際にそういったことがあるのでしょうか。

田中 ありますね。幼稚園児の場合、まっすぐに走れない、幅跳びをしようとしたときに足を着けずに膝から落ちる、トラックを走るときに曲線上を走れない、転んだときに顔を地面に打ってしまふ、というのは実際にあります。です

から顔のけがが増えている、という話もよく聞きます。走るのが速いといった量的なものより、手と足の運動性、ボールを投げるときに体の使い方といった動きの質を観察することが大切です。やはり外で体を動かしてよく遊んでいる子どもとそうでない子どもとの差は大きく、幼稚園からすでに二極化が始まっています。

小学生に上がるとその差がどんどん開いていく傾向にあります。

——学習意欲と体力低下の関連性についてはいかがですか。

田中 体力と学力が低下している原因は同じだと考えます。学力低下の一つの原因として、学校の授業時間以外でのスクリーンタイム（※1）が増えていることが挙げら

表1 体力合計点の経年変化

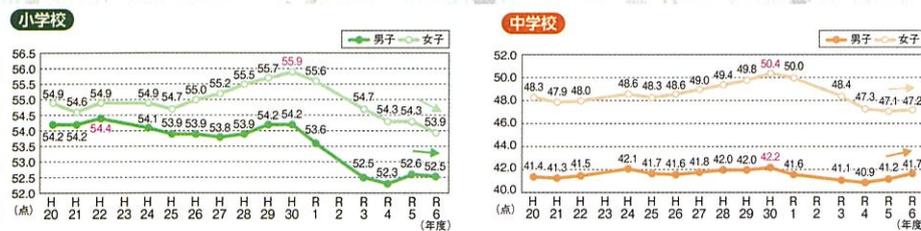
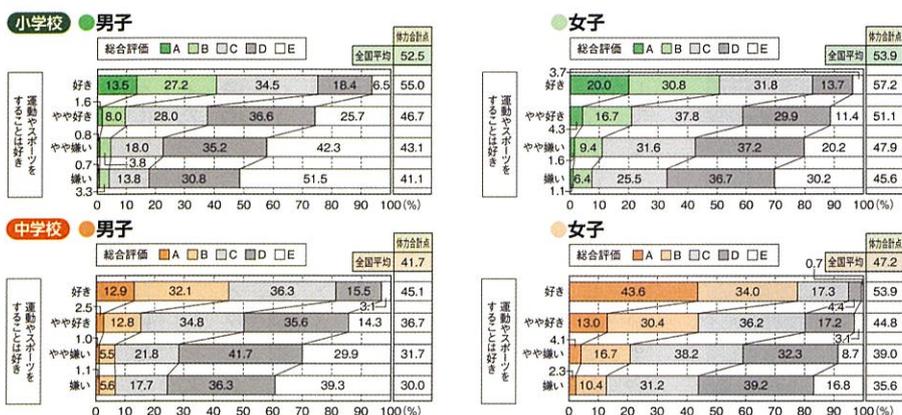


表2 「運動やスポーツをすることは好き」×「総合評価と体力合計点」

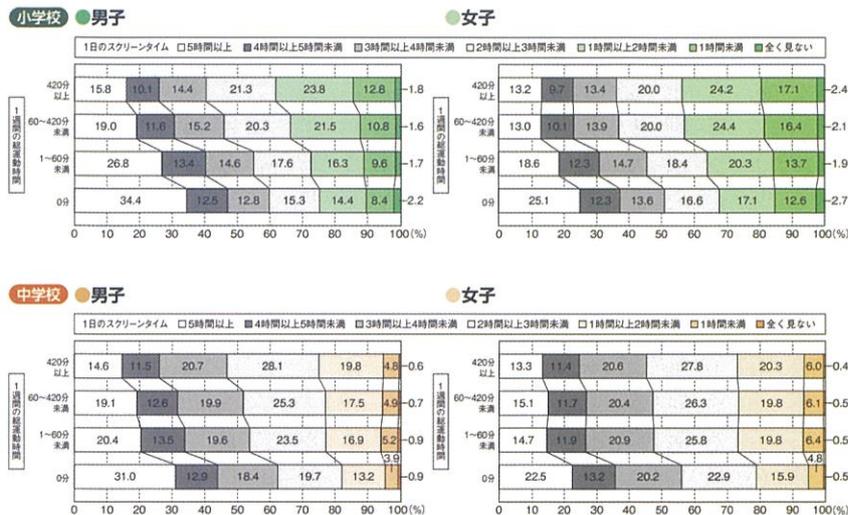


特集 フットボールをもっと子どもたちに

れています。体力低下も同じで、テレビゲームやスマートフォンを多く見ている子どもも外で遊ぶ時間は減りますから、関係性は高いでしょう。そのほか、親の価値観が変わってきているという声もあります。

※1スクリーンタイム
平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等の画面の視聴時間

表3 「1週間の総運動時間」×「1日のスクリーンタイム」



●出典：令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 報告書
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/kodomo/zencyo/1411922_00013.html



親の価値観ですか。

田中 価値観の多様化といいますが、今は、自分の好きなことを伸ばせば良いという考え方が大人や子どもにも浸透していると思うんですね。その中で子どもに影響するのが、親がスポーツとどう関わってきたか、または現在も関わっているかどうかということ。運動に対して親が「楽しい」「面白

い」と思っていないければ、子どもに勧めることはできませんからね。価値観の多様化によって、運動に対する親の考え方も二極化してきている。そう考えると負の連鎖が起きていくのではないかと心配になります。

体を動かして遊ぶそれが本来の楽しさ

——スポーツの楽しさを知らない子どもが増え、今後ますますスポーツ離れが進んでいくということですね。

田中 私自身はスポーツが好きなのでサッカーをしていましたし、今も趣味で登山をしたり、自転車でロングライドしたり、マラソンをしたりするんです。園長をしていたとき、親御さんにそういう話もいろいろとしたんですね。すると、スポーツやアウトドアが好きなお父さんは「私たちもこの山に登ってきたんです」「私もマラソン大会に出ましたよ」と話してくれます。一方で全く関心のない親御さんもいます。

心理学でセルフエフィカシー（自己効力感※2）という言葉があります。幼少期にセルフエフィカシーを強く感じた経験のある人は、その後も行動に対する意欲が高くなると考えます。中学

生、高校生と成長していく中で、スポーツや勉強、音楽など得意分野は分かれていきますが、やはり幼少期にいかにも運動の楽しさを伝えられるか。運動といっても、大切なのは、体を動かして遊ぶことなんですけどね。

※2セルフエフィカシー

ある行動をうまく行うことができるという「自信のこと。人がある行動へのセルフエフィカシーを強く感じていると、その行動を行う可能性が高まると考えられ、セルフエフィカシーを高める主なポイントに「成功体験」や「代理経験」が挙げられる。

——「遊び」と言ったほうが難しではなくなるかもしれません。

田中 日本スポーツ協会が展開している「アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）」にも携わっていて、愛媛県でもよくイベントを開催しています。そこで調査したところ、平日ほどのイベントで子どもたちの運動有能感（自分は運動ができるという自信や、努力すれば運動技能を高められるという統制感）が上がっていることが分かりました。

そして、普段あまり運動をしていない子どものほうが運動有能感はぐっと上がるんですね。子どもたちは、運動遊びをするきっかけさえあれば、体を動かす楽しさを感じられます。ですから、そういう機会を与えてあげることが大人の役割なのだと思います。

日本スポーツ協会「アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）」
<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/index.html>



——ともすれば、大人が子どもからスポーツを楽しむ機会を奪っていることがあるかもしれません。

田中 私は本来、子どもたちは体を動かすことが好きだと思っています。例えば、ACPのイベントでも、早く来た子どもたちはイベント会場の芝生のグラウンドでボールを蹴ったり、寝転がったりして、イベントが始まるまで楽しそうに走り回っているんですね。それが子どもたちの本来の姿なのだ。

愛媛大学では、2006年に総合地域スポーツクラブを設立し（当時、国立大学では初）、コロ

特集 フットボールをもっと子どもたちに

ナ禍前の19年まで大学生が主体となつてさまざまなスポーツ教室を運営していました。私はキッズサッカー教室を担当していたのですが、そこでは「失われた空き地でのボール遊びの復活」をうたい文句にしていました。小学1年生から6年生を対象に週1回、大学のグラウンドで開催したところニーズがとて高く、人数もどんどん増えていきました。サッカーの練習メニューをきっちりやるのではなく、年齢に応じてチーム分けや場のセッティングをして、少しでもルールを設定して、あとは子どもたちに自由にプレーしてもらおう。最初はサッカーもそういう遊びでいいんですよ。そこ



から「サッカーがもっと上手になりたい」という子どもに対して技術指導をしてあげればいんだと思います。

自分たちで楽しむ 子どもの自由を奪わない

——日本サッカー協会(JFA)は現在、他競技と連携してマルチスポーツのイベントを開催しています。そうした場の提供も大事だと思われませんか。

田中 とても大事だと思います。いろいろな運動を経験することが子どもたちには良い刺激になります。スポーツの入り口は何でもよくて、最終的に自分はこれに向いている、これが面白い、と思ったスポーツを見つけるきっかけを与えてあげることが大切です。

——幼稚園や保育園に向いて巡回指導について、元園長としてはいかがでしょう。

田中 私もキッズリーダーチューターの資格を取得したことがあるんですよ(笑)。巡回指導は、非常に良い取り組みです。保育士さんたちも、子どもを外で遊ばせようと試行錯誤していますが、普段とは異なる大人が関わると子どもたちはワクワクしますし、サッカーにはいろいろな動きが含

まれていてルールも分かりやすい。サッカーを通して体を動かす楽しさを伝えられる場だと思います。

——サッカーの楽しさを伝えるとき、どんな関わり方が大事になりますか。

田中 子どもたちを自由にさせてあげることです。指導者が過度に介入せず、環境を整えたらあとは見守る。ストリートサッカーから学ぶことが多いと言われるのも、整いすぎない環境で自由にプレーすることで、自主性や発想力、創造力、対応能力、判断力などが磨かれるからです。放っておいても子どもたちは自分たちでサッカーを楽しむことができますし、自分たちで楽しさを見つけていきます。

あとは、指導者の人間性や雰囲気づくりも大切です。大人が怖い顔をしていると子どもたちは楽しめませんからね。

——サッカーで遊ぶんですね。

田中 そうです。今の子どもたちのサッカー環境は整理されすぎているかもしれません。それでは遊びの余地がなくなってしまうます。あと、私が子どもの頃は、学年に関係なく、みんなで空き地や公園で遊んだものです。今はいろいろ

るな年齢の子どもと一緒に遊ぶ機会も減っています。

——年齢の異なる子ども同士で遊ぶことは成長において大切だ。

田中 非認知能力といって、主体性や協調性、コミュニケーション能力、柔軟性、社会性、自制心などが社会に必要な能力を高めるためにも大切です。年齢の異なる集団の中で、上の子が下の子に役割を与えたり、能力に応じてチームを分けたり、ルールを変えたり、反対に下の子は上の子たちを観察して対応を学び、それがまた下の年代につながっていく。小学校で学年を縦割りにして異学年交流をしているのも、非認知能力を育むのに役立っています。

——JFAは「Japan's Way」を通してサッカーを楽しむ大切さを発信し、「競技力向上」と「ウェルビーイング(幸福感)」の相乗効果を、サッカーで幸せな国になることを目指しています。

田中 体育科・保健体育科の学習指導要領にも「豊かなスポーツライフの実現」という言葉があったり、学校体育の授業を通して、生涯にわたって心身の健康を保持・増進し、将来豊かなスポーツライフを送るための基礎づくりを重視しています。

スポーツは、ウェルビーイングを達成するための一つの手段です。子ども時代のスポーツ経験は、大人になっても持ち越すことが多く、いかに良い経験をさせてあげられるかがとても重要です。生涯にわたってスポーツを楽しめる社会を、サッカー界から実現していきたいといいですね。



サッカー活動中の落雷に注意しましょう!

温暖化や環境変化の影響に伴い、全国での落雷件数が増加しています。屋外でサッカー活動をする際は、落雷による事故防止対策に努めましょう。

原則①: 危険・兆候が確認されたら公式戦・練習にかかわらず躊躇なく中止すること。

原則②: 周辺で雷注意報・兆候がある場合、専門的なウェブサイトで常時天候情報を確認すること。

●サッカー活動中における落雷事故防止対策について
https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20240523_02.pdf



選手・指導者・審判登録証の表示は JFA公式アプリ「JFA Passport」へ

2018年から運用してきた「JFA KICKOFF」アプリ(iOS/Android)を、2024年12月をもって終了しました(PC版のKICKOFFシステムに仕様変更はありません)。これまで「JFA KICKOFF」アプリで提供していたJFA登録証(選手証/監督証、指導者証、審判証)やチーム登録選手一覧の表示機能等はJFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できるようになっています。

「JFA KICKOFF」アプリで提供していた以下サービスは、JFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できます。

- ・登録証の表示(選手証、監督証、審判証、指導者ライセンス証)
- ・登録選手一覧の表示 ※チーム登録責任者および責任者代理のみ使用可
- ・お知らせ(あなたへのメッセージ)の表示
- ・その他(顔写真登録、パスワード設定、プッシュ通知など)



詳細はこちら▶

2025 Jリーグレフェリングスタンダードの映像を公開

JFA審判委員会は、Jリーグと共に「2025 Jリーグレフェリングスタンダード」の映像を作成した。映像には、選手に求めるプレー、昨シーズンの事例にFIFAの競技規則に基づく解説などが加えられている。

- ①選手生命を脅かすチャレンジ ②ハンドの反則
③オフサイド“インパクト” ④競技者の安全への対応

●2025 Jリーグレフェリングスタンダード
https://youtu.be/JaZIOJ0dfwo?si=3z_v7e8-GfMDI3UJ



▼ルールに関する情報はこちら
競技規則 <https://www.jfa.jp/laws/>



栄養ガイドライン～選手における食事の重要性

JFAは2017年11月、医学委員会に栄養サポート部会を発足し、2018年8月にJFAとして統一的な栄養に関する栄養ガイドラインを策定した。

同ガイドラインでは、基礎的な食事や栄養の知識をベースに、サッカーをする選手、それを支える指導者や保護者にとって分かりやすく、より実践的な情報を伝えている。

●JFA栄養ガイドライン
<https://www.jfa.jp/medical/a08.html>



スモールサイドゲームガイドライン

JFA技術委員会は、小学校4年生以下の年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFAスモールサイドゲームガイドライン」を作成。「小学校1～4年生のゲーム環境整備」の一環としてガイドラインの普及に取り組んでいる。

●内容

- 1.はじめに
- 2.ガイドラインの基本的な考え方
- 3.各年代での心身の特性とゲーム
- 4.ピッチマネージャーの配置・役割
- 5.8人制との比較
- 6.スモールサイドゲームガイドラインに基づいた事業開催
- 7.指導者の関わり的重要性

https://www.jfa.jp/coach/guidelines_smallsidegame.html



JFA育成年代でのヘディング習得のためのガイドライン(幼児期～U-15)

JFAは、ヘディングを「禁止」するのではなく、正しく恐れることによって適切な方法によるヘディングの習得を目指している。そこで幼児期において段階的にヘディングを習得するためのガイドラインを作成。子どもの安全を守るために、全ての指導者がこのガイドラインを理解しておきたい。なお、ヘディングに関するリスクについては医・科学研究の報告を十分にフォローし、本ガイドラインも随時アップデートしていく。

https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading_guidelines.pdf



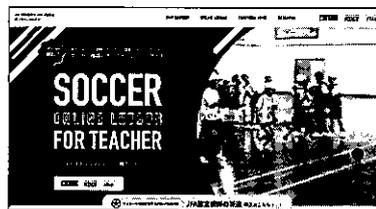
小学校体育サポート JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT

～教員向けのオンラインレッスンサイトを公開!講師派遣も受け付け中

JFAとKDDIは、「小学校体育サポート JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT」の一環として、教員向けに動画でサッカーの授業を学ぶことのできるオンラインレッスンサイトを公開している。

教員の体育授業の準備における負担を軽減するため、これまでJFAが対面でのみ実施していた小学校体育サポート研修会を初めて動画としてまとめたもので小学校の全学年に対応している。参加費は無料。

また、小学校体育サポート研修会の開催および講師の派遣も引き続き、申し込みを受け付けている。



●JFA学校体育サッカー指導のオンラインレッスン
<https://soccerlesson.jfa.jp/>



■JFA小学校体育サポート研修会 2025年度実施校の募集を開始!
<https://www.jfa.jp/news/00034935/>



ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「あたりき姿」から逆算してそこに至る道筋を示した。Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

●構成

- 1.プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
- 2.フットボール・カルチャーの創造
- 3.望まれる選手像とは
- 4.プレービジョン
- 5.将来に向けた日本のユース育成
- 6.フィジカルフィットネスの未来
- 7.将来のサッカーコーチとは?
- 8.フットボール・ファミリーの拡大



●デジタルブック(PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>
※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される

●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>



平和の大切さを語り継ぎ、未来につなげる責任がある

地域に根差したクラブの活動を紹介する短期連載。第2回は、2025 Jリーグシャレン!アウォーズでメディア賞を受賞したV・ファーレン長崎の取り組み「被爆地のプロスポーツクラブ（Jリーグクラブ・B.LEAGUEクラブ）として、自治体・高校生とともに日本全国、世界、そして次世代へと発信する平和へのメッセージ」について、広報担当の野本蓮さんに話を聞いた。 ○オンライン取材日・2025年8月22日



平和祈念マッチではファン・サポーターと共に平和へのメッセージを発信（写真は2024年8月3日より）

長崎を最後の被爆地に 平和へのメッセージ

——被爆地のJクラブとして大切にされていることを教えてください。

野本 われわれは「正々道々ナガサキから、世界へ」をクラブのブランドスローガンに掲げています。最後の被爆地・長崎のクラブとして、世界に平和のメッセージを届けていく、という思いが込められた言葉です。その責任があると考え、いろいろな活動を通じて平和を発信しています。

——活動の一環として2019年から「平和学習」を実施されています。

野本 長崎では原爆が投下された8月9日を「県民祈りの日」と定めていて、クラブは18年から、それに近い日に行われるホームゲームを「平和祈念マッチ」と銘打ち、長崎から全国、そして世界に平和を発信する祭典として開催しているんです。平和祈念マッチにどのような気持ちで臨むのか、選手やスタッフみんなの共通認識を高めるため、試合のおよそ1カ月前に実施しているのが「平和学習」です。チームの顔触れもシーズンごとに変わりますので、クラブのみんなが長崎で起きたことを知り、このクラブに所属する意味を理解し、平和の尊さを実感するために19年から毎年行っています。

——具体的にどのようなことを行っているのでしょうか。

野本 内容は毎年少し変えているのですが、昨年は7月22日に同じグループ会社（所属するB1リーグ（男子プロバスケットボール）の長崎ヴェルカの選手や高校生平和大使の皆さん、長崎市役所の職員の皆さん、そしてわれわれトップチームの選手・スタッフら約60人でスポーツと平和のつながりやスポーツを通してどう平和のメッセージを発信できるのかなど、いま自分たちに何ができるかを考えるグループワークを行い、アイデアを出し合いました。

今年是被爆80年という年でもありましたので、7月9日に代表取締役社長の田河毅宜、トップチームの選手やスタッフら約50人で原爆資料館を訪れ、そこで昨年ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者

団体協議会代表委員の田中重光さんに講和していただき、高校生平和大使の案内で資料館を見学するなど理解を深めました。平和学習の後は必ず、平和公園の平和祈念像に献花しています。その際、全員で写真を振り、クラブの活動とともにSNSで発信することも大切に行っています。

——長崎ヴェルカや高校生平和大使、長崎市職員の皆さんと一緒に取り組まれているんですね。

野本 長崎ヴェルカさんと合同で実施したのは、2022年に続いて2回目ですね。それ以外はそれぞれで平和学習を行っています。長崎ヴェルカさんにはアメリカ国籍の選手が多く在籍していますので、彼らはどう受け取るかにも配慮して伝えるようにしています。今年7月にレアル・ソシエダ（スペイン）が親善試合で来日した際、原爆資料館を訪れてくれました。クラブから高校生平和大使にお願いして、そこでも案内役を務めてもらいました。

——昨年のグループワークで出たアイデアから実際に取り組まれたことはあるのですか。

野本 昨年は、平和をアピールする横断幕の掲出やゴールパフォーマンスなどの案が出ました。そのまま実現することはできなかったのですが、横断幕のアイデアからヒントを得て、昨年8月のホームゲームでは、平和祈念ユニフォーム（夏季限定で着用）と同じデザインの布を用意してそこに来場



©VWN
昨年の平和学習では、長崎ヴェルカ、高校生平和大使らとグループワークを実施。プロスポーツ選手、高校生それぞれの立場でアイデアを出し合った

者に平和に対するメッセージを書いてもらい、試合前にゲートフラッグとして掲げてもらいました。あとは、平和へのメッセージが込められたアイテムを持ち帰って思いをつなげていってほしいというアイデアもありましたので、昨年は平和祈念ユニフォームと同じ柄で作成できるペンケースを企画して、来場者にキットを配布しました。

——選手たちの取り組み姿勢はいかがですか。

野本 みんな真剣に取り組んでいます。平和学習では、高校生平和大使に質問する場面も見られますし、クラブの思いをしっかりとくみ取り、自身でも考え、平和に関

心を持つてアクションしています。

今年には平和祈念活動のキーワードとして「#長崎を最後の被爆地に」というハッシュタグをつけて、一人でも多くの人に思いが届くようにとクラブ全体で発信してきました。そして、今年の平和祈念マッチの開催日がちょうど「県民祈りの日」の8月9日でしたので、原爆が投下された時間に合わせてSNSでメッセージを発信したり、試合後に発信したりする選手もいました。やはり選手たちには発信力や影響力がありますから、そうした行動が大きな反響を呼んでいると感じています。

「ナガサキから、世界へ」
もつと発信力のある存在に

——昨年の平和学習を「2025 Jリーグシャレン・アウォーズ」にエントリーされ、メディア賞を受賞されました。

野本 2025年は被爆80年を迎えるタイミングであり、長崎で起きたことを世界に発信していく重要な年だと考え、アウォーズにエントリーしました。これまでの活動が評価されての受賞だと思っています。われわれの平和祈念活動を多くの人に知ってもらうきっかけにもなり、平和を広げていくことに微力ながら貢献できているのかなど。受賞はクラブとしてもうれしいですね。

——一緒に取り組まれた皆さんの反応は？

野本 長崎ヴェルカさんからは「平和活動に取り組み立場として素直にありがたい」と。今年参加した高校生平和大使からも今後も活動を継続していきたいという声ももらいました。長崎ヴェルカさんは近い存在でもありますし、サッカーとバスケットボールそれぞれで活動する長崎のクラブとして、より関わりを持って発信できることを増やしていけたらと考えています。

——発信を大事にされているんですね。

野本 「ナガサキから、世界へ」をもつともつと形にしていきたいと思っています。国内はもちろんです。「#長崎を最後の被爆地に」するためにも、国外への発信をさらに強化していきたい。そのためにまずは国内でできること、JリーグやJクラブ、サッカーファミリーと連携してできることを積み重ね、世界に対して「平和」を強く発信していけるクラブになっていくことが大切になってきます。

——野本さんも長崎のご出身でいらっしやると。

野本 そうです。私自身、長崎で育ち、子どもの頃は夏休みも8月9日は登校日でした。そこで語り部の人たちから平和について学び、11時2分に黙とうを捧げてきました。長崎の人間としてそうした経験をし、今はV・ファーレン長崎に身を置いているからこそ、クラブを通して世界に平和への願いを届けていかなければならぬと強く思っています。



——クラブとして、長崎の地にとってどのような存在でありたいと思われませんか。

野本 V・ファーレン長崎は、長崎においては非常に拡散力のある集団です。だからこそ、クラブが中心となって平和を発信し、周囲を動かしていく。そういう存在であるべきだと思っていますし、われわれにはその責任があります。影響を及ぼす力があることを自覚しながら地域と連携して平和のために活動し、世界に発信し続けていく。そして、「長崎で平和を発信する団体」といえばV・ファーレン長崎」と思われるような存在になっしていきたいと考えています。

V・ファーレン長崎「平和祈念活動」
<https://www.v-varen.com/peace>



My Coaching



浅野智久さん
(malva代表)

選手たちのトライする姿勢を 尊重する



強豪を次々と破り、バーモントカップの頂点に立った。
選手たちの自主性を育んだ結果として優勝がついてきた

ぶっついて、28歳のときに「もう一度サッカーに携わろう」と思い、2000年に出身地である茨城県水戸市にスクールを立ち上げました。仲間たちが集まって楽しさと学びを提供できる空間をつくり、そこに集まってくれる選手たちの才能を育てたいという思いが根底にあつたんです。

——クラブとして、どのような理念を掲げているのでしょうか。

浅野 「成長・素直・感謝」が社訓であり、理念でもあります。常に子どもたちの成長を考えながら、私たち大人、指導者も成長し続け、学び続けようと考えています。サッカーは仲間がいなければできないものですし、相手がいなければ試合もできません。サッカーを通じたいろいろな出会いに感謝することが前提で、うまくいったこと、いかなかったことに対して素直な気持ちで対応したい。そのように考えています。

——指導者として大切にされていることを教えてください。

空間をつくり、そこに集まってくれる選手たちの才能を育てたいという思いが根底にあつたんです。

——サッカー界から離れて別の業界に行き、20代後半でスクールを立ち上げるといふのは珍しいと思います。

浅野 若かったこともあって根拠のない自信があつたんです。でも、最初はうまくいきませんでした。スクール生がなかなか集まらず、1期生はたった4人でした。設立から2年間はその子たちとトレーニングをしていました。その中で、スクールを運営するためにはある程度の実績を残し、周囲に認めてもらう必要

オンライン取材日・2025年8月27日

今夏、マルバ千葉fcをJFAバーモントカップ第35回全日本U-12フットサル選手権大会の頂点に導いた。全国各地でmalvaサッカースクールを展開する浅野智久さんに、自身の指導ポリシーなどを聞いた。

100人いれば 100の長所がある

——指導者になつたきっかけ、malvaサッカースクールを設立した経緯を教えてください。

浅野 元々、サッカーをプレーしていて、国内だけでなくブラジルやイタリア、イスなどでプロになる道を模索し、フットサル日本代表に選出されたこともあ

るのですが(後に辞退)、25歳のときにけがで第一線から退くことになりました。それ以降は全く異なる仕事をしたいと思って音楽業界に入り、あるレコード会社のA&R(アーティストの発掘や育成、楽曲制作のディレクション、PR戦略の立案やブランディングなど、包括的にサポートする役割)として多くのアーティストの企画に携わりました。しかし、サッカーへの情熱はずっとくす

——指導者として大切にされていることを教えてください。

浅野 選手たちの長所を見抜き、彼らがトライしようとしていることを尊重するようにしています。「こういうプレーをしてほしい」という思いはありますし、選手が指導者の要求に忠実に応えてくれば、毎年、日本一に近いうところまでいけるのではないかと、いう思いもあります。しかし、それよりも選手たちがいつまでも楽しくサッカーをすること、人生を楽しくむことのほうが大切です。自分の得意分野を周りの人たちに認めてもらい、それで人助けをできるようになるほうが探究心を高めることにつながると思います。そのような考えから、子どもたち自身が気づいていない長所を指導者が見つけ、トライする姿勢を尊重しています。

狭いエリアでのスペースの受け方や使い方、ボールの運び方を学びました。フットサルは狭いエリアでプレーすることが多いですし、相手にパスコースを切られ、スペースを消されたときにどこから攻めれば有効かを学びましたので、非常に有意義な出会いでした。

トカッパ第35回全日本U-12フットサル選手権大会では、マルバ千葉FCが優勝しました。あらためて、どんな大会でしたか。

彼らが自発的にポジションや役割などを決めて戦い続けることを積み重ねた結果として優勝できたので、純粹に選手たちがすごかったのだと思います。

それぞれの分野で活躍できる人材を

——maivaは全国各地にスクールがあり、指導内容やコンセプトを統一させるのが難しい部分があると思いますが、どのようにすり合わせていらつしやるのでしょうか。

大会全体を通して異なる特徴を持つチームと対戦できたことで、チームとして多くの学びを得ました。ロングボールを蹴ってくるチームもあれば、ドリブルで仕掛けてくるチームもあり、決勝で対戦したFCトリアネーロ町田(東京)のように高度な戦術を駆使してくるチームもありました。そういったチームと対戦したことは勉強になりましたし、試合の強度もとても高かったので、選手たちのレベルアップにつながりました。

——今後、指導者として目指すところや夢を教えてください。

浅野 バロンドールを獲得するような選手を育てたいですね。maivaからはこれまでに、大津祐樹選手(元サッカー日本代表)や上田綺世選手(現、フェイエノールト/オランダ)、古賀太陽選手(現、柏レイソル)など、サムライブルー(日本代表)で活躍するような選手が輩立っています。彼らがトップ・オブ・トップで奮闘しているからこそ、このクラブからさらに上のレベルに行ける選手が出てきそうな感覚がありますし、私自身、そこに携わりたいですね。また、教え子たちにはサッカー以外でも構わないので、自分が興味を持った分野で、バロンドールを目指してほしいと願っています。それは研究者として何らかの賞を受賞することかもしれませんし、ビジネスを興して世界企業に成長させることかもしれません。サッカーは優秀な人材を育成するスポーツだと信じているので、そういったところにも関わっていきたいですね。

——影響を受けた指導者はいらつしやいますか。

浅野 コーチの大半がmaivaのOBですので、コンセプト自体は指導者同士で共有できています。また、トレーニングゲームニューや年間の指導スケジュールは月に1、2回のミーティングを実施して確認し合っていますし、指導者研修も定期的に行っています。民間の大会と一緒にしたり、トレーニングキャンプなどさまざまなイベントを開催したりする中で、子どもたちにもどのような声かけをすればいいのかをすり合わせるよう心掛けています。

——特にどのような部分で成長を実感されましたか。

浅野 われわれはチームとしての約束事が少なく、ポジションもフリーでやっているのですが、選手たちが自分で判断して立ち位置を決めて、相手の戦い方に対応しながらプレーしていました。こちらが選手のポジションを設定したほうが勝利につながりやすいとは思いますが、大人になると状況に応じて自分で判断し、行動する能力が求められると思うので、今大会も選手たちの自主性に委ねました。大人にコントロールされ、何かを決められた中で行動するのではなく、

それが、あまりいないんですよね。音楽業界に進んだとき、自分にも長所があると気づくことができ、それを大切にしていかなければならないと学びました。それはつまり100人いれば100の、1万人いれば1万の長所があるということですので、それを子どもたちに伝えられればと考えています。サッカーでは、イタリアでチエーザレ・プランデッリさん(元イタリア代表監督)に

——8月に開催されたJFAバーモン

8月に開催されたJFAバーモン

8月に開催されたJFAバーモン

多くの仲間と一丸になって
「香川県から日本代表選手を！」

各都道府県サッカー協会（FA）で配置が進む「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第25回は、香川県サッカー協会の児島健二FAコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日・2025年8月25日

香川県の強みや課題を把握し
さらなる発展を目指す

——2023年4月に香川県サッカー協会（FA）のFAコーチに就任しました。その経緯を教えてください。

児島 私 は香川県生まれで、県外で過ごし、地元に戻ってからは中学校や高校でサッカーの指導をしていました。中学生を指導していた18年ほど前、3種のトレセンを手伝い始め、香川県FAの事業に関わるようになりました。その後、トレセンや指導者養成をサポートする中で、高松大学サッカー部のコーチに就任した17年にユースダイレクターを務めることになりました。私自身は、大学で指導後に3種のクラブの面倒を見るようになりま

したが、「ユースダイレクターも務めているし、香川県のサッカーをよく知っているだろう」とFAコーチとユースダイレクターを兼任する

話をいただき、2年前に就任しました。

——どのようなことから始められたのでしょうか。

児島 専任になって動きやすくなったので、1年目はトレセンや各種大会、指導者養成事業などさまざまな現場に足を運びました。ユースダイレクターとして育成年代の現状を理解していたつもりでしたが、自分のチームの指導もしていましたので把握できていない部分があったと感じました。そして、香川県の強みや課題も見えてきました。

——香川県の強みや課題とは？

児島 強みは情熱のある指導者が多くいることです。例えば、キッズの巡回指導など普及活動でも、子どもたちを楽しませることができ

指導者が多く、それもある前向きな選手が多いのが特徴ですね。また香川県は「日本一狭い県」で、高速道路を使って端から端まで1時間ほどですので、移動が負担にならないのは良いところだと思っています。課題は指導者数が少ないこと、選手や指導者に適切な情報が行き渡っていないことが挙げられます。つまり、日常

から選手に良い働き掛けができておらず、香川県として求めたいサッカーの部分にもなかなか踏み込めていませんでした。

——課題解決に向けてどう取り組まれているのでしょうか。

児島 2年目以降はいろいろな変えていこうと協力を呼び掛ける中で、指導者養成講習会は参加しやすい形にして指導者ライセンス保持者を増やしていこうと。それにより、選手や指導者にも有益な情報を伝え、指導者が相談し合える環境をつくっているところです。

また、21年と22年に私が国民スポーツ大会の少年男子チームの監督を務めた際、技術委員長と二緒に「香川県として目指しているくもの」というコンセプトを作りました。特別な戦術を志向するのではなく、ハードワークやクオリティ、判断の部分など当たり前のことを実践しようというものです。それを多くの場に伝達し、指導者と共有しています。加えて、私が日本サッカー協会（JFA）のJFAエリートプログラムや指導者養成関連で学んだことなども積極的に伝えていきます。

技術委員会として目指

していることは？

児島 「香川県から日本代表選手を」という目標を掲げています。それを実現するために、「選手を引き上げる」「指導者を引き上げる」の二つを重点的に取り組むことが私のミッションです。常に目標から逆算し、香川県のサッカーを発展させるために取り組んでいます。

トレセンで刺激を与えつつ
チームへの巡回指導も行う

——トレセンはどのような形で実施していますか。

児島 県トレセンも地区トレセンもU-11〜16でそれぞれ実施しています。地区トレセンはU-11〜



香川県FAでユースダイレクター兼FAコーチを務める児島コーチ



トレセン活動も充実しているが、「限られた選手が対象になりがちで、日常を変えるにはチームの指導者と選手にアプローチすべき」と児島コーチ。トレセンで多くの選手に刺激を与えつつ、チームへの巡回指導にも取り組む

15が2地区、U-16は3地区に分けています。その下のU-10はトレセンという形ではないのですが、普及の目的もあって4地区で選手を集め、トレセンと同じ日程で活動しています。

トレセンは県内のトップレベル

の選手を引き上げる場であると同時に、可能性を秘めた選手に刺激を与える場です。トレセンスタッフには、本業や自チームの指導がある中で本当に感謝しています。その一方で、トレセンや育成年代の選手に関わる以上は同じ目標を持って指導してほしいと伝えています。

——そうした意向はトレセンスタッフの間に浸透してきているのでしょうか。

児島 3種年代は、私と一緒にやっていた仲間がほとんどですので、その意図を理解してくれています。また、担当カテゴリのスタッフ間でチャットグループをつくり、トレセンの数日前にはチーフコーチが前回の課題を踏まえてトレーニン

グメニューを作成し、それを共有しています。トレセンの前には早めに集まってスタッフ間で事前の打ち合わせもしますし、トレーニング後の振り返りも行っています。昨年からは始めましたが、今はそれが当たり前になっていて、トレセン

を視察した際は私もそこに入っていて、デイスカッションをしています。現在は、各チーフコーチから「選手

の評価が難しい」という声があるため、「多くの指導者でいろいろな見方をしよう」「偏見をなくそう」とアドバイスしています。

——改善されたいところはどこあったことですか。

児島 一回のトレセンで選手を上げさせることはできませんので、「このままではいけない」「この強度でプレーする」といった日常では味わえない刺激を与える場にしていくこと。その上で、日常を変えていくことが大事だと考えています。ですので、チームへの巡回指導を行い、直接アプローチすることに取り組んでいます。

——チームへの巡回指導で気を付けていることは何でしょうか。

児島 これまでは「巡回指導を希望される場合は言ってください」と待ちの姿勢でしたが、試合会場に顔を出して、チームの指導者に「今度練習に行かせてください」と声を掛けて出向くようにしています。そこでは「こうした方が良いのではないのでしょうか」といったアプローチではなく、「選手が楽しくプレーしていますね」「すこく声が出

ていますね」などポジティブな意見を伝えるようにしています。あくまで、そのチームを良くするため、レベルアップするための働き掛けなので、対話を重視しています。また、選手と話す機会も設け、いろいろな選手とざっくばらんに話をします。すると、相談をしてくれたり、試合会場で会った時に話し掛けてくれたりします。何かを落とし込むというより、一緒に考える方が私には合っていると実感します。

指導者をさらに引き上げるために

——指導者養成講習会は、参加しやすいように改善されたか。

児島 基本的にBライセンスコーチ養成講習会は2年に1回、C・Dライセンスコーチ養成講習会は年間で3〜4コース開催しています。平日は仕事、土日の昼は自チームの練習や試合があつて参加が難しいといった声がありました。そこで今年度はCライセンス養成講習会を土日の夜間コースのみ(2コース)にしました。また、Dライセンス養成講習会も事前に4コース分の日程を示して、「くくり募集」という形にし、参加者が自由にコースを選べるようにしています。

——指導者養成講習会で大事にされていることは？

児島 参加者に寄り添うことです。置かれている環境やバックボーン、プレー経験も異なりますので、それぞれに合った形で伝達することを意識しています。また、Bライセンス養成講習会では「1週の学習」の期間に、参加者の指導現場に足を運び、チームの課題や悩みを聞く機会なども設けています。

——女子へのアプローチについてはいかがでしょうか。

児島 時間を見つけて、女子の活動にも顔を出していますが、年々レベルが上がっているのを実感しています。ただその中で、女性指導者がまだまだ少ない。そこで女子委員会や4種委員会を中心に実施している小学4〜6年生対象の女子スクール活動で、女性指導者に講習会への参加を呼び掛けています。Bライセンス養成講習会には、女性指導者が23年に3人、今年も1人参加してくれています。さらに多くの女性指導者を養成すべく、女子の技術委員長とも連携していきたいと考えています。

——最後に今後の目標をお願いします。

児島 目標である「香川県から日

本代表選手を」に向けて、一人でも多くのプロ選手を輩出していきたいと思っています。そのために仲間を増やし、同じ方向を向いて一丸となって進んでいければと考えています。そして、選手や指導者に寄り添って、一緒に成長していきたい。生涯サッカーを好きでいてくれるようなアプローチも大事です。選手たちが香川県で育ったことに対して感謝を抱けるような活動も地道に続けていきたいです。

また、「四国は一つ」と掲げて、四国4県で切磋琢磨しながら活動を進めています。四国から良い選手を、そのために香川県から良い選手を輩出していければと思います。



児島コーチは「選手や指導者がサッカーに対して良いイメージを持つことが大事」と話す。指導者養成講習会でも指導者に寄り添うことを意識している

釜本邦茂さん逝去のニュースを知り、最も強く感じたのは、「もっと歴史を知ってもらわなければならぬ」ということでした。いろいろな人から「釜本さんって、いったいどんな選手だったの?」という質問を受けたからです。

2012年にオリンピック・ロンドン大会の取材の最中、報道関係者のバスで、日本のテレビキャスターとしてきていた人気がテレビに会ったことがあります。場所は北イングランドのニューカッスル。オリンピックのサッカースタジアム、セント・ペール・パークは、いくつもの都市が会場となります。

「案内には、報道入回は『ジャンキー・ミルバイン・スタジアム』と書いてあるけど、『ジャンキー・ミルバイン』って誰のこと?」

「そうですね?」
その質問に付き添いのテレビ局員が答えられなかったもので、ついおせっかいをしてしまいました。

「ニューカッスル・ユナイテッドのレジエントですよ」

ジャンキー・ミルバインは1940年代から50年代にかけてニューカッスルで353試合に出場してクラブ最多記録の177ゴールを挙げ、3回のFAカップ優勝に導きました。日本でもよく知られるイングランド

いつも心に

連載 Vol.149

大住良之
(サッカージャーナリスト)

リスペクト

RESPECT
大切に思うこと

歴史を語り継ごう

代表ポピー・チャイルドンの叔父でもあります。

彼の死の前年、1987年に、スタジアムの大改装を終えたニューカッスル・ユナイテッドは、西側のスタンド、すなわちメインスタンドを、「ジャンキー・ミルバイン・スタジアム」と名づけました。そして死後にはスタジアム前だけでなく、町のあちこちに彼の銅像が建てられています。

ニューカッスルのサポーターは、そうした施設や銅像の前を通りかかると、ミルバインがどんな選手で、どんなゴールを決めてチームを栄光に導いたかなど、子どもたちに話して聞かせたでしょう。そしてその子どもたちは、自分の子どもに同じ話を聞かせ続けているでしょう。

そうした例は、世界の各地で見ることが出来ます。そして10代と思しきファンが半世紀も前のスター選手の物語を、日本からきたジャーナリストに、自分が見てきたように説明してくれるのです。そのように「歴史」を語り継ぐことで、レジエントたちはいつまでも生き、クラブだけでなく、町や地域の誇りとなっていくのです。

日本という国、日本人という人々を見ていると、ときおり「今日」と「明日」にはかり意識が向き、「過去を軽んじる傾向がある

るように感じることがあります。

「温故知新」という言葉は、歴史を知って、いまどう生きればいいのかを知るといふような意味ですが、そうした「実利」がなくても、古いことを知るのには価値があるのではないのでしょうか。歴史を知ることが、先人たちの業績や努力を知ることにはつながりません。そしてそれが現代を生きる自分たちにもつながっているのを理解すれば、自分たち自身への「誇り」にもなるはずだからです。

日本サッカー協会(JFA)には、殿堂があり、これまで日本サッカーの発展に努力、奇与されてきた人々を顕彰しています。それは、「歴史を知って、日本のサッカーに誇りをもってもらいたい」という、現代を生きる人々への願いから生まれてきたのだと、私はとらえています。

当然、釜本さんは、2005年に「殿堂」が始められたときに最初に選ばれた一人でした。

「早稲田大学時代は4年連続関東大学リーグの得点王。JSL(ヤンマー)では、251試合出場202得点を記録。1968年取組賞受賞、得点王7回、アシスト王3回、年間優秀

11人賞14回、年間最優秀選手賞7回受賞。様々な前人未踏の記録を残す(田中)「日本サッカー殿堂(バーン)より」

この記述だけでも十分驚くべきものですが、私たちサッカーを愛する大人は、もっと具体的なエピソードをもっと日常的

1968年のメキシコオリンピックでは7得点を挙げ、アジア人初の得点王に輝くなど、現役時代は生粋のストライカーとして日本サッカーに数々の功績を残した釜本さん。引退後は後進の育成にも力を注いだ



に若い人に話し、世代を超えて語り継いでいってもらう努力を払う必要があると思うのです。釜本さんの話だけでなく、日本のサッカーの歴史をより深く知ってもらう努力が、釜本さんに對する一番の「はなむけ」になるのではないのでしょうか。



JFAの所蔵品から 「ひもとく」 日本サッカーの歴史

この連載では、日本サッカーを彩るさまざまな所蔵品や資料から日本サッカーの歴史をひもといていく。
今号は極東選手権をテーマにお届けする。

■第3回極東選手権で初の国際舞台を踏む

日本サッカーが初めて国際大会に出場したのは、自国開催となった1917(大正6)年の第3回極東選手権だ。極東選手権は日本、中国、フィリピンが参加する総合スポーツ大会で、1913年に始まった。陸上競技や水泳、野球、バスケットボール、テニス、サッカーなどが行われたのだが、日本サッカーは3回大会から参加した。

大日本蹴球協会が設立される前で、選抜チームを編成するのが困難だったことから国内予選を行って代表を決めることにした。しかし、関西予選を勝ち抜いた御影師範学校が東京で予定されていた予選に出場しなかったため、選考委員会

極東選手権

文・JFAコミュニケーション部 藤ノ木 恵



1917年の第3回極東選手権に日本の代表チームとして出場した東京高等師範学校蹴球部

の推薦で、当時「日本最強」と言われた東京高等師範学校(東京高師)が日本サッカー初の代表チームとして出場することになった。

初の国際大会は、中国に0-5、フィリピンに2-15と惨敗に終わる。この、日本最強チームの敗戦はサッカー界に衝撃を与えた。その後、東京高師や豊島師範学校の卒業生が集まって「東京蹴球団(日本初のクラブチーム)」を結成。また、各地で大会が開かれるようになり、翌年の1月には、全国高校サッカー選手権大会の前身となる日本フットボール大会(大阪)がスタートし、2月には東海蹴球大

会、関東蹴球大会と各地で旧制中学校の大会が始まった。

第4回極東大会への出場は見送られ、上海で開催された第5回(1921年)に参加する。日本は、東京蹴球団と東京高師、東京帝国大学からそれぞれ選手を選抜し「全関東蹴球団」を編成して日本の代表チームとして出場した。

しかし、残念ながらこの大会も連敗に終わった。

この頃、東京高等工業学校(現、東京科学大学)に留学していたビルマ人(現、ミャンマー)のチヨードインが東京高等師範学校附属中学校や早稲田高等学院などでサッカーの指導を始める。チヨードインが理論と実技を伝授することによって日本サッカーは大きな成長を遂げるのだが、その成果が表れるのもう少し後のことになる。

この頃、東京高等工業学校(現、東京科学大学)に留学していたビルマ人(現、ミャンマー)のチヨードインが東京高等師範学校附属中学校や早稲田高等学院などでサッカーの指導を始める。チヨードインが理論と実技を伝授することによって日本サッカーは大きな成長を遂げるのだが、その成果が表れるのもう少し後のことになる。

■初の国際Aマッチ

第5回大会の4カ月後の1921年9月10日、大日本蹴球協会が創設された。設立後、初の国際大会となったのが、1923年に大阪で開催された

第6回極東選手権。日本サッカー協会(JFA)が発行する『JFAイヤープック』の日本代表公式記録では「国際Aマッチ1試合目」は1923年のフィリピン戦とされている。

大日本蹴球協会はこの大会に向けても代表決定戦を行った。大会を勝ち抜いたのは、関西サッカー倶楽部。大阪サッカー倶楽部と兵庫の御影師範、神戸高等商業学校から選手を選抜して作ったチームで、これに広島鯉城クラブと東京蹴球団から選手を補強して臨んだ。

しかし、これも勝利を挙げることとはできなかった。第7回大会(1925年、フィリピン)には大阪サッカー倶楽部に、チヨードインの指導を受けた竹腰重丸(東京帝大)ら数人の選手を補強して参加したが、マニラの暑さに苦しめられて2試合とも無得点に終わった。

待望の初勝利は1927年の第8回大会(上海)。国内予選を勝ち抜いた早稲田大学W.M.Wに竹腰らを加えたチームで出場し、竹腰と同じくチヨードインの門下生である鈴木重義が主将を務めた。日本は、初戦の中国戦を1-5で落とすもフィリピン戦で逆転勝利を収める。極東選手権に初出場してから10年、協会が設立されて6年後のことだった。

この大会ではフィリピンが中国との試合で乱闘騒ぎを起こして棄権したため日本が2位に浮上。全8競技における優勝ポイントで中国と並び、2位の数で上回った日本が全競技のポイントを加算した総合優勝を飾った。

東京開催となった第9回(1930年)は世間の耳目を集めた。大日本蹴球協会は初めて全日本選抜を編成し、22日間の合宿を行って大会に臨んだ。ライトブルーの代表ユニフォームを着用して(*)挑んだ日本は初戦でフィリピンに逆転勝利し、中国と引き分けて1勝1分だけで並んだ。両チームで協議して両者優勝とし、同率優勝ではあったが日本は初の国際タイトルを手にした。1934年の第10回大会にはオランダ領東インド(現、インドネシア)が初出場し、日本はそのチームに大敗を喫する。2戦目のフィリピンに勝利するも中国に敗れて連覇はならなかった。

なお、極東選手権は、1932年に日本の関東軍が建国した「満州国」の参加をめぐって中国と対立し、この第10回大会を最後に消滅してしまふ。

※それまでは代表権を獲得したチームのユニフォームで国際大会を戦っていた

●出典：「日本サッカー協会百年史」

日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>

2025年度 第21回日本サッカー殿堂の掲額者が決定

JFAは、2025年度の第21回日本サッカー殿堂に右記6人を掲額することを決定した(8月4日発表)。

投票選考は、今年度から殿堂候補入りの時期をこれまでの「満60歳」から「プロ契約最終年(いわゆる現役引退)から5年経過」に変更し、それに合わせて名称も「選手選考」に変更。今回、変更後最初の選考で、井原正巳氏が選出された。

特別選考には、元日本女子代表監督の鈴木保氏と、黎明期に中心選手として活躍した4人の元日本女子代表選手が選出された。鈴木氏と中心選手としてチームをけん引してきた4人は、1981年に初めて日本女子代表チームが編成されて以降、実績が乏しかった女子代表をアジアの大会で常に上位を争える強豪に押し上げ、その躍進が2011年のFIFA女子ワールドカップ制覇を遂げたなでしこジャパンの礎を築いたと評価された。

これにより、2005年に設立した日本サッカー殿堂の掲額者とチームは、高円宮憲仁親王および97人、3チームとなった。

【第21回日本サッカー殿堂掲額者】

●選手選考

井原 正巳(元日本代表選手)

●特別選考

鈴木 保(元日本女子代表監督)

半田 悦子(元日本女子代表選手)

木岡 二葉(元日本女子代表選手)

高倉 麻子(元日本女子代表選手)

野田 朱美(元日本女子代表選手)

※プロフィールの詳細は下記参照

https://www.jfa.jp/about_jfa/news/00035353/

女性初のロールモデルコーチとして近賀ゆかり氏と契約

JFAは、ロールモデルコーチとして近賀ゆかり氏と契約した(8月20日発表)。女性では初のロールモデルコーチとなる。

近賀氏は、アンダーカテゴリーの日本女子代表チームをはじめ、JFAが推進する若年層の強化および普及活動に携わる。近賀氏は就任後、9月8日からJヴィレッジで行われたU-16日本女子代表のロールモデルコーチとして参加した。

【プロフィール】

名前 : 近賀ゆかり(きんが ゆかり)

生年月日 : 1984年5月2日

出身地 : 神奈川県

選手歴	2003~2010年	日テレ・ベレーザ
	2011~2013年	INAC 神戸レオネッサ
	2014年	アーセナル・レディーズFC(ENG)
	2015~2016年	INAC 神戸レオネッサ
	2016~2017年	キャンベラ・ユナイテッドFC(AUS)
	2017年	杭州女子倶楽部(CHN)
	2017~2018年	メルボルン・シティ WFC(AUS)
	2018年	杭州女子倶楽部(CHN)
	2018~2019年	メルボルン・シティ WFC(AUS)
	2019年	オルカ鴨川FC
	2019~2020年	メルボルン・シティ WFC(AUS)
	2020年	オルカ鴨川FC
	2021~2025年	サンフレッチェ広島レジーナ

日本代表 : 2004~2016年 日本女子代表100試合出場5得点

【主な国際大会での成績】

- ・FIFA女子ワールドカップ中国2007(グループステージ)
- ・FIFA女子ワールドカップドイツ2011(優勝)
- ・FIFA女子ワールドカップカナダ2015(準優勝)
- ・第29回オリンピック競技大会(2008/北京)(4位)
- ・第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)(銀メダル)
- ・AFC女子アジアカップベトナム2008(3位)
- ・AFC女子アジアカップ中国2010(3位)
- ・AFC女子アジアカップベトナム2014(優勝)

●近賀ゆかり氏コメント

このたび、ロールモデルコーチを務めさせていただくことになりました。昨シーズンまで20年以上にわたり、現役選手としてサッカーを続けてきました。国内外のクラブ、そしてなでしこジャパンの一員として得た経験に加え、サッカーの楽しさや面白さ、そして難しさも伝えていきたいと考えています。現役を終えたばかりの、選手に近い立場だからこそできることに、最大限取り組んでいきたいと思っております。

※備考 : これまでのロールモデルコーチ

2020年9月 内田篤人

2021年4月 中村憲剛

2022年3月 阿部勇樹

JFA×文京 Dream Project 第4弾「街と能登の応援フェスvol.2」 ～令和6年能登半島地震復興支援・輪島市中学生応援企画

JFAは8月5日～7日、石川県輪島市立輪島中学校、東陽中学校、門前中学校の2年生を文京区に招待し、東京ドームで「輪島市・文京区復興祈念スポーツ交流会」を行ったほか、JFAこころのプロジェクト「夢の教室」や職場体験学習、読売ジャイアンツ対ヤクルトスワローズ戦観戦などのプログラムを実施した。

石川県輪島市は能登半島地震により甚大な被害を受け、公共の体育施設は現在も閉鎖されたままとされている。イベントの目的は、日常生活や学校生活で今なお制約を受けている輪島市の子どもたちに、スポーツを通じた文京区の生徒たちとの交流や職場体験学習の機会を提供し、将来に向かって何ごとにも前向きに取り組んでもらうこと。昨年に続き2回目となり、「JFA×文京 Dream Project」とJFAの「能登半島地震復興支援プロジェクト」が連携して実施した。

JFAは今後も「能登半島地震復興支援プロジェクト」を通じて、被災地のニーズに寄り添い、復興支援を継続していく。また、「JFA×文京 Dream Project」においては、文京区におけるスポーツ活動の推進に加え、防災・減災を含む住民の安全・安心な生活や健康維持につながる取り組みを進めていく。

【開催概要】

開催期間：2025年8月5日（火）～7日（木）

主催：公益財団法人日本サッカー協会

後援：文京区、文京区教育委員会、輪島市、輪島市教育委員会

場所：東京ドーム、JFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」、JFAハウス、文京区内の事業所等（職場体験訪問先）

対象：輪島市立中学校の2年生（約90名）※8月6日の「輪島市・文京区復興祈念スポーツ交流」には文京区立中学校の2年生（約90名）も参加
主なプログラム：

8月5日（火）東京都内車窓見学、読売ジャイアンツ vs ヤクルトスワローズ 観戦

8月6日（水）輪島市・文京区復興祈念スポーツ交流会（※1）、生徒同士の交流会、職場体験学習

8月7日（木）JFAこころのプロジェクト「夢の教室」（※2）

（※1）参加ゲスト：

永島昭浩さん、都築龍太さん、ハーフナーマイクさん、安田理大さん（以上、元サッカー日本代表）、小林弥生さん（元サッカー日本女子代表）、大西将太郎さん（ラグビー）、杉山美紗さん（アーティスティックスイミング）、笹原龍さん（テニス）小口貴子さん（スケルトン）、小西美加さん（野球）

（※2）夢先生：

永島昭浩さん（元サッカー日本代表）、落合真里さん（元女子バレーボール日本代表）、杉山美紗さん（アーティスティックスイミング）、酒井友之さん（元サッカー日本代表）、岡里明美さん（バスケットボール）

「夏休み自由研究2025 サッカーを通して出来るSDGs」を開催

JFAは、JFAソーシャルバリューパートナー/コンペティションパートナーの株式会社モルテンとの共催で、8月8日と9日、高円宮記念JFA夢フィールド（千葉県）で「夏休み自由研究2025 サッカーを通して出来るSDGs」を開催した。

イベントには小学生が参加し、年齢や競技カテゴリーに合わせたボールのさまざまなつくり方、正しいメンテナンス方法などボールについて理解を深めるほか、サッカーを通じたSDGsへの貢献について学んだ。なお、参加費用の一部は支援団体を通じて、日本および世界中の子どもたちに「MY FOOTBALL KIT」を届ける活動資金に使用される。

【開催概要】

対象：小学生（サッカー経験は問わない）

開催日：2025年8月8日（金）10:00～12:00/14:00～16:00

2025年8月9日（土）10:00～12:00/14:00～16:00

※各回定員50名

場所：高円宮記念JFA夢フィールド（千葉県）

参加費用：1,100円（税込み）

イベント内容：各回約120分

- ①ボールのひみつ サッカー×SDGs
- ②MY FOOTBALL KIT 組み立て体験
- ③サッカー体験
- ④JFA夢フィールドツアー

主催：株式会社モルテン

共催：公益財団法人日本サッカー協会

※MY FOOTBALL KIT：企業、団体がすべての子どもたちへ組み立て式サッカーボールやゴールを送ることで、子どもたちの体験格差を減らし、SDGsの目標である「質の高い教育」と「つくる責任・使う責任」に貢献するプログラム。子どもたちがフットボールを通じて学習やスポーツの魅力を感じてもらうことを目的として2021年1月につくられた。つくり、遊び、なおす。持続可能な教育の仕組みが子どもたちの豊かな思考を培っていく。

<https://myfootballkit.jp/>



育成年代応援プロジェクト

「JFA アディダス DREAM ROAD collaborated with ANA」 女子選手がFC バイエルン・ミュンヘンに短期留学プロジェクト

JFAは、JFAオフィシャルサプライヤーのアディダス ジャパン株式会社（以下、アディダス）、JFAメジャーパートナーの全日本空輸株式会社（以下、ANA）と協働し、女子選手を対象とした「JFA アディダス DREAM ROAD

collaborated with ANA」として、ドイツ・ブンデスリーガに所属するFCバイエルン・ミュンヘンへの短期留学を実施する（8月6、8日発表）。

JFAとアディダスは2023年度から多くの男子選手の海外クラブへの短

なでしこジャパン(日本女子代表)

<https://www.jfa.jp/nadeshikojapan/>

11月29日にカナダ女子代表とMS&ADカップ2025で対戦

11月29日、長崎スタジアムシティ(ピーススタジアム)で開催されるMS&ADカップ2025のなでしこジャパンの対戦相手がカナダ女子代表に決まった(8月4日発表)。

【MS&ADカップ2025 開催概要】

日時：2025年11月29日(土)キックオフ時間調整中

対戦：なでしこジャパン(日本女子代表) 対 カナダ女子代表

会場：長崎県/長崎スタジアムシティ(ピーススタジアム)

主催：公益財団法人日本サッカー協会

主管：一般社団法人長崎県サッカー協会

特別協賛：MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社
(JFAメジャーパートナー)

JFAオフィシャルトップパートナー：キリンビール株式会社、
キリンビバレッジ株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社

テレビ放送：調整中

※12月2日にトランスコスモススタジアム長崎で開催するカナダ女子代表とのトレーニングマッチを一般公開予定。詳細は後日発表。

※対戦国関連データ：カナダ女子代表

・FIFAランキング(2025年6月12日更新)：8位(日本：7位)

・過去の対戦成績：8勝4分け4敗(26得点20失点)※PK戦での勝敗は引き分け扱い

●ニルス・ニールセン監督コメント

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社の多大なるご支援の下、世界トップ10の一つで、前々回のオリンピック王者のカナダ女子代表とMS&ADカップ2025で対戦できることを大変楽しみにしています。

11月の代表活動は、来年3月のAFC女子アジアカップオーストラリア2026に向けた最後の活動となり、非常に重要な位置づけです。アジアカップの成績はFIFA女子ワールドカップブラジル2027の出場権に直結します。アジアカップ前の最終テストとして、強いフィジカルと戦術を合わせ持つカナダとの対戦は私たちにとって理想的な機会です。アジアカップ以降も見据え、カナダのような強豪との対戦を通じてチーム力をさらに高め、ワールドカップへ向けても準備を整えていきます。また、長崎スタジアムシティ(ピーススタジアム)で初の日本代表戦開催になると聞いています。長崎の皆さんをはじめ、多くの人々にスタジアムに足を運んでいただき、熱いご声援をいただけることを願っています。

10月にイタリア女子代表、ノルウェー女子代表と国際親善試合を実施

なでしこジャパンは、10月24日にイタリアでイタリア女子代表と、同28日にスペインでノルウェー女子代表と対戦することが決定しました(8月22日発表)。

【国際親善試合 開催概要】※時間は現地時間

日時：2025年10月24日(金)キックオフ時間調整中

対戦：なでしこジャパン(日本女子代表) 対 イタリア女子代表

会場：調整中(イタリア)

テレビ放送：未定

日時：2025年10月28日(火)キックオフ時間調整中

対戦：なでしこジャパン(日本女子代表) 対 ノルウェー女子代表

会場：Estadio Municipal de La Linea(スペイン/ラ・リネア)

テレビ放送：未定

※対戦国関連データ

●イタリア女子代表

・FIFA ランキング(2025年8月7日更新)：12位(日本：8位)

・過去の対戦成績：1勝7敗(6得点31失点)

●ノルウェー女子代表

・FIFA ランキング(2025年8月7日更新)：13位(日本：8位)

・過去の対戦成績：7勝3敗(18得点14失点)

●ニルス・ニールセン監督コメント

イタリアは近年、女子サッカーに大きな投資を行っており、歴史ある男

子クラブのほとんどが女子のプロチームを持つようになりました。イタリアは、かつての女子サッカー強豪国としての地位を再び確立しつつあります。今年の夏にはUEFA女子EURO2025で準決勝に進出しました。準決勝ではイングランド相手に先制点を奪いましたが、後半アディショナルタイムに同点に追いつかれ、延長戦で敗れました。それでも、イングランドを最後まで追い詰めた彼女たちの力は広く認められています。さらに、イタリアは近年の厳しい欧州予選を勝ち抜き、直近2大会連続でFIFA女子ワールドカップ出場を果たしており、着実にチームを強化していることが分かります。

なでしこジャパンにとって、イタリアとの対戦は10年ぶりとなります。その間、両チームともに選手の入替わりが大きく、特別な先入観なく試合に臨むことができるでしょう。

ノルウェーは、FIFA女子ワールドカップ優勝経験のある数少ない国の一つであり、女子サッカーが盛んな北欧を代表する強豪です。ここ数年は以前のような成績ではなかったかもしれませんが、今夏のUEFA女子EURO2025ではノックアウトステージに進出し、イタリアと接戦を繰り広げるなど、世界トップレベルの実力をあらためて示しました。体格を生かした戦いを仕掛けてくる相手に対し、われわれがどのように対応できるかは非常に重要です。この試合に向けてしっかりと準備を整え、チームの成長につなげていきたいと思っています。

来年3月に開催されるAFC女子アジアカップオーストラリア2026(FIFA女子ワールドカップ・ブラジル2027のアジア最終予選を兼ねた大会)に向けて、私たちはまだコンセプトの要素を磨き上げる必要があります。試合の締めくくり方にも取り組む必要があります。そうすることで強豪国相手にもポジティブな結果を得たいと思います。



JFAアカデミー福島女子15期生の原ひばり選手が ちふれASエルフェン埼玉に加入決定

JFAアカデミー福島女子15期生(U-18)の原ひばり選手が、2026年からWEリーグのちふれASエルフェン埼玉に加入することが決定した(8月18日発表)。

【プロフィール】

名前：原ひばり(はら ひばり)

ポジション：DF

所属歴：FC LEGARE霧島→JFAアカデミー福島

※参考：

JFAアカデミー福島出身でWEリーグクラブ、海外プロクラブに加入した選手(2020年度以降、クラブ名は加入当時)

2024年度卒校 樋口梨花(ちふれASエルフェン埼玉)、木村未来(ちふれASエルフェン埼玉)、板村真央(フェイエノールト/オランダ)

- 2023年度卒校 谷川萌々子(バイエルン・ミュンヘン/ドイツ)、古賀塔子(フェイエノールト/オランダ)、吉岡心(マイナビ仙台レディース)、鹿島彩莉(ちふれASエルフェン埼玉)
- 2022年度卒校 佐々木里緒(マイナビ仙台レディース)、松窪真心(マイナビ仙台レディース)
- 2021年度卒校 石川璃音(三菱重工浦和レッズレディース)、太田萌咲(AC長野パルセイロ・レディース)
- 2020年度卒校 城和怜奈(ジェフユナイテッド市原・千葉レディース)、伊藤めぐみ(AC長野パルセイロ・レディース)、沼尾圭都(アルビレックス新潟レディース)

審判員



審判交流プログラム～エルサルバドルから審判員を招聘^{しょうへい}

JFAはJリーグと協働し、エルサルバドルサッカー連盟との「審判交流プログラム」として、下記審判員を招聘した。

【審判交流プログラム 実施概要】

招聘期間：エルサルバドル 8月6日(水)～26日(火)

来日メンバー：

<審判員>

BARTON Ivan(イバン・バルトン)

1991年1月27日生まれ

・2021年 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)

グループステージ ブラジル対ドイツ、フランス対日本

- ・2022年 FIFAワールドカップカタール2022
グループステージ 日本対ドイツ、ブラジル対スイス
準々決勝 イングラン対セネガル
 - ・2023年 FIFAクラブワールドカップモロッコ2022
 - ・2024年 コパ アメリカ2024
 - ・2025年 FIFAクラブワールドカップ2025
グループステージ CR フラメンゴ対チェルシー FC
ラウンド16 インテル対フルミネンセ
- 割り当て試合：明治安田J1リーグ 第25節～第27節、第30節

FIFA U-17ワールドカップ カタール2025に 笠原寛貴主審、浅田武士副審、道山悟至副審が選出

11月3日から27日に開催される「FIFA U-17ワールドカップ カタール2025」の担当審判員に、日本から笠原寛貴主審、浅田武士副審、道山悟至副審が選出された(8月27日発表)。3人は初めての国際サッカー連盟(FIFA)主催大会のアポイントとなる。

【プロフィール】

◇笠原寛貴(かさらは ひろき)

所属：福岡県

国際審判員登録：2020年

主な国際大会：

2022年 AFC U20アジアカップ予選

2023年 AFCチャンピオンズリーグ

FIFAワールドカップ2026 アジア2次予選

2024年 AFCチャンピオンズリーグElite 2024/25

FIFAワールドカップ2026 アジア3次予選

三菱電機カップ2024

2025年 AFC U20アジアカップ中国2025

AFC アジアカップサウジアラビア2027 予選

コメント：

FIFA U-17ワールドカップ カタール2025に審判員として参加できることを大変光栄に思います。日本代表としての誇りを胸に、日頃から支えてくださっている多くの方々への感謝の気持ちをしっかりとフィールドで表現したいと思います。

浅田武士(あさだ たけし)

所属：千葉県

国際審判員登録：2023年

主な国際大会：

2023年 AFCチャンピオンズリーグ

2024年 AFC U23アジアカップカタール2024

AFCチャンピオンズリーグElite 2024/25

FIFAワールドカップ2026 アジア3次予選

三菱電機カップ2024

2025年 AFCチャンピオンズリーグTWO 2024/25

AFC アジアカップサウジアラビア2027 予選

AFC チャレンジリーグ

国際親善試合(カンボジア代表対タジキスタン代表)

コメント：

FIFA U-17ワールドカップ カタール2025に審判員として参加できることを大変うれしく思っています。自分自身に関わる全ての方々のサポートに

感謝し、参加する3人の力を合わせて大会の成功に貢献できるよう良い準備したいと思います。

道山悟至(みちやま さとし)

所属：大阪府

国際審判員登録：2025年

主な国際大会：

2025年 国際親善試合(シンガポール代表対ネパール代表)

ACC Shopee Cup 2024/2025

Maurice Revello Tournament

コメント：

FIFA U-17ワールドカップ カタール2025のアポイントをいただき、大変光栄に存じます。これまで多くの方々に支えられてきたことに感謝し、その思いを胸に、自覚と責任を持って大会の成功に向けて努めてまいります。

FIFAフットサル女子ワールドカップ フィリピン2025に 山本真理審判員、齋藤香菜審判員が選出

11月21日から12月7日に開催される「FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025」の担当審判員に、日本から山本真理審判員、齋藤香菜審判員が選出された(8月27日発表)。両審判員ともFIFA主催大会へのアポイントは初めて。

【プロフィール】

山本真理(やまもと まり)

所属：東京都

フットサル国際審判員登録：2018年

主な国際大会：

2018年 AFC女子フットサル選手権タイ2018

2022年 AFCフットサルアジアカップクウェート2022予選

2023年 AFCフットサルアジアカップ2024 1次予選

2024年 NSDF女子フットサル選手権2024

ASEAN女子フットサル選手権2024

2025年 AFC女子フットサルアジアカップ2025予選

AFC女子フットサルアジアカップ中国2025

コメント：

東京で生まれ、フットボールと出会い、審判員として関東、日本、そしてアジ

アの舞台で活動してきました。その歩みの先に、このたびFIFAフットサル女子ワールドカップ フィリピン2025に参加できることを光栄に思います。日頃から支えてくださる皆さまに感謝し、大会の成功に全力を尽くします。

齋藤香菜(さいとう かな)

所属：栃木県

フットサル国際審判員登録：2022年

主な国際大会：

2025年 AFC女子フットサルアジアカップ2025予選

AFC女子フットサルアジアカップ中国2025

コメント：

選手たちが全力で魅力あるフットサルをプレーできる試合環境をつくるため、審判員として全力を尽くします。これまで関わってくださった皆さま、栃木県のフットサル・サッカー仲間の皆さまの支えにより、選出され光栄に思います。審判員の日本代表として責任を持ち、本番まで研さんを続け準備してまいります。

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

<https://www.jleague.jp/>



株式会社サンリオとJリーグフェアプレーパートナー契約を締結

Jリーグは、株式会社サンリオと「フェアプレーパートナー契約」を締結した。契約開始日は2025年8月1日。

●パートナー契約締結の背景

スポーツが、見る人にとっても、プレーする選手にとっても、より魅力的で感動を生むものとなるためには、フェアプレーの精神が欠かせない。J

リーグとサンリオは、Jリーグが大切にしている「フェアプレーの精神」と、サンリオの企業理念である「みんななかよく」に互いが共感し、子どもから大人まで幅広い世代にその大切さを伝えていくことを目的として、フェアプレーパートナー契約を締結した。今後は両者が協力し、フェアプレーの輪を広げる取り組みを推進していく。

株式会社マイネットとJリーグサポーターティングカンパニー契約を締結

Jリーグは、株式会社マイネット(以下、マイネットグループ)とJリーグ

サポーターティングカンパニー契約を締結した(8月12日発表)。契約開始は

2025年8月。なお、本契約に基づき、マイネットグループと共に「Jリーグ公式トレーディングカード×ファンタジースポーツゲーム」の開発を行う。

●本契約締結の背景

Jリーグは、「豊かなスポーツ文化の振興」を理念の一つとして掲げている。一方、マイネットグループは「Make COLOR -毎日に感動を-」をミッションに掲げ、これまでゲーム事業において累計80タイトル以上の運営実績を有し、スポーツDX分野においても、スポーツのある日常をより「面白く」「待ち遠しく」するためのコンテンツ開発を通じて、新たなファンエンゲージメントの在り方を追求している。

本パートナーシップにより、マイネットグループが培ってきた企画・開

発・運営のノウハウを生かし、スポーツが日常に根付くライフスタイルの実現に取り組むことで、「豊かなスポーツ文化の振興」への貢献できることに期待し、契約締結した。

●本契約締結に伴う今後の取り組み予定

「Jリーグ公式トレーディングカード×ファンタジースポーツゲーム」をマイネットグループと共に開発し、リリース予定。本サービスでは、「Jリーグがある生活をもっと豊かに」という思いの下、Jリーグファン・サポーターはもちろんのこと、スポーツに馴染みのない層にも楽しんでもらえる、親しみやすく魅力的なコンテンツの提供を目指す。

「暑すぎる夏を終わらせる日」制定への賛同を決定

8月8日が「暑すぎる夏を終わらせる日」として、一般社団法人日本記念日協会より新記念日に登録されたことを受け、Jリーグは、気候アクションをスポーツ界から推進する立場として本制定に賛同するとともに、国内企業230社以上が加盟する一般社団法人日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)が主催する、関連アクションにも賛同団体として協力することを決定した(8月8日発表)。

Jリーグは、日本サッカーの水準向上およびサッカーの普及促進を理念として、さまざまな活動を行っている。しかし、大雨や台風などで中止となった試合数がこの10年で約4倍になるなど、スポーツができる土台そのものとなる地球環境が、温暖化をはじめとした気候変動によって脅かされている。

今後もサッカーができる環境を守るため、Jリーグは「暑すぎる夏を終わらせる日」に賛同し、多くの人々と連携しながらアクションを起こしていく。

●新記念日「暑すぎる夏を終わらせる日」

日本各地で連日猛暑日が続く昨今、熱中症による死傷者の増加や労働・農業への影響、水害をはじめとする社会インフラの負荷拡大など、気候変動の影響が私たちの暮らしに深刻な形で現れている。それにもかかわ

らず、こうした猛暑について「暑さ」としての言及はあっても「気候変動」と結びつけた報道や議論は限定的であり、気候変動対策への機運に結びついていないのが現状だ。

この課題に対し、最も暑いこの時期に「暑すぎる夏を終わらせる記念日」を設け、「暑さ」を気候変動の問題として捉え直す社会的なきっかけをつくることとした。この記念日には、未来の世代のために気候危機を止めるという意思を共有し、「社会全体のシステム転換を進めていくための起点」とする考え。この記念日の特徴は、「なくすため」の記念日であること。それぞれが気候変動を止めるという強い思いで行動し、温暖化を止めることができたときに、この記念日をなくすことを目指している。

■日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)について

脱炭素社会の実現には産業界が健全な危機感を持ち積極的な行動を開始すべきであるという認識の下、2009年に発足した企業団体。幅広い業界から230社超が加盟(2025年7月時点)。加盟企業の売上合計は約160兆円、総電力消費量は約80TWh(概算値)。2017年より国際非営利組織The Climate Groupの公式地域パートナーとして、日本におけるRE100、EV100、EP100の窓口・運用も担う。

2025明治安田Jリーグ、新たにブラジルでの放映が決定

2025明治安田J1リーグのブラジルでの放映が新たに決定した(8月21日発表)。

2023年に創設されたトリミングプラットフォーム「Canal GOAT」お

よび今年8月に新たに創設された「X Sports」で、それぞれ8月16日第26節、同20日第30節から毎節4試合が放映される。

2026/27シーズンからJ3クラブにおける監督指導者ライセンスの基準を変更

Jリーグは、8月26日に開催した理事会において、2026/27シーズンからJ3クラブでの監督指導者ライセンスの基準を変更する方針を決定した。今回の変更を通して、新たな指導者人材の登用に挑戦しやすい機会づくりを行っていく。

■変更内容

●変更前

J3クラブは、有効なJFA Proライセンスを保有する者(またはJFA技術委員会においてJFA Proライセンス相当と認められた者)をトップチームの監督に置かなければならない。

●変更後

J3クラブは、有効なJFA Aジェネラルライセンス以上を保有する者(またはJFA技術委員会においてJFA A級ジェネラル以上のライセンス相当と認められた者)をトップチームの監督に置かなければならない。
※なお、J3クラブがAFCクラブ競技会に出場する場合はJFA Proライセンスが必須である

■変更時期

2026/27シーズンより運用開始

【訃報】元JFA副会長の釜本邦茂氏が逝去

日本サッカー協会（JFA）の元副会長である釜本邦茂氏が、8月10日午前4時4分、大阪府内の病院で肺炎のため死去した。81歳だった。

釜本氏は、日本代表として1964～1977年にプレーし、1968年のメキシコオリンピックでは7得点を挙げて得点王に輝いた。1993年にJリーグが開幕した際にはガンバ大阪の監督としてチームを指揮した。1998年にJFA副会長に就任。また、2002年に日本と韓国で開催されたFIFAワールドカップでは、FIFAワールドカップ日本組織委員会理事および2002年強化推進本部長を務め、大会の成功と日本代表の強化に尽力。日本サッカーへの多大なる功績により、2005年に日本サッカー殿堂に掲額された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

●宮本恒靖JFA会長

釜本邦茂さんの訃報に接し、お悔やみを申し上げます。

1968年メキシコオリンピックでのゴールや日本代表で歴代最多の75得点が示す通り、釜本さんは不世出のストライカーでした。同時に私のキャリアにおいて多くの影響を与えてくださった方でもあります。

私がガンバ大阪ユース一期生としてプレーし始めた頃、その母体となった釜本FC出身の選手たちが持つ「ボールを止める・蹴る」技術の高さに驚かされました。釜本さんは指導の際にサッカーのベースとなる基本技術を大切にいらしたと聞きました。その後プロになってからも釜本さんのキックの強さや正確性にまつわる逸話を耳にし、私も良い選手になろうと精力的にキック練習に励みました。

JFA副会長を務められていた時期はちょうど私が日本代表でキャプテンを務めた頃と重なり、ピッチの外側からチームをサポートしていただきました。また、私の引退後は、釜本さんが主催していた「釜本サッカー教室」に何度かゲストとして呼んでいただきました。2014年のことだと思いますが、東京の駒沢競技場で「50年前の東京オリンピックの時にここでやった試合に出ていたんだよ」と、集まった小学生200名に話されました。生涯を通じて日本サッカーの普及、振興に努められている釜本さんのお姿に多くのことを学びました。

サッカー日本代表はいま、釜本さんが点取り屋として君臨し、銅メダルを獲得されたメキシコオリンピック以来の快挙を目指し挑戦を続けています。釜本さんに良い報せをお届けできるよう邁進してまいります。

釜本さんの生前のご功績に敬意を表すとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

●野々村芳和JFA副会長／Jリーグチェアマン／WEリーグチェア

日本サッカー界の大先輩である釜本さんの訃報を、大きな悲しみとともに伺いました。

私が言うまでもなく、釜本さんは、日本サッカーがまだプロ化する前、これから国際競争力をつけることとする草創期において、比類なき活躍によってその発展を牽引し、数々の歴史的記録を樹立した偉大な先駆者です。

1968年メキシコオリンピックでは日本をアジア初の銅メダルに導き、釜本さんは得点王に輝きました。国際Aマッチにも76試合に出場し75得点を記録。現在も最多得点記録は誰にも破られていません。ヤンマーディーゼル（現、セレッソ大阪）では202得点を挙げ、7度の得点王として日本サッカーリーグを牽引しました。常にフィールドで放つ圧倒的な存在感は、日本サッカーの可能性を世界に示し、プロリーグの夢を育み、後のJリーグやWEリーグの創設の原動力となりました。

悲願のJリーグ開幕に際しては、釜本さんはガンバ大阪の初代監督として、厳しい環境でクラブのプロ化の基盤を築き、同時に関西でのプロサッカーの文化の礎を築かれました。女子サッカーとの関わりは多くは語られていませんが、母校の大学の女子サッカー部が関西地域で試合を行う際にはみかん箱を抱えて必ず視察に出向くなど、女子サッカーの発展も心から願っておられたと聞いています。

その後もJFA副会長や2002年FIFAワールドカップ日本組織委員

会の理事などを通じて日本サッカーの発展に尽力され、選手や指導者を引退されてからも放ち続けた強烈な存在感は、年代を超えサッカーファミリーの胸にいつまでも「不世出のレジェンド」として深く刻まれています。

釜本さんが安心してお休みにられますよう、JリーグとWEリーグもまた、ともに理念の実現に向けて手を取り合い、日本サッカーのさらなる発展に尽くしたいと考えております。

どうか安らかな眠りにつかれますよう、心よりお祈り申し上げます。

●田嶋幸三JFA名誉会長

釜本邦茂さんの突然の訃報に接し、ショックを受けています。療養されているのは知っていましたが、こんなに早く亡くされるとは思ってもいませんでした。

釜本さんは私にとって憧れであり、本格的にサッカーを始めた中学生の時から常に目標にしていた選手でした。大学1年生で臨んだ関東大学リーグ、われわれ筑波大学は4位でしたが、7試合で7得点を挙げて得点王になりました。1年生での得点王は釜本さん以来だと聞き、うれしく、そして誇らしく思いました。私をはじめ、多くの選手にとって釜本さんは常に目指すべき存在で、誰もが釜本さんを目標にサッカーに打ち込んでいたと思います。

今から半世紀以上も前に世界と伍して戦い、日本サッカーの存在を世界中に示してくれた名ストライカー、それが釜本さんでした。恵まれた体格とスピード、ゴールへの嗅覚…。日本人離れたダイナミックなプレーは、今も多くの人々の目に焼き付いていると思います。

日本サッカーの星がまた一つ、消えてしまいました。

釜本さんの長年にわたるご功績に心からの敬意と感謝を表します。ありがとうございました。安らかに眠りください。

●川淵三郎JFA相談役

稀代のストライカー、釜本邦茂さんの訃報に接し、心から哀悼の意を表します。

そして、長い療養生活を深い愛情をもって支えてこられた奥さまに心からお悔やみと感謝を申し上げます。

東京オリンピックの前年、東大検見川で行われた古河電工と山城高校との練習試合で初めて釜本選手と一緒にプレーをして、日本人離れたそのスケールの大きさに驚かされた記憶があります。既に釜本選手を見ていたクラマーコーチからは熊のような選手がいると聞いていたので、のっそりしたでっかい選手だろうと思っていました。ところが、いざ対戦してみると、そのスピードと本能的なゴール感覚たるや！「えっ、これが高校生なの？」と度肝を抜かれました。

東京オリンピックを控え、5カ月にわたる選手選考が行われました。その東大検見川での合宿でも日に日に目に見えて上達していく釜本選手に驚かされました。後にも先にもこんな経験はありません。現役引退後、「釜本2世」と謳われた選手は何人も出てきましたが、半世紀たった今も彼に近づいた選手はまだ現れていません。「不世出の選手」という言葉がぴったりな釜本さんでした。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



日本フットボールリーグ (JFL) 便り



目標達成へ、さらなる飛躍を目指して

ヴェルスバ大分 運営推進部/広報 植野隼

<https://verspah.jp/>

ヴェルスバ大分は大分県の大分市、別府市、由布市をホームタウンとするサッカーチームです。2003年に豊洋精工株式会社とソイテックスジャパン株式会社の社員が集まって活動を開始。翌年から大分県4部リーグに参戦し、2007年に同1部リーグに昇格しました。2009年シーズンに優勝して翌年から九州リーグに参戦。2012年にJFLに昇格し、2020年に悲願のJFL初優勝を遂げました。

昨季は、10年ぶりにチームに復帰した福満隆貴選手、浜崎拓磨選手らJリーグでの経験豊富な選手を加えたほか、シーズン途中で元日本代表の金崎夢生選手を獲得。積極的な補強で目標の優勝とJ3昇格を目指しましたが、結果は前年と同様6位と思うような結果は得られませんでした。しかし、さまざまな面でチームが成長を遂げるシーズンとなりました。

今季は、前田紘基選手や武沢一翔選手のほか6人のルーキーを加え、昨季のメンバーをベースに中村元新監督の下で開幕戦を迎えました。ホームゲームでは、ベテラン勢の奮闘や若手選手の台頭もあり、ここまで7勝1分け1敗。優勝&J3昇格という目標に向かって突き進んでいます。また、後半戦に向け、沖縄SVから川中健太選手を獲得するなど積極的な補強にも動きました。

集客面では開幕からさまざまな企画を立ててホームゲームを開催しています。7月に行ったクラサドーム大分での試合は、大分全体

を盛り上げられるよう「沸騰祭」と名付けたイベントを行いました。ヴェルスバ大分のホームゲームで過去2番目となる7,029人が来場するなど、昇格条件の1試合平均2,000人の来場者達成に向けて取り組んでいます。

日常では、昨季までヴェルスバ大分でプレーしていた宮本優らスタッフを中心に、選手を伴って地域の高校のサッカー部に訪問したり、地域のお祭りに参加したりするなど地域活動にも力を入れています。また、SNSなどでも話題性のあるコンテンツや地域の魅力を発信するコンテンツの配信に努めています。

今季はここまでピッチ内外で充実したシーズンを送っています。目標としているJFL優勝、J3昇格を現実にするため、残りのシーズンはより熱い気持ちを持って挑み、最後には多くの方と最高の景色を見られるよう、選手、スタッフ全員でさらに精進していきます。



J3昇格へ大きな逆転勝利で歓喜のヴェルスバ大分の選手とスタッフ、サポーター

日本フットボールリーグ (JFL) 便り



「Passion football」企業チームの誇りを持った挑戦

ミネベアミツミFC 強化部長 猿渡裕二

<https://minebeamitsumi-fc.com/>

私たちは1964年に創部し、県リーグ・地域リーグを経て、2005年よりJFLに参戦しました。2006年に一度降格しましたが、2009年に復帰し、2016年はJFLで過去最高となる通算順位4位を記録。2021年と2024年はJFL・地域リーグ入れ替え戦を経験し、残留しました。2023年からは「ミネベアミツミFC」(旧ホンダロックSC)として活動し、JFLは19シーズン目となります。

創部当初から企業チームとして、監督、コーチ、スタッフ、選手の全員が勤務を終えたあと、18時から20時まで練習に励むという、仕事とサッカーを両立する日々を送っています。工場でモノづくりに励む選手、品質、IT、購買、人事、総務部門など各自が責任を持って働いています。

この環境でJFLに参戦し続けることは容易ではありませんが、人間的な成長につながっていると感じています。従業員のみならず、地域社会やサポーターの皆さまに「夢」「希望」「感動」を提供できるよう、サッカーに対する情熱と仕事に向き合う情熱をこれまで以上に持ちながら、企業人としての誇りを持って活動していきます。

昨シーズン末は3度目の入れ替え戦を経験し、フルタイムで働きながらJFLを戦う企業チームの難しさを痛感しましたが、JFLで戦えることへの感謝の気持ちを持ちながら今シーズンを迎えることができました。

選手を正社員として雇用する企業チームにとってチームの補強は課題の一つです。サッカーだけでなく、引退後のキャリア形成も見据えたスカウティングに力を入れ、今シーズンは、大学新卒選手4人に加え、5人の経験豊富な選手が加わったことはこれまでにない新たな試みでした。シーズン序盤は苦しい試合が多く、初勝利まで長い時間を要しましたが、シーズン半ばの現在は、課題としっかり向き合い、目標達成に向けて一つでも多く勝利の喜びを皆さまと分かち合えるよう前進しています。

チームの歴史を大切に、これまで続けてきたサッカー教室や大会、清掃活動等の地域貢献活動にも積極的に取り組み、多くの皆さまにこんなサッカーチームがあることを知っていただき、「企業チームでもできる、企業チームだからできる」を体現していきます。



企業チームとして情熱と誇りを持ち挑戦を続ける



なでしこリーグ便り



50年から100年続クラブへ

伊賀FCくノ一三重サテライトコーチ、三重県サッカー協会なでしこ普及コーディネーター 道倉宏子

<https://www.igafc.jp/>

伊賀FCくノ一三重は、忍者にゆかりのある伊賀市を本拠地に活動するクラブで、現在、なでしこリーグ1部に所属しています。1976年に「伊賀上野くノ一サッカークラブ」として創設されました。第1回の日本女子サッカーリーグから参加し、過去に3回のリーグ優勝を果たしました。2000年から「市民クラブ」として活動し、社会貢献活動として、子どもたちを対象としたサッカー教室の開催、高齢者施設への訪問、地域の祭りやイベントへの参加などホームタウン活動を行っています。また、今年5月には伊賀市と「ホームタウン包括連携協定」を締結し、スポーツを通じてまち全体を活性化すべく取り組んでいます。「スポーツや文化を通じて地域の発展を支え、夢や希望を、そして感動を分かち合う」ことをクラブのミッションとし活動しています。

組織は、トップチーム事業を担う株式会社伊賀FCくノ一三重と、アカデミー組織の運営を担うNPO法人伊賀FCくノ一の二つの組織で構成されています。アカデミーには、サテライト（U18女子、U15女子）、ジュニア（小学生女子）、スクール（年中～小4男女）、ラスト（チアリーディングチーム）があり、県内外の子どもたちが活動しています。

クラブの特徴として、昨年度からチームスタッフにトップチームの選手OGを1人採用しており、サッカー部門は全てのカテゴリで

元選手を女性指導者として登用し、スクールからサテライトまで一貫した指導方針の下、次世代の選手育成に励んでいます。伊賀市は、2000年をピークに人口が減少し、2025年現在では83,809人と高齢化が進む町です。そんな中、選手OGがこの町にとどまってコーチ業など多方面で活躍し、町の活性化の担い手にもなっています。

伊賀FCくノ一三重は、2026年に50周年を迎えます。100年続く愛されるクラブを目指し、スポーツを通じて、伊賀市をはじめ、三重県全域に女子サッカーを広げ、サッカーファミリーの拡大を目指して活動の幅を広げていきたいと考えています。



2025年度のキックオフパーティーより。稲森稔尚伊賀市長と選手たち

なでしこリーグ便り



育成からつながるレイアらしさ

SEISA OSAレイア湘南FC フロントスタッフ 江原奏音

<https://rhea.seisa-shonanoisosc.jp/>

SEISA OSAレイア湘南FCは、神奈川県西部・湘南地域をホームタウンとして活動するクラブです。中学年代のSEISA OSAレイア湘南FC U-15と高校年代の星槎国際高校湘南のアカデミーチームを擁し、一貫した指導を行っています。

私たちのクラブでは「地域を大切にしたい」との思いから、湘南地域で育った選手でトップチームを編成しています。在籍選手のほとんどが星槎国際高校湘南の卒業生・在校生で、全員が地元出身もしくは学生時代に湘南地域へ来た選手です。

アカデミーに力を入れ、個の能力を伸ばす指導を行い、実力のある選手は中学・高校年代からトップチームでプレーできる機会があります。アカデミーの選手たちにとっては、トップチームの試合運営や応援をすることも活動の一環になっており、支える立場を経験したり、目指すサッカーを近くで見たりすることも自身のプレーの質を高めることにつながると考えています。

一方のトップチームの選手たちにとっては、後輩に手本を示すことや次の世代を育てる使命感を持ちながらプレーしています。応援され、支えられる立場になることでそのありがたみや重圧を感じていると思います。だからこそ応えようとする思いも強く、試合に勝利した時の喜びは格別なものになっています。

カテゴリーをまたいで紅白戦を行ったり合同練習をしたりするこ

ともあります。カテゴリーが上の選手たちは単に憧れの存在ではなく、超えるべき目標になり、対戦することでレベルの高さを感じたり技術を習得したりできる機会になっています。公式戦の前には仮想相手として、練習のサポートをすることもあります。組織として一貫性をもって活動しているからこそそのつながりが「レイアらしさ」だと私は感じています。

今シーズンは、これから全カテゴリーが重要な大会を控えており、勝負の時期に入ります。それぞれが最善の結果を出せるよう、支え合い応援し合って挑みます。そして今後に向けては、レイアらしさを維持しながらより強く魅力的な組織にすることが課題です。この地域で選手がサッカーを続けられる環境をつくるというクラブ立ち上げ当初の考え方を基盤にしつつ、さらに成長できるように一丸となって努力していきます。



カテゴリーを超えて共に喜ぶ選手たち



全国大会にふさわしい舞台づくり

一般財団法人日本フットサル連盟 事務局長 清水茂樹

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

日本フットサル連盟(JFF)では、全国の競技者にもっとフットサルに夢中になってもらうため、全国大会をより魅力的な大会とし、価値を高める新たな取り組みを開始しました。

全国のフットサルファンの要望に応え、9月開催の全国選抜フットサル大会の熱戦の様相を複数台のカメラを用いて迫力ある映像を全試合ライブでお届けしました。得点表示に加え、テロップやリプレイなどトップリーグと同じ水準で配信。これにより、フットサル競技者の中心となる20~30代の世代から、「見られたら、より強くなる」好循環が生まれたのではないかと思います。

大会の決勝前に開催するキッズ向けのフットサルクリニックでは、名古屋オーシャンズの木暮賢一郎監督と湘南ベルマーレの藤田安澄コーチ(いずれもJFF理事)のほか、開催地・滋賀県出身の名古屋オーシャンズの吉川智貴選手、フットサル日本女子代表の網城安奈選手(SWHレディース西宮)が参加するなど、フットサル界を挙げたイベントを実施しました。また、予選結果や大会告知のプレスリリースは、データ分析を踏まえてより効果的な配信ができるよう見直し、アクセス数や引用記事の増加など目に見える効果も出てきました。他にも大会プログラムのデザインやコンテンツ、会場の装飾や表彰セレモニーも今までとはひと味違う工夫を加えるように準備しました。その一つ一つは小さな改革ではありますが、全国のフッ

トサル普及現場を支える皆さまの目線に立って、選手・チームスタッフの皆さまがより輝くことができる舞台となるように、少しでも参加してよかったと思ってもらえる大会を目指しています。

JFFは3月に新体制がスタートし、理事・職員ともに新たなメンバーが増えました。北澤豪新会長の下、全国の地域・都道府県連盟の皆さまと連携を密にし、フットサルの普及に一層取り組んでいきます。アジア王者となったフットサル日本女子代表や熱戦が続くフリーグとともにアマチュアフットサルも盛り上げていきますので、ぜひこれからの大会にご注目ください。



第41回全国選抜フットサル大会 ポスター



ウェルカムバック松崎さん

一般財団法人日本ビーチサッカー連盟

<http://jbsf.or.jp/>

6月28日に一般財団法人日本ビーチサッカー連盟(JBSF)の定時評議員会および理事会が開催され、2025/2026年度JBSF役員体制が決定しました。専務理事(GS)に就いた松崎康弘さんに話を聞きました。

Q: 専務理事に就任した経緯は?

松崎: JBSFの設立はちょうど10年前。日本の“ビーチ(サッカー)”はどこに向かって走っているのだろうと考えながら立ち上げに関わった経験があったからです。

Q: いま考えている今後の具体的な取り組みは?

松崎: これまで以上に高い技術レベルの選手を代表に送ること。環境整備も重要な課題です。日本は海に囲まれています。砂浜環境を整え、トップのみならず、グラス(サンド)ルーツでも“砂”のサッカーを楽しめるようにしたいと考えています。

Q: ビジョンをかなえるための課題とは? また、その解決策は?

松崎: ビーチサッカーを知っている人に“より”深く濃い情報を届けること。ビーチサッカーをまだ知らない人には、まず見てもらい、仲間になってもらう。ビーチの会場は非日常空間です。「何これ!」「ビーチってすごいね!」「オーバーヘッド!!」と、絶対に楽しさを感じてもらえるでしょう。試合会場にも足を運んでいただくため、プロアクティブに情報を発信していきま

す。JBSFは、上下関係なくさまざまな意見を出し合い、みんながそれを吸収できる組織にしていきたいですね。

Q: JBSFの将来的なビジョンを教えてください。

松崎: 「FIFAビーチサッカーワールドカップ優勝」という“夢”を実現すること。2021年のFIFAビーチサッカーワールドカップでは準優勝でした。技術レベルは世界トップクラスです。これをもう一つ押し上げるため、年間を通じてビーチサッカーがプレーでき、日常的に切磋琢磨する土台や環境の整備、選手、役員、審判員の広がり、それを支える堅固な組織基盤が必要です。そのためにも常にsomething differentな思考を心掛け、目的の実現を目指していきたいと考えています。



FIFAビーチサッカーワールドカップパラグアイ2019にて(写真中央が松崎専務理事)



日本障がい者サッカー連盟便り



「世界へ、そして地域へ アンプティサッカーの挑戦と広がり」

特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会 事務局広報部 鈴木要

<https://www.jiff.football/>

「アンプティサッカー」をご存知でしょうか。主に上肢または下肢に切断障がいのある人々により行われるサッカーで、フィールドプレイヤーはクラッチ(杖)を使いながら片足でドリブルやシュートをし、ゴールキーパーは片腕でゴールを守ります。クラッチを使ったダイナミックなプレーは、見る人の想像を覆します。国内のプレーヤー数は約100人で、全国で10チームが活動しています。

2025年6月、アンプティサッカー日本代表はポーランドで開催された国際大会「AMP Futbol Cup 2025」に出場し、モロッコ、トルコ、イングランド、ポーランドという世界の強豪に果敢に挑みました。勝利には届きませんでしたが、限られた準備期間の中で見せた粘り強い守備やゴールを目指す姿は、応援するファンを熱くさせました。国際舞台での経験は、選手たちの成長につながります。

また、国内では現在、「東日本アンプティサッカーリーグ2025」「西日本アンプティサッカーリーグ2025」の二つのリーグ戦が行われています。選手たちがクラッチを操り、ピッチを駆けめぐるとのスピード感、相手をかかわすテクニック、体を張った守備など、試合は常に見応え十分。観客席からは「想像以上の迫力だった」「もっと近くで見たい」という声が聞かれます。ルールやテクニックを知ること、競技の魅力をより深く感じてもらうことができます。

アンプティサッカーのリーグ戦は、選手たちの成長の場であると同

時に、地域と選手をつなぐ架け橋でもあります。観戦は無料で行われていますので、試合やイベントが近くで行われる際には、ぜひ足を運んでください。芝を駆けるクラッチの音、選手同士の声、迫力あるプレー。それは、きっと忘れられない体験になるはずです。

これからもアンプティサッカー日本代表は国内リーグで熱戦を続けながら、世界に挑みます。アンプティサッカーの魅力を、ぜひあなたの目で確かめてください。



「東日本アンプティサッカーリーグ2025」より

全日本大学サッカー連盟便り



未来を見据えて

一般財団法人全日本大学サッカー連盟 専務理事 櫻井友

<https://www.jufa.jp/>

年代別の選抜チームで欧州の大会に参加したことはありましたが、コロナ禍以降、久しぶりに全日本大学選抜として8月にヨーロッパ遠征(イタリア)を行いました。近年の大学出身選手の活躍とコーディネーターの尽力により、セリアAのチームと3試合も対戦することができました。海外遠征は、競技力向上はもちろん、異なる文化に触れることで人としての成長を促す重要な機会となります。ですので、今後も継続して海外遠征を行いたいと考えています。ただ、物価上昇と円安の影響によりコロナ禍以前と比べると費用の捻出は簡単ではないのが実情です。なぜならばほとんどのスポーツ統括団体は、加盟登録費、補助金、スポンサー料などから成り立っているからです。少子化の影響などもあって、年々、加盟登録チーム数も加盟登録選手数も減少し、加盟登録費は下がってきています。10年後、20年後、財政状況がより厳しくなるのは目に見えています。

そのような状況を見据え、本連盟では資産運用規程を改正して、一部資産をリスクがある金融商品で運用できるようにし、実際にそうした資産運用を始めました。

近年の物価上昇を踏まえて積極的な資産運用を行う法人が増えてきているものの、スポーツ団体では資産運用に対して消極的なのが現状です。しかし、本連盟が、リスクを伴いながらもリターンを期待できる形であまり運用できるようになれば、日本のスポーツ界におい

て今までにない収益構造を生むことにもなると考えています。個人的には究極の形はノーベル財団のように資産運用益のみで法人を運用することですが、そのためには大きな原資が必要で、正直難しいと思います。ただ少しずつ増やしていくことで、将来、資産運用益に伴う収入がスポンサー収入や補助金を超える可能性もあると考えています。10年後、20年後にあの時の決断が間違いではなかったと言われるよう、しっかり運用状況を確認していくとともに、財政基盤を盤石にするために一層の努力をしていく考えです。

最後になりましたが、サッカーに関わる全ての方が安全でかつ気軽にサッカーを楽しめることを願っております。



チェゼーナとの試合前セレモニーの様子

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていくきっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンブティサッカー協会

アンブティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目で、弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

支援団体

JIFFパートナー



日本サッカー後援会



Johnson & Johnson



東京海上日動

Nabtesco



Bewith





JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



© JFA / 2024年11月 日本代表先発メンバー

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER



会議レポート



公益財団法人日本サッカー協会 2025年度第9回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2025年8月28日、2025年度第9回理事会をJFAハウスで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- | | |
|--|-----------------------|
| 1 「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」の改正に関する件…………… P41 | 3 国際委員会 委員選任…………… P41 |
| 2 「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」改正… P41 | |

「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」の改正に関する件

2025年度第7回理事会（7月17日開催）で決議された「プロサッカー選手の登録、契約および移籍に関する規則」に1カ所の誤りがあったため、これを訂正する。

- （誤）イ.2026年前半シーズン：2026年1月12日から4月7日の年1回
- （正）イ.2026年前半シーズン：2026年1月12日から4月8日の年1回

●訂正内容

シーズン移行に伴うウインドーの再設定のうち、2026年前半シーズンのウインドー期間を訂正するもの。

「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」改正

「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」を下記の通り、改正する。

●改正内容

- (1)「トレーニング補償金（アマチュアからプロ）」の金額に係る規定
日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）より同規則に関する改正の要望があったため、これに基づき規則の該当条項を改正するもの。具体的には、同規則に定める「トレーニング補償金（アマチュアからプロ）」の金額を時限的に3年間、現行の25万円／年から15万円／年に引き下げる。
なお、本件改正の方針については、女子委員会、法務委員会の両委員会で審議、決議済み。

(2)その他適正化のための改正

FIFA規則および実運用などを踏まえ、規則の適正化を行う。

- ①国内のトレーニング補償金（プロ→プロ）に係る規定をFIFA規則に合わせて一部改正
- ②移籍リストに係る手続き、契約更新に係る手続き、国際移籍手続き等の手続規定を運用実態等に合わせて整理・適正化

これら改正については、2025年度第7回理事会（7月17日開催）における「プロサッカー選手の登録、契約および移籍に関する規則」の改正の決議において、女子およびフットサルの同名規則について同様の規則改正を行うことが決議されていることから、本規則について反映するもの。

国際委員会 委員選任

各所属先からの申し出により、国際委員会の委員を下記の通り、選任（交代）する。

- 退任：川埜周（かわの しゅう） 外務省 官房総務課長
新任：村上学（むらかみ まなぶ） 外務省 北米局北米第2課 課長

- 退任：橋秀治（たかはな ひではる） 元（独）国際協力機構 青年海外協力隊事務局 事務局長
新任：大塚卓哉（おおつか たくや） （独）国際協力機構 青年海外協力隊事務局 事務局長

報告事項

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 「令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨」災害支援活動…………… P41 | 4 2025年度功労賞…………… P43 |
| 2 2025年男子 日本代表カテゴリー別ナショナルコーチングスタッフ体制…………… P42 | 5 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（更新）…………… P43 |
| 3 審判員海外派遣…………… P42 | 6 裁定委員会に関する懲罰…………… P43 |
| | 7 規律委員会に関する懲罰…………… P43 |

「令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨」災害支援活動

「令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨」によって甚大な被害が発生し、全国各地のサッカーファミリーにも被害が生じている。については、「国内における自然災害等による被害に対する支援事業に関するガイドライン」に基づく支援対象の災害とし、下記の支援を実施することとした。

※詳細は次ページのJFAウェブサイト参照

●概要

8月6日から12日にかけて低気圧と前線の影響により、記録的な大雨が続いた。

次ページ左上へ続く

熊本県、鹿児島県、石川県などでは線状降水帯が発生。その影響で熊本県甲佐町のほか、複数の天然芝や人工芝のグラウンドが土砂の堆積などにより使用できなくなっている。そのため「国内における自然災害等による被害に対する支援事業に関するガイドライン」に基づく支援対象の災害とし、支援することとした。

なお、九州地方をはじめとする記録的な大雨については「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づく激甚災害に指定される見込み。

●緊急で実施した支援内容

熊本県フットボールセンター「COSMOS」内の芝生広場にケージボールコートを設置し、子どもたちが安心して遊べるスペースを提供した（設置日：8月22日、23日）。

https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20250828_01.pdf



2025年男子 日本代表カテゴリー別ナショナルコーチングスタッフ体制

2025年の男子の日本代表カテゴリー別ナショナルコーチングスタッフ体制は下記の通り。

(1) AFC U23 アジアカップ サウジアラビア 2026 予選に出場するU-22日本代表のコーチを新たに選任

<2025 ナショナルコーチングスタッフ体制>

★=新任

代表強化					
各代表チームスタッフ					
チーム	監督	コーチ	GKコーチ	フィジカルコーチ	テクニカル
SAMURAI BLUE 2026FIFAワールドカップ	森保一	名波浩 齊藤俊秀 前田遼一 長谷部誠	下田崇	松本良一	寺門大輔 若林太智 中下征樹 渡邊秀朗
U-22/21日本代表 AFC U23アジアカップ ロサンゼルスオリンピック	大岩剛	羽田憲司 ★越智滋之	佐藤洋平	矢野由治	越智滋之 (コーチ兼務) 引田真尋
U-20日本代表 AFC U20アジアカップ2025 FIFA U-20ワールドカップ2025	船越優蔵	菅原大介 羽田憲司	高原寿康	菅野淳	越智滋之
U-18日本代表 AFC U20アジアカップ2027 FIFA U-20ワールドカップ2027	*	*	*	大塚慶輔	*
U-17日本代表 AFC U17アジアカップ2025 FIFA U-17ワールドカップ2025	廣山望	大畑開	山岸範宏	佐藤哲哉	白石通史
U-16日本代表 AFC U17アジアカップ2026 FIFA U-17ワールドカップ2026	小野信義	*	井出大志	小嶺肇之	引田真尋
U-15日本代表	平田礼次	*	吉岡慎輔	*	*

*ナショナルコーチングスタッフ、JFAコーチ、ロールモデルコーチ、各種プロジェクトメンバーより技術委員会にて適宜選任予定。

審判員海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
AFCエリートメンズレフェリーセミナー2025	審判員	荒木友輔、笠原寛貴、飯田淳平、長峯滉希、谷本涼、山下良美、小泉朝香	7月21日～25日	ソウル/韓国
AFCレフェリーアセッサー サーティフィケーション2025	受講者	上川徹、佐藤隆治、山内宏志、深野悦子、手代木直美	7月8日～9日	クアラルンプール/マレーシア
	審判指導者(インストラクター)	山岸佐知子		

2025年度功労賞

地域サッカー協会（地域FA）および都道府県サッカー協会（都道府県FA）から申請があった右表の前（元）役員に功労賞を授与する。なお、本件については表彰規則第6条にのっとり、2025年度第4回殿堂・表彰委員会で承認された。

※対象者：

- (1) 地域FAおよび都道府県FAの三役（会長、副会長、専務理事）を退任された方
- (2) 地域FA役員を退任された方（役員歴20年以上）

No.	名前	都道府県サッカー協会	前(元)役職
1	橋本健一	栃木県	会長
2	糸井朗	栃木県	副会長
3	辻博文	岐阜県	会長
4	井上辰馬	福岡県	会長
5	養田智通	大分県	副会長
6	玉城吉貴	沖縄県	会長

JFAロングバイル人工芝ピッチ公認（更新）

(1) 申請者（施設所有者）：堺市

施設名：J-GREEN堺 S13

（大阪府堺市堺区築港八幡町145番地）

使用製品：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EXII-55T

公認期間：2025年6月23日～2028年6月22日

公認番号：第097号

(2) 申請者（施設所有者）：堺市

施設名：J-GREEN堺 S15

（大阪府堺市堺区築港八幡町145番地）

使用製品：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EXII-55T

公認期間：2025年7月14日～2028年7月13日

公認番号：第181号

(3) 申請者（施設所有者）：堺市

施設名：J-GREEN堺 S16

（大阪府堺市堺区築港八幡町145番地）

使用製品：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EXII-55T

公認期間：2025年7月14日～2028年7月13日

公認番号：第182号

裁定委員会に関する懲罰

裁定委員会より報告された懲罰案件について報告する。

公表内容は下記の通り。なお、公表期間は原則通り3年とする。

【事案1】

1. 当事者

JFA Cライセンス指導者

2. 懲罰の種類

1年間のサッカー関連活動停止

3. 懲罰の決定日

2025年7月7日

4. 懲罰の根拠条文

懲罰規程第34条第1項(1)

懲罰規程第34条第2項 [別紙3]表1

指導者に関する規則第20条(7)

5. 事案の概要

小学生選手に対する暴力

規律委員会に関する懲罰

規律委員会より報告された懲罰案件について報告する。

公表内容は下記の通り。なお、公表期間は原則通り3年とする。

【事案1】

1. 当事者

選手（第2種年代）

2. 懲罰の種類

7試合の公式試合の出場停止

3. 懲罰の決定日

2025年7月10日

4. 懲罰の根拠条文

第34条第1項第1号「本協会の各種規程・規則に違反したとき」、

第3項「競技及び競技会に関して本条の定める違反行為が認められた場合」

[別紙1]競技及び競技会に関する懲罰基準

2-6. 「選手等に対する暴行」

2-9. 「審判員に対する攻撃的、侮辱的若しくは暴力的言葉又はジェスチャーの使用」

5. 事案の概要

審判に対する攻撃的発言、選手等に対する暴行

誰もが安心・安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために



お互いに、ありがとう！

サッカーは楽しいもの。自分がやりたくてやるもの。そのためにも、**安心、安全な場**が必要です。

サッカーには暴力も暴言もありません。子どもたちの**挑戦する勇気**を見守り、励ましてください。

子どもたちは精一杯がんばっています。**応援**してください。

相手チームも**大切な仲間**です。両方の良いプレーに拍手を送ってください。

審判員も、子どもたちが思い切ってゲームができるように、**良いゲーム**になるように、一生懸命務めています。頑張って勉強も準備もしています。応援してください。

フェアプレーはみんなの約束です。1人審判はみんなの協力で成り立つサッカーのすばらしさの証です。

運営の人達は大変です。子どもたちのために良い大会にしたいと頑張っています。ぜひ「**おつかれさまです**」と声をかけてください。

保護者の皆さん。いつもありがとうございます。子どもたちは皆、**感謝**しています。

サポーターも、すばらしいゲームをつくる大事な仲間です。**爽快な良いゲーム**を！

ボールは僕の相棒であり、**宝物**。スパイクもバッグもお気に入り。大切に使う。

すばらしいピッチ、きれいな施設。きれいに使う。**ありがとうございます**。

たくさんのチャレンジ。成功と失敗。達成感とくやしきさ。勝っても負けても、すばらしい経験。子どもたちの**成長をサポート**できることは幸せです。



- ① U-19日本女子代表 AFC U20女子アジアカップタイ2026予選
- ② 第49回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会
- ③ 令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(男子)
- ④ 第40回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会
- ⑤ 令和7年度 全国中学校体育大会 第56回全国中学校サッカー大会
- ⑥ 令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(女子)

- ⑦ 第7回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)
- ⑧ 第21回全日本大学フットサル大会
- ⑨ JFA 第12回全日本U-18フットサル選手権大会
- ⑩ JFA バーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ / VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

U-19日本女子代表 AFC U20女子アジアカップタイ2026予選

【スタッフ】

○監督: 井尻明(NCS) ○コーチ: 鈴木木乃実(NCS) ○GKコーチ: 小林忍(NCS) ○フィジカルコーチ: 石井孝典(NCS) ○テクニカルスタッフ: 見原慧(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	岩崎有波	ノジマステラ神奈川相模原	FP	栗本悠加	筑波大学
	名和咲香	セレッソ大阪ヤンマーレディース		鈴木温子	日体大SMG横浜
	石田ひなは	サンフレッチェ広島レジーナ		眞城美春	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
FP	柘植沙羽	ちふれASエルフェン埼玉	古田麻子	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18	
	樋口梨花	ちふれASエルフェン埼玉	原ひばり	JFAアカデミー福島	
	秋本佳音	三菱重工浦和レッズレディース	本多桃華	十文字高校	
	木村未来	ちふれASエルフェン埼玉	伊勢はな	三菱重工浦和レッズレディースユース	
	高橋光莉	日体大SMG横浜	牧口優花	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18	
	松永未夢※1	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	榑愛花	JFAアカデミー福島	
	板村真央	フェイエノールト/オランダ	津田愛乃音	マイナビ仙台レディースユース	
	横山笑愛	アルビレックス新潟レディース	小島爽※2	INAC神戸レオンチーナ	
	新井萌希※1	セレッソ大阪ヤンマーレディース	根津里莉日※2	ジェフ千葉レディース	
	藤崎智子	三菱重工浦和レッズレディース			

※1: ケガのため不参加
※2: 追加招集

<スケジュール>

7月29日	羽田発、バンコク着
30日~8月1日	トレーニング (Bangkok Thonburi University)
2日	練習試合 vs U-19タイ女子代表 (Bangkok Thonburi University)
3日	バンコク発、クアラルンプール着
4日~5日	トレーニング
6日	AFC U20女子アジアカップタイ2026予選 グループステージ第1戦 vs U-19グアム女子代表 (Kuala Lumpur Football Stadium)
7日	トレーニング
8日	グループステージ第2戦 vs U-19マレーシア女子代表 (Kuala Lumpur Football Stadium)
9日	トレーニング
10日	グループステージ第3戦 vs U-19イラン女子代表 (Kuala Lumpur Football Stadium)
11日	クアラルンプール発、成田着

順位	グループF	日本	イラン	マレーシア	グアム	勝	分	負	得点	失点	差
1	日本	11	0	16	0	5	0	0	32	0	32
2	イラン	0	11	3	0	2	0	1	5	11	-6
3	マレーシア	0	16	0	3	2	0	2	2	19	-17
4	グアム	0	5	0	2	0	0	3	0	9	-9

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

グループステージ第1戦

U-19日本女子代表 **5** (前半3-0 後半2-0) **0** U-19グアム女子代表

●2025年8月6日 16:45 ●Kuala Lumpur Football Stadium ●試合時間:90分 審判員:[主審]MU MINGXIN(CHN) [副審]WU QIAOLI(CHN) / ROBA ZARKA(SYR) [第4の審判員]ALESAR BADDOUR(SYR) ●マッチコミッショナー:TASHI DORJI WANGMO(BHU) ●観衆: 200人

日本(監督:井尻明):[GK](1)名和咲香 [DF](5)牧口優花<→HT(2)鈴木温子>(6)横山笑愛(16)柘植沙羽(17)原ひばり<→60'(3)秋本佳音> [MF](9)根津里莉日<→80'(7)板村真央>(14)樋口梨花<→60'(20)木村未来>(19)高橋光莉<→69'(18)津田愛乃音>(21)榑愛花 [FW](8)小島爽(10)藤崎智子

控え:(12)岩崎有波(23)石田ひなは(4)本多桃華(11)栗本悠加(13)古田麻子(15)眞城美春(22)伊勢はな

得点: 6'根津里莉日(1-0)、10'、84'藤崎智子(2-0)(5-0)、44'柘植沙羽(3-0)、74'津田愛乃音(4-0)

グループステージ第3戦

U-19日本女子代表 **11** (前半5-0 後半6-0) **0** U-19イラン女子代表

●2025年8月10日 16:45 ●Kuala Lumpur Football Stadium ●試合時間:90分 審判員:[主審]BERNATSKAIA VERONIKA(KGZ) [副審]EMMA ROSE KOCBEK(AUS) / H. M. M. MADHUSHANI(SRI) [第4の審判員]PANSА CHAISANIT(THA) ●マッチコミッショナー:TASHI DORJI WANGMO(BHU) ●観衆: 95人

日本(監督:井尻明):[GK](12)岩崎有波 [DF](3)秋本佳音<→70'(2)鈴木温子>(4)本多桃華(5)牧口優花(6)横山笑愛 [MF](7)板村真央<→61'(19)高橋光莉>(14)樋口梨花(15)眞城美春(20)木村未来<→79'(8)小島爽> [FW](10)藤崎智子<→61'(18)津田愛乃音>(13)古田麻子<→61'(11)栗本悠加>

控え:(1)名和咲香(23)石田ひなは(9)根津里莉日(16)柘植沙羽(17)原ひばり(21)榑愛花(22)伊勢はな

得点: 12'木村未来(1-0)、18'古田麻子(2-0)、24'、44'、51'板村真央(3-0)(5-0)(6-0)、34'、52'、59'藤崎智子(4-0)(7-0)(8-0)、61'津田愛乃音(9-0)、74'、90'+1'高橋光莉(10-0)(11-0)

グループステージ第2戦

U-19日本女子代表 **16** (前半7-0 後半9-0) **0** U-19マレーシア女子代表

●2025年8月8日 20:45 ●Kuala Lumpur Football Stadium ●試合時間:90分 審判員:[主審]PANSА CHAISANIT(THA) [副審]EMMA ROSE KOCBEK(AUS) / WU QIAOLI(CHN) [第4の審判員]MU MINGXIN(CHN) ●マッチコミッショナー:TASHI DORJI WANGMO(BHU) ●観衆: 512人

日本(監督:井尻明):[GK](23)石田ひなは [DF](2)鈴木温子(4)本多桃華<→63'(20)木村未来>(16)柘植沙羽(17)原ひばり [MF](7)板村真央<→HT(8)小島爽>(9)根津里莉日<→63'(5)牧口優花>(15)眞城美春<→80'(14)樋口梨花>(21)榑愛花<→63'(11)栗本悠加> [FW](13)古田麻子(18)津田愛乃音

控え:(1)名和咲香(12)岩崎有波(3)秋本佳音(6)横山笑愛(10)藤崎智子(19)高橋光莉(22)伊勢はな

得点: 5'、24'、30'、61'津田愛乃音(1-0)(4-0)(5-0)(11-0)、14'、17'、34'板村真央(2-0)(3-0)(6-0)、45+2'、47'、90+4'古田麻子(7-0)(8-0)(16-0)、53'、59'、80'小島爽(9-0)(10-0)(15-0)、64'柘植沙羽(12-0)、70'、76'栗本悠加(13-0)(14-0)

第49回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会

一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟とJFAが主催する本大会は、JFAに第2種加盟登録し、日本クラブユースサッカー連盟に2025年5月9日までに加盟登録したチームで、2007年4月2日から2010年4月1日までに生まれた選手に出場資格が与えられた。今大会は9地域の32チームが参加して7月22日から31日、群馬県、大阪府、兵庫県、山口県、広島県、宮崎県、神奈川県で開催された。

※68ページに関連記事あり

■グループステージ

順位	グループA	神戸	浦和	大宮	山形	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ヴィッセル神戸U-18(関西1)		0●2	2○1	1○0	6	2	0	1	3	3	0
2	浦和レッズユース(関東11)	2○0		1△1	0△0	5	1	2	0	3	1	2
3	RB大宮アルディージャU18(関東7)	1●2	1△1		0△0	2	0	2	1	2	3	-1
4	モンテディオ山形ユース(東北2)	0●1	0△0	0△0		2	0	2	1	0	1	-1

順位	グループB	鹿島	長野	磐田	千葉	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	鹿島アントラーズユース(関東4)		2○1	2○0	3○0	9	3	0	0	7	1	6
2	A.C長野パルセイロU-18(北信越2)	1●2		2△2	2○1	4	1	1	1	5	5	0
3	ジュビロ磐田U-18(東海2)	0●2	2△2		1△1	2	0	2	1	3	5	-2
4	ジェフユナイテッド千葉U-18(関東9)	0●3	1●2	1△1		1	0	1	2	2	6	-4

順位	グループC	東京V	G大阪	熊本	沼津	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	東京ヴェルディユース(関東2)		4○1	4○0	2○1	9	3	0	0	10	2	8
2	ガンバ大阪ユース(関西4)	1●4		3○1	2○1	6	2	0	1	6	6	0
3	ロアッソ熊本ユース(九州5)	0●4	1●3		2○0	3	1	0	2	3	7	-4
4	アスルクラロ沼津U18(東海3)	1●2	1●2	0●2		0	0	0	3	2	6	-4

順位	グループD	FC東京	愛媛	三菱養和	福岡	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	FC東京U-18(関東5)		1△1	3○2	5○3	7	2	1	0	9	6	3
2	愛媛FC U-18(四国1)	1△1		1○0	2○0	7	2	1	0	4	1	3
3	三菱養和SCユース(関東10)	2●3	0●1		0△0	1	0	1	2	2	4	-2
4	アビスパ福岡U-18(九州1)	3●5	0●2	0△0		1	0	1	2	3	7	-4

順位	グループE	名古屋	柏	秋田	C大阪	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	名古屋グランパスU-18(東海1)		1○0	2○0	2○0	9	3	0	0	5	0	5
2	柏レイソルU-18(関東6)	0●1		2○0	3○0	6	2	0	1	5	1	4
3	ブラウブリッツ秋田U-18(東北3)	0●2	0●2		2○1	3	1	0	2	2	5	-3
4	セレッソ大阪U-18(関西3)	0●2	0●3	1●2		0	0	0	3	1	7	-6

順位	グループF	横浜FM	広島	新潟	鹿児島	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	横浜F・マリノスユース(関東8)		1○0	2△2	2○1	7	2	1	0	5	3	2
2	サンフレッチェ広島FCユース(中国1)	0●1		2○0	8○1	6	2	0	1	10	2	8
3	アルビレックス新潟U-18(北信越1)	2△2	0●2		1○0	4	1	1	1	3	4	-1
4	鹿児島ユナイテッドFC U-18(九州4)	1●2	1●8	0●1		0	0	0	3	2	11	-9

順位	グループG	仙台	川崎	岡山	長崎	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ベガルタ仙台ユース(東北1)		1○0	1△1	1○0	7	2	1	0	3	1	2
2	川崎フロンターレU-18(関東3)	0●1		2○0	5○0	6	2	0	1	7	1	6
3	ファジアーノ岡山U-18(中国2)	1△1	0●2		4○0	4	1	1	1	5	3	2
4	V・ファーレン長崎U-18(九州2)	0●1	0●5	0●4		0	0	0	3	0	10	-10

順位	グループH	京都	鳥栖	札幌	横浜FC	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	京都サンガF.C. U-18(関西2)		1△1	0△0	2○1	5	1	2	0	3	2	1
2	サガン鳥栖U-18(九州3)	1△1		2○0	0●1	4	1	1	1	3	2	1
3	北海道コンサドーレ札幌U-18(北海道1)	0△0	0●2		2○1	4	1	1	1	2	3	-1
4	横浜FCユース(関東1)	1●2	1○0	1●2		3	1	0	2	3	4	-1

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



準決勝

鹿島アントラーズユース **1** (前半1-0 後半0-1) **1** FC東京U-18
PK4-2

●2025年7月29日 18:00 ●ニッパツ三ツ沢球技場 ●試合時間:80分、PK ●審判員:【主審】眞尾龍 【副審】大藤翔平/竹田和雄 【第4の審判員】大泉拓 ●観衆:947人

鹿島 (監督:中野洋司):[GK](1)菊田修斗 [DF](2)朝比奈叶和(3)元砂晏翔仁ウデンバ(4)大川佑梧(26)岩土そら [MF](6)大貫琉偉(10)平島大悟(14)中川天蒼(27)福岡勇和 [FW](13)高木瑛人<->72'(15)高木輝人>(40)吉田湊海

控え:(29)黒澤奨永(8)佐藤湧斗(9)正木裕翔(11)長疾風(18)三浦直人(22)倉橋幸輝(44)滝澤周生(55)土井空芽

FC東京 (監督:佐藤由紀彦):[GK](30)渡邊麻舟 [DF](2)小島颯来(5)諏訪啓太(15)鈴木楓(25)松野泰知 [MF](6)二階堂遼太郎(8)菅原悠太(10)田中希和(12)田邊晴大<->63'(17)友松祐貴>(33)北原隼 [FW](18)尾谷ディヴァイン チネドゥ

控え:(16)新堀恵太(3)藤森登也(4)佐々木将英(7)古賀駿(9)江口海渡(11)中屋光廉(14)高橋裕哉(37)田中遥大

得点 [鹿島]38'平島大悟(1-0)
[FC東京]70'尾谷ディヴァイン チネドゥ(1-1)

警告 [鹿島]66'福岡勇和、77'元砂晏翔仁ウデンバ

PK [鹿島]先(40)○(14)○(6)○(10)○
[FC東京](8)○(10)×(15)○(2)×

準決勝

名古屋グランパスU-18 **0** (前半0-2 後半0-0) **2** ベガルタ仙台ユース

●2025年7月29日 18:00 ●横浜市三ツ沢公園陸上競技場 ●試合時間:80分 ●審判員:【主審】平塚将哲 【副審】谷弘樹/池田元 【第4の審判員】前田理行 ●観衆:356人

名古屋 (監督:三木隆司):[GK](1)萩裕陽 [DF](3)小室秀太(5)神戸間那<->80+2'(30)齋藤太陽>(24)オディケ チソン太地 [MF](6)野村勇仁(9)野中祐吾<->72'(18)神谷輝一>(10)八色真人(15)恒吉良真<->57'(38)八色隼人>(20)小島蒼斗<->57'(8)平川大翔>(28)千賀翔太郎<->57'(27)白男川幹斗> [FW](11)大西利都

控え:(16)加藤直太郎(2)山本陽輝(14)鶴田周(23)中條遼人

仙台 (監督:加藤望):[GK](12)渡辺航聖 [DF](2)古川柊斗(3)似内久穂(4)永井大義 [MF](6)松田匠未<->HT(18)阿部琉海>(7)浅尾涼太郎<->80+2'(14)横山琉偉>(8)池田悠一(10)稲木康太<->73'(27)石原滉大>(13)永守大宙<->63'(11)ビドウ大樹>(21)山山葉流 [FW](9)古屋歩夢

控え:(43)真尊ジョイ(20)佐々木亮(26)徳永匡哉(29)菊池倭征(40)安部嶺尊

得点 [仙台]4'、27'古屋歩夢(0-1)(0-2)

警告 [仙台]56'永守大宙

データボックス

【参加選手】

<北海道コンサドーレ札幌U-18> 監督:柴田慎吾
江利山晃空、葛西明日真、唯野鶴真、権五慎、丸井陽人、窪田圭吾、手塚深心、徳差便利、大澤志臣、吉田愛彩、河村虎之介、井田泰彰、松坂泰志、古川蒼空、加藤竜之介、川崎幹大、傳光太郎、猪谷椋大、多田蒼生、笹原悠、渋谷優里、山本侑太、小松隼士、市田蒼葉、牧野岳、中村琉生、桑原智琉、佐藤悠飛、菊池瑠生、対馬夢胡

<ベガルタ仙台ユース> 監督:加藤望
笛田征衛門、渡辺航聖、藤島瑛大、真藤ジョイ、古川柊斗、似内久穂、永井大義、今野翔太、徳永匡哉、石原滉大、松田啓来、鐘木雅隆、安部嶺尊、松田匠未、浅尾涼太郎、池田悠一、稲木康太、永守大宙、横山琉偉、阿部琉海、山本葉琉、山崎芹良、菊池倅征、久保佑貴、水澤春太、古屋歩夢、ピドウ大樹、佐々木亮、佐藤昂太、大山真志

<モンテディオ山形ユース> 監督:秋葉勝
佐藤陸斗、佐藤悠斗、位田侑飛、寒河江琉生、菅原義大、笠原悠慎、小形悠希、斎藤大地、樋口由都、木村虎雅、豊一翔、原田利一、高梨通真、長坂春虎、高石琉葵亞、伊藤翔、伊藤隼太、佐藤宏樹、横尾翔、中村優太、佐々木望夢、名和來雅、庄司蔵人、山口大地、土田健太、尾上翔琉、水戸部東次、梅木瑠璃、山田陽友、阿部脩人

<ブラウブリッツ秋田U-18> 監督:佐藤博志
光山翔、山岡芽生、佐々木翔大、笹淵陸翔、松橋空、伊藤圭佑、佐藤颯哉、藤嶋航太郎、鈴木瑛太、米川瑠社、寺門純悠、神田輝輝、石井子竜、平山彪我、白井泰生、佐藤秀斗、金子紫音、高橋興、永澤松太、川村凜空、原田隼佑、長岡崇龍、高木昊大、小坂橋采環、二宮健輝、佐々木輝大、遠藤和、黒沼蓮、武田優太

<横浜FCユース> 監督:和田拓三
櫻井斗真、西方瑛太郎、大亀司、山岸克斗、松尾蒼大、芹澤悠、秦樹、大川菜、佃颯太、家田唯白、山崎善士、小島頂陸、吉田悠悟、川端望季、鈴木歩武、菅野心人、秋元颯太、岩崎亮佑、柴草哲景、矢内翔磨、福岡漢大、四日裕歩、浅井翔、椿渥裕、鈴木晴弥、高原由翔、大沼謙士、齋藤翔、津崎時愛、黒木星南

<東京ヴェルディユース> 監督:小笠原資晴
山崎琉聖、林亮太、矢口大空、名和優太郎、渡邊春来、中村宗士朗、伊東晋平、草間信、山田将弘、中山大輝、カマラ・シェック・ザール、並河諒、原田爽潤、川本悠祐、松宮聖、今井健人、下吉洗平、舩舘凜汰、今井宏亮、仲山獅恩、木下晴天、広瀬怜音、相原陽向、千葉大輔、門馬輝、若月蓮、古賀大雅、杉山まはる、寺村智晴、鈴木颯人

<川崎フロンターレU-18> 監督:森勇介
松澤成音、井澤明己、岡本菜汰、植木琉斗、関徳晴、藤田明日翔、林駿佑、柏村涼太、ペインエンス海翔、山川陽平、菊池宗、長崎佑佑、笹倉拓真、橋田遥希、藤井連祐、平内一聖、新堀翔、平塚隼人、小川尊斗、三上瑛大、小川翔太、木下晴正、小田脩人、武内勇人、木村風斗、恩田裕太郎、ステンパルク大翔、廣瀬寧生、川村求、全天海

<鹿島アントラーズユース> 監督:中野洋司
菊田修斗、大下幸誠、黒澤奨永、新垣祥大、朝比奈叶和、元砂晏翔仁ウデンバ、大川佑祐、若永佳樹、大島琉空、倉橋幸暉、林勘太、若土そら、熊澤結人、大貫琉偉、佐藤湧斗、平島大悟、中川天蒼、三浦直人、殿岡諒大、小笠原史、福岡勇和、三好凌月、正木裕翔、長疾風、高木瑛人、高木輝人、吉田漢海、滝澤周生、石渡智也、土井空芽

<FC東京U-18> 監督:佐藤由紀彦
北川廉人、新堀恵太、佐藤蒼起、渡邊麻舟、小島颯来、藤森登也、佐々木将実、諏訪啓太、鈴木楓、松野泰知、永田柊真、田中遼大、橋本凜来、石村琢人、相馬陸人、塩崎春斗、二階堂凜太郎、古賀駿、菅原悠太、田中希和、中屋光廉、田邊晴大、高橋裕哉、友松祐貴、北原積、中野寛基、根山蓮輝、江口海渡、尾谷ディヴァイン、チネドフ、井部結斗

<柏レイソルU-18> 監督:藤田優人
ノグチ ビントアキ、西川元基、金子遙真、三好翔斗、栗島颯汰、上原侑央、長南開史、酒井一輝、三村叶夢、吉川晴翔、岸野遼大、佐藤悠大、上野暉晏、丸山寿貴斗、落合哉太、川本大善、廣阿瑛太、沼端隼人、安倍千晴、阿出川琥吾、杉山駿之介、徳田波音、越川翔矢、加茂結斗、澤井烈士、長澤然、梶田健斗、巻瀧悠悟、茂木勇人、チュクソム、五十嵐颯

<RB大宮アルディージャU18> 監督:丹野友輔
金子武蔵、岡村泰志、木村優輝、油田傑更、酒井舜哉、藤原朝日、萩原央太郎、中澤凜、木寺俊直、遠藤柊真、川田聖人、井岸響輔、若城敬大、斎藤凜生、小林祐希、田中泰良、大関駿、神田泰斗、小坂真聖、エドワード真秀、久良木慶斗、本田芽芽、大平翔太、熊田佳斗、石川匠、野口蒼流、平家瑠久斗、中島大翔、兼頭晴宗、福原理輝

<横浜F・マリノスユース> 監督:菅原剛一
鈴木魁、齋田晃、川本旺汰、川井涼風、山田悠貴、齋藤仁、奥寺漢、早川優世、平野遊、藤井翔大、加藤諒太、杉戸凱飛、金山瑠海、金丸希陽、草野陸、海邊真太郎、加藤海輝、内藤澄夢、松田康太郎、松元蓮旺、五十嵐雄涼、小林隼介、今村涼弥、江川慶亮、松永翔、齋藤芭流、田中陽瑛、小幡志雄、沢口崇太、浅田大翔

<ジェフユナイテッド千葉U-18> 監督:藤田健
上條冬桜、高井理来、榎本慈音、大和久悠真、鈴木里穂、佐藤友孝、福岡志志、眞鍋波留也、伊藤喬崇、吉木倫、齋藤敬大、錦石翔、大森聖太、赤松直季、齋藤隼士、新井颯斗、金井陽輝、二宮大、工藤逸馬、大山蓮哉、伊藤暉、蛭田活、藤澤開次、木原駿、榎木祥生、島垣魁、秋葉映潤、姫野誠、澤田杏史、川浦蓮太郎

<三菱養和SCユース> 監督:増子亘彦
長谷川宗大、スタチー・レオナルド、酒井響大、鄭幹太、坂下流星、島山晃、渡邊龍龍、後藤拓、高橋大輝、須田耀介、藤本煌清、畑中大輝、石川友翔、伊藤優、西村凌、倉持諒太郎、佐伯渡世、今井颯大、菊池開天、江口慧太、外山凌大、工藤颯真、西垣凜久、長谷川侑大、齋藤風、伊東琉音、加藤雄大、白鳥蓮、石田蓮登、平川謙

<浦和レッズユース> 監督:阿部勇樹
大槻久翔、マルコム、アレックス・憲太、佐藤大翔、田中義孝、東方純純、安藤純和、田中一信、木下侑也、中上遥登、片野大志、高橋温郎、野口直、和田直哉、平塚晴空、白井桜介、阿部湧心、小川直澄、深田京吾、中田夕也、関口昇佑、福原琉空、薫澤洋紀、西川碧斗、宮崎叶、田中暎大、二宮武士、山根且穂、小瀧凜太郎、吉田真信、中村虎太郎

決勝

鹿島アントラーズユース 3(前半2-0 後半1-0)0 ベガルタ仙台ユース

●2025年7月31日 18:00 ●ニッパツ三ツ沢球技場 ●試合時間:80分 ●審判員:【主審】西田裕貴 【副審】友政利貴/宇田川泰弘 【第4の審判員】長谷川豊 ●観衆:1,968人

鹿島(監督:中野洋司):[GK](1)菊田修斗 [DF](2)朝比奈叶和(3)元砂晏翔仁ウデンバ(4)大川佑祐(26)若土そら<->80+2'(7)大島琉空> [MF](6)大貫琉偉(10)平島大悟<->80+2'(9)正木裕翔>(14)中川天蒼<->80+3'(55)土井空芽>(27)福岡勇和 [FW](13)高木瑛人<->73'(15)高木輝人>(40)吉田漢海

控え:(29)黒澤奨永(8)佐藤湧斗(11)長疾風(18)三浦直人(22)倉橋幸暉

仙台(監督:加藤望):[GK](12)渡辺航聖 [DF](2)古川柊斗(3)似内久穂<->78'(21)石山葉琉>(4)大川佑祐(26)若土そら<->80+2'(7)大島琉空> [MF](6)大貫琉偉(10)平島大悟<->56'(27)石原滉大>(8)池田悠一(10)稲木康太<->80+3'(20)佐々木亮>(13)永守大宙<->HT(11)ピドウ大樹> [FW](9)古屋歩夢

控え:(43)真藤ジョイ(14)横山琉偉(29)菊池倅征(40)安部嶺尊

得点:【鹿島】18'福岡勇和(1-0)、37'高木瑛人(2-0)、53'中川天蒼(3-0)

警告:【鹿島】28'大川佑祐、57'高木瑛人 【仙台】78'古屋歩夢

<アルビレックス新潟U-18> 監督:田中達也
加壁星響、松浦大翔、佐藤空斗、栗原冬聖、松澤淳央、サグダブ・イリヤ、目黒暖大、安田陽平、三野原巨輝、鳥羽ひかる、中澤琉輝、倉茂竜馬、稲場健人、竹ノ谷颯優、小林来琉、石山未来、井本修都、岡崎我徒、小林椋人、星山陽哉、渡邊晴晴、長沼慎悟、阿部心、笹木翔来、澁谷哉仁、田中琉磨、長谷川蒼羽、堀江禮氣、豊島亮太郎、山崎琉偉

<AC長野パルセイロU-18> 監督:勝又慶典
茅野玄穂、高井瑛都、柚山善、小松世那、宮澤柑太、大高晃、竹松然、塩入尚悟、鎌崎蔵、宮澤輝、山本耀斗、高井嶺、元田昂、瀨田悠人、唐澤利哉、小林侑悟、林麟太郎、菅紀人、吉野凜、辻和真、牧俊斗、飛田隼、小林冠太、中込亮太、武藤颯我、赤川修吾、吾妻剛玖、小川慎風、村松優蘭、河合紘杜

<名古屋グランパスU-18> 監督:三木隆司
萩裕陽、加藤直太郎、岡野恭護、利田夏惟、山本陽輝、小室秀太、神戸間那、丸山世来人、水野優人、オディケ チソン太地、白男川鈴斗、西青木佐泰、足立惺洋、野村勇仁、平川大翔、野中祐吾、八色真人、鶴田周、恒吉良真、神谷輝一、小島蒼斗、中條遼人、大見咲南、千賀翔太郎、齋藤太陽、池田歩弘、大西利都、伊藤ケン、石田翔琉、八色隼人

<ジュビロ磐田U-18> 監督:安間貴義
吉岡幹太、桐原陽歩、杉浦凜乃助、植瑞貴、伊藤心音、横山航大、平岩煌麻、小澤有悟、甲斐佑蒼、森島卓雅、山本咲大、水野隼佑、松島凜人、西野陽向、河合航希、高澤海志、石塚蓮歩、本多瑠偉、伊藤賢良、西岡健斗、竹山朋希、片岡蓮心、一木朝日、小枝翔太郎、藤本神之介、中谷桜太郎、持永藍雅、服部公紀、荒川貴哉、増井利空士

<アスルクラロ沼津U18> 監督:吉田悟
大平龍汰、藤田虎太郎、石原大吾、藤原弘、樋口新、塩崎丈、佐野輝典、勝又大地、伊藤凜太郎、西島輝輝、菊池悠高、藤本悠矢、金指純平、土屋碧人、永島大悟、杉山瓜、秋山陽太、井出卓河、中野遥翔、井出羽優、大塚颯生、清田昂、瀧恵佑、栗原志成、赤池奏吾、永田拓輝、木内智稀、村松海音、興五澤翔羽、森川生翔

<ヴェニチーノ神戸U-18> 監督:安部雄大
亀田大河、胡云皓、吉川裕汰、木全皓志郎、西川亜都、寺岡佑真、原蒼汰、武石大空、西村水岐、高嶋蒼和、西岡廣佑、上本佳生、藤本隆攻、里見汰福、瀨口大翔、大西漢太、片山航汰、上野颯太、谷口央和、林楓介、土井口立、坂口佑樹、井ノ本歩夢、井内亮太郎、菊池謙剛、森分圭吾、川端悠哉、前田凱吏、西田翔、ディアロ アルファ

<京都サンガF.C.U-18> 監督:石田英之
本多敦、近藤藤、藤原汰朗、関谷巧、原山颯、児玉一成、音なぎ空、古田快斗、三原雄平、山本裕央、関航大、上野咲輝、有泉達樹、寺本雄登、小鷹天、尹星俊、昌山勇、松本悠臣、松本瑛太、山本琉愷、坂倉祐飛、岡本侑汰、小山ジン、阿部亮馬、酒井凜生、藤井敬士、田村駿弥、滝川颯馬、樋口僚哉、相原清人

<セレッソ大阪U-18> 監督:金昇正
青谷咲哉、川中碧音、イシホウ拳、平田琉人、エゼモクエ チメツェ海、伏見眺永、中村尚暉、金龍起、山本世樹、刈田琉唯、海保颯大、津田颯太、松本空、中辻晴大、丸尾康太、増田琢心、手嶋蒼介、吉野啓太、中瀬望聖、大島鉄平、増井翔、前田遼介、岡崎英、尾崎智也、國吉晴向、小野田亮汰、塩尻哲平、芝田琉真、永添功樹、巻悠輝

<ガンバ大阪ユース> 監督:町中大輔
荒木琉偉、野畑優真、小川悠有、藤ヶ谷陽歩、丸岡海太、松本唯吹、阿見尚哉、藤崎大雅、横井佑哉、小林蒼、岡本龍大、岡元侑大、嶋岡陽大、山本天翔、中島悠吾、柴田隼也、菅野泰生、村田康輔、河内昂、藤本祥輝、深江龍明、北井涼介、加藤倅太、武井遼太郎、中積為、久永虎次郎、安井司、城阪光喜、川野聖、岡本新大

<サンフレッチェ広島F.Cユース> 監督:野田知
小川煌、野呂海斗、枝川航大、野崎光汰、児玉司、林詢大、梅田大翔、長沼聖明、小柳柊、森井莉人、富田雅翔、西翔生、山里謙心、野口蓮斗、小林志毅、浅沼凌弥、太田大翔、原漢士、河上颯希、岡岡介、正法地有、田中優輝、野口颯斗、宗田花生、土井川遼人、信重亮二朗、菊山瑠皇、牧野太河、高橋成海、佐藤壯知

<ファジアーノ岡山U-18> 監督:梁圭史
来海良宣、中川結心、水田優誠、古市勝也、瓶井常業、脇本祐希、小森翔太、千田遊、家嶋佑久也、森光英斗、向井涼太、榎諒次、加納尚則、行友翔音、坂本蓮太、平尾鴻成、末宗寛士、田邊健太、堤涼太郎、松本千太郎、松本優輝、山内修平、五老海太智、本山史玖馬、藤原幸徳、堤清史郎、作田航輝、禰山唯人、安西来起、元野蒼空

データボックス

<愛媛FC U-18> 監督:北内耕成
 龜山雄汰、山田徠斗、坂田康祐、小笠原謙伸、瑞慶覧長汰、塩見勇貴、石原拍、福石拳太郎、齋藤佑人、實田航大、田邨玲弥、佐藤優馬、平野皓大、田中碧、森実晃、嵐亮太郎、浦添朝仁、真部賢太郎、仙波隼太郎、本田巧、神野成実、小松海晴、吉岡空叶、佐竹海力、山岡遥斗、俵拓斗、青木孝清、玉城千也、菅範十、石橋潤人

<アビスパ福岡 U-18> 監督:久永辰徳
 神谷悠心、島本小鉄、田中利政、石田慶次、小浦拓実、戸田清颯、樺島勇波、益田凱斗、岩本壘、山本順也、藤川虎三、永田湧大、黒木遥斗、大田俊斗、中村環太、塚谷天、廣田陸人、和田駿佑、熊本大空、池田琥大、永富颯人、松浦拓夢、水竹陽紀、松尾遼磨、井上雄太、北園大海、前田陽輝、松本優希都、品川維風、佐山謙

<Vファーレン長崎 U-18> 監督:原田武男
 原嶋海翔、立石珠子、梅崎正基、黒川偉心、大東誠人、田中友章、名越一樹、折戸颯良、水田咲哉、上戸涼生、東透生、大田和、木立希夢、吉原希音、浅井琉希、清水法生、岩永大翔、鳥越朝太郎、北口輝我、西村真生、内田悠斗、中山想、伊豆元涼介、本村杏、池田一翔大、村田壯優、宮口裕多、片野琉人、大山星七、森伊織

<サガン鳥栖 U-18> 監督:日高拓磨
 谷泰養、エジケ唯吹ヴィンセントジュニア、久富一寛、黒木雄也、岩村淳之介、下田優太、山口耀琉、鈴木颯真、米湊勇弥、吉村吏貴、三宮汰翔、池田季礼、原口幸之助、古賀稜麻、東口藍太郎、鈴木悠希、加藤孝一朗、末次瞬、大野廉門、中村優希、伊澤璃来、仙石新、田中佑和、山村チーディ賢斗、新川志音、水巻時飛、谷大地、真殿京佑、山下隼良、千々と祥吾

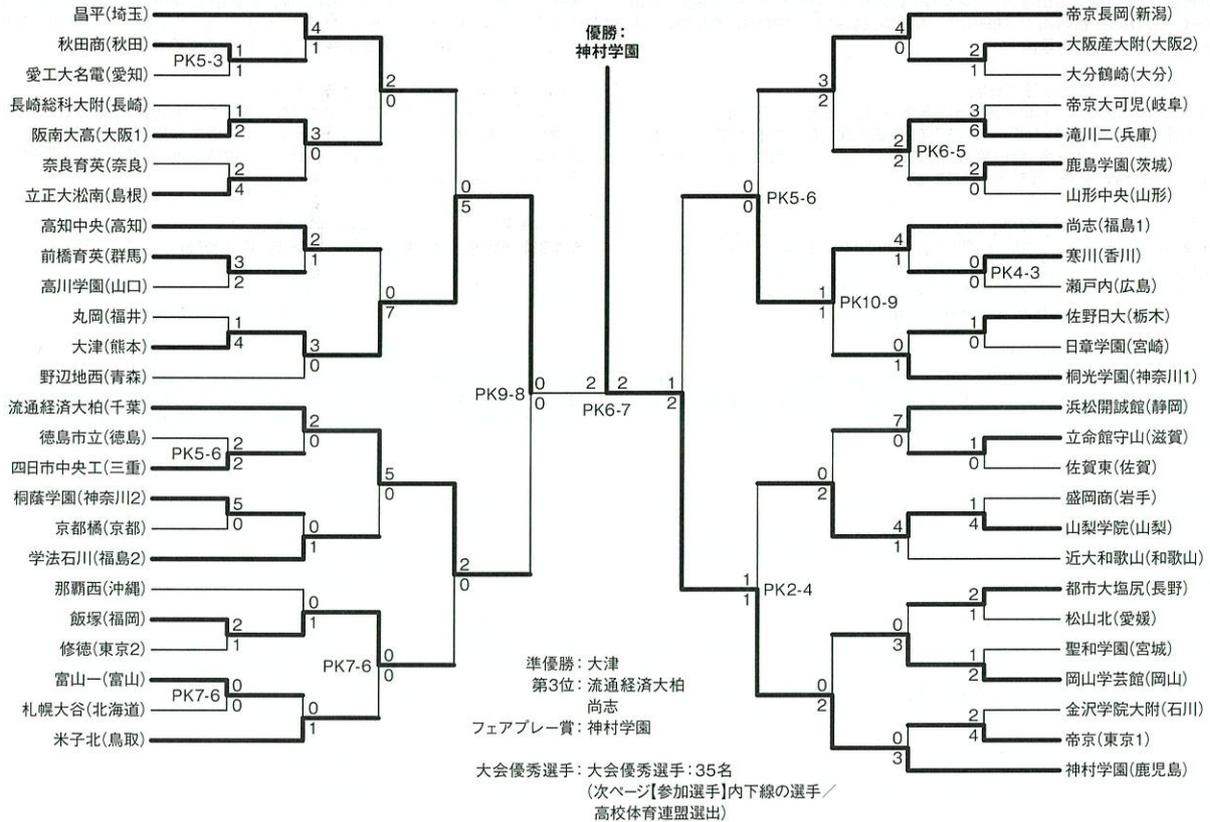
<鹿児島ユナイテッドFC U-18> 監督:並松亨樹
 上高原奏輝、久米田聖海、岡別府陽輝、請田大葵、小澄叶夢、迫田瑛仁、丸山哲新、東俊太郎、鶴田央河、加世田陽大、木場海瑛、児玉大翔、大谷健人、久米村仁翔、渡邊魁星、小林眞大、児玉清流、川上篤人、大浦貴晶、武悠雅、木下海斗、和田泰智、尾曲迅之輔、外山鉄馬、堀田修吾、徳田涼、内匠唯斗、宮川大空、吉元雅弥、山谷琉唯

<ロアッソ熊本ユース> 監督:山崎侑輝
 小園泰士朗、永野春樹、長井京志郎、岡快音、高村颯太、前川辰真、荒牧楓大、大瀨和心、福田虎之介、喜久本大知、城井颯護、岩本伊織、村上陽音、寺井廣良、首藤優来、鋤崎蒼大、森平一輝、麻生暖琉、小田隼人、椎葉匠海、松永悠吾、廣田亘、山田航慎、清水尚、亮真愁、西門樹蓮、元松蒼太、大塚仁絆、増村凌久、平井一輝

令和7年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(男子)

本大会は、公益財団法人全国高校体育連盟、福島県、橋本町、広野町、いわき市と各教育委員会およびJFAの主催で、7月26日～8月2日に51チームが参加して福島県で開催された。参加資格は、学校教育法第1条に規定する高校(中等教育学校後期課程を含む)に在籍し、都道府県高校体育連盟に加盟、かつ2025年JFA第2種登録を完了した2006(平成18)年4月2日以降生まれの選手に与えられた。

※ 66 ページに関連記事あり



準決勝

大津 0 (前半0-0 後半0-0) 0 **流通経済大柏**
 PK9-8

●2025年8月1日 9:30 ●Jヴィレッジスタジアム ●試合時間:70分、PK ●審判員:
 [主審]北沢倫章 [副審]長南博幸/塚本勇人 [第4の審判員]渡辺隼人 ●マッチコミッ
 ショナー:木川田博信 ●観衆:1,188人

大津(監督:山城朋大):[GK](1)村上葵 [DF](3)今井颯温(4)松野秀亮(5)村上慶(14)渡
 部友翔 [MF](6)福島悠士(7)岩崎天利(10)福島京次<->57'(15)内村涼夏>(11)有村颯
 太<->57'(2)開地心之介> [FW](9)山下虎太郎(17)山本翼<->65'(20)芋生陵>

控え:(16)野沢遼太(8)菊地奏泰(12)緒方涼央(13)松岡凜(18)田中咲翔(19)和泉陽光

流通経済大柏(監督:榎本雅大):[GK](1)藤田泰士 [DF](3)廣瀬煌(6)増田大空(11)石
 井友啓(16)大徳剛矢 [MF](4)島谷義進(7)上田哲郎(10)安藤晃希<->52'(8)昇純希>
 [FW](18)金子琉久<->64'(5)メンディー サイモン友>(19)オゲデバ有規<->64'(21)福
 田明史>(20)大藤颯太

控え:(17)丸山ジェフリー(2)乙川宙(9)山元琉士(12)眞壁英人(13)中崎真旺(26)平野万緑

警告 [流通経済大柏]36'大徳剛矢

PK [大津]先(4)○(5)○(3)○(15)○(6)○(9)○(2)○(20)○(14)○
 [流通経済大柏](4)○(20)○(7)○(11)○(6)○(16)○(8)○(3)○(5)×

準決勝

尚志 1 (前半1-0 後半0-2) 2 **神村学園**

●2025年8月1日 12:30 ●Jヴィレッジスタジアム ●試合時間:70分 ●審判員:[主
 審]本多文哉 [副審]平塚将哲/安齋涼 [第4の審判員]押山由衣 ●マッチコミッ
 ショナー:石川勝利 ●観衆:1,240人

尚志(監督:仲村浩二):[GK](16)門井宏樹 [DF](2)木村心貴(3)西村圭人<->70'(17)星
 宗介>(4)松澤琉真(5)榎本司(20)迫田悠聖 [MF](7)臼井蒼悟<->58'(11)岡大輝>(8)
 阿部大翔(18)村田柊真<->HT(10)田上真大<->65'(12)日比野修吾>(22)角虎一<->58'
 (14)若林衣志希> [FW](9)根本翔大

控え:(1)赤根啓太(13)寺田悠真(15)中村快生(23)古堤幹大

神村学園(監督:有村圭一郎):[GK](17)寺田健太郎 [DF](3)今村大樹(5)中野颯斗(8)荒
 木仁翔(20)竹野颯太 [MF](6)堀口瑛太(10)佐々木悠太(14)福島和毅 [FW](9)倉
 中悠亮<->64'(12)伏原樹空>(13)日高元(18)樹本琉空<->HT(16)花城瑛汰>

控え:(1)江田優大(2)中村大志(4)鎌田心(7)細山田怜真(11)徳村楓大(15)岡本桂乙(19)
 新名優樹弘

得点 [尚志]25'根本翔大(1-0) [神村学園]49'、70+8'佐々木悠太(1-1)(1-2)

<札幌大谷高校> 監督:清水隆行
安達想、入澤快斗、宮城勇斗、柳瑛太、大石蓮斗、高橋壮一郎、今井朝陽、荒井清大朗、北村謙、藤田夕雅、小野塚輝、赤石奏羽、菊谷輝、中村哲爾、前田晴陽、岡拓希、岡本空、榎本空、菊田勝利、石郷阿陽輝、加藤一爽、遠藤広洋、遠藤雄太、吉田朝陽、小林龍之介、松田颯之介、高橋拓仁、小野田悠人

<野辺地西高校> 監督:三上晃
喜村孝太郎、長内優月、早坂虹汰、橋本楓琉、中野渡琉希、山下海藍、越後來琉、三浦春樹、石田葵幹、小原悠慎、小川菰哉、木村隆太、関下煌己、阿部亮太、小向蓮翔、真船大篤、野嶋伶、高橋陽彩、田中通人、長根光牙、沖津瑛輝、藤田律、里村斗望、野野悠斗、和田雅貴、吉演剣翼、山崎翔夢、辻元元汰

<盛岡商高校> 監督:中田洋介
鎌田遥斗、小笠原蓮太郎、藤原緑色、海沼朋来、岩館良英、笹木瑛、工藤純仁、菅原和真、菅原有哉、中野想助、藤村文、千葉翔空、山崎慧大、鈴木琉哉、多田廣人、高橋悠太、佐藤雄大、高岡翔太、土屋琉輝、千葉蒼空、畑中翔太、福久空、竹田斗斗、北俣侑都、藤村一士、櫻田希治、菊池騎士、生方彪心郎

<聖和学園高校> 監督:加見成司
織田隼任、高橋翔輝、木崎潤真、四笠遥音、遠藤壮琉、猪股蓮太郎、川上尚也、藤川航輔、高瀬優風、竹内成一郎、深澤友希、平井唯心、小杉唯斗、山崎久礼真、塩田凌央、菊地堂二、井上快人、立澤優斗、野々宮蒼、小川颯来、寺川空希、鈴木光琉、浅倉大雅、布施唯斗、山本空虎、鈴木宗、奥村玲央斗、村上英葵

<秋田商高校> 監督:小林克
石川創方、鎌田航希、熊谷快斗、村田瑠、村田陸斗、高橋玄太、加藤翔、瀬川哲平、山岡樹弥、渡邊幸大、前田健太、加藤大勢、太田瑞聖、金明日翔、舟木経、高橋樹貴、大塚空、松橋陽太、斎藤優斗、草苺星成、榎本輝希、吉田蔵人、櫻田晴弥、佐々木駿弥、佐々木隼翔、竹谷柁真、佐藤颯音、中泉悠

<山形中央高校> 監督:羽角哲弘
阿部悠大、高橋唯唯、鈴木達哉、石澤侍之助、渡邊優弥、中村珠海、高橋宜登、武田峰尊、金子崇之介、古瀬大和、横山蓮、八欽愷空、松田光、阿部希、白田耀大、四笠佑将、佐藤蓮珠、山岸聖弥、佐竹春人、會田徠利生、伊藤翼、服部葵、本間翼、山口結翔、三沢大輝、越津将樹、和田篤祥、中澤遥斗

<尚志高校> 監督:仲村浩二
赤根悠大、門井宏樹、加藤駿平、木村心真、西村圭人、松澤琉真、榎本司、寺田悠真、中村快生、星宗介、古堤幹大、伊藤海遥、小曾納奏、阿部大翔、田上真大、日比野修吾、若林衣武希、村田柁真、大熊翔空、迫田悠聖、廣橋政音、角虎一、奥村玲央、瀧田悠、白井蒼吾、根木翔太、岡大輝、永岡透弥

<学法石川高校> 監督:福田正信
福岡琉真、小嶺秀介、廣川流音、高野陽斗、阿部遙希、野口侑真、石野裕也、長島レオン、石田理哉、市川青空、加藤依吹、長谷川恵夢、小高陽葵、中塚琉生、中山拓翔、前田昇太郎、川名愛稀、板倉結誠、小原悠輝、諸根優斗、西場颯泰、豊島光琉、村田駿助、前田翔汰、比佐光来、佐藤敷心、森康稀、星湧大

<鹿島学園高校> 監督:鈴木雅人
小松崎悠仁、丁俊晴、岩間歩夢、秋山龍哉、中川光星、齊藤空人、清水朔次、内野竜太郎、中原潮那、山入端大空、山田空羽斗、木下永愛、伊藤蒼空、西川大翔、松本金太郎、三浦春人、森下漢太郎、大川寛翔、菊池元希、力石集之介、山根奥和、内海心太郎、堀樹矢、ワズージェイヴェン勝、渡部隼翔、佐島涼馬、酒井東樹、神田葵允

<佐野日大高校> 監督:海老沼秀樹
青山遥成、石坂琉衣、谷田光輝斗、石井蓮、小林大輔、川島鳳翔、大垣拓海、渡邊太陽、梶岡日向、重司佑翔、浅野翔、高橋隼太郎、永井咲翔、斎藤剛空、福本星月、齋藤芹、ロコ・マティアス、阿部来夢、柿沼楓音、根橋大河、田中陽大、亀井祐之輔、田上昊之介、古川莉大、日浦輝、根本涉夢、茶本蒼太、渡邊佳莉

<前橋育英高校> 監督:山田耕介
南京佑、蝦名理音、大垣昊士郎、牧野瑛、瀧口真大、市川劉星、久保蓮夢、結城快成、瀬田心誠、坪井幸季、深見翔太、平良晟也、白井誠也、平林尊琉、柴野快仁、竹ノ谷優翼、松下歩夢、高林純矢、瀬田飛結、川崎希、中村孝成、嵯峨日向、山本翼、田野央哩波、四方田泰我、大岡航未、山西智也、関蒼葉

<昌平高校> 監督:芦田徹
土淵潤久、小野寺太郎、入江希星、服部瑞希、安藤愛斗、伊藤隆寛、高橋心晴、笠原慶多、森井智也、中島夢陽、徳山逸、古川雄規、大野陸斗、遠藤佑太、長崎善、人見大地、山口豪太、川田理月、飯島碧大、高見澤光、佐伯優斗、高江洲春虎、根津優羽、加々美都哉、齋藤結斗、島田大雅、白須裕基、山本翔太

<流通経済大柏高校> 監督:榎本雅大
藤田泰士、丸山ジェフリー、橋爪フェリクス一清、乙川由、廣瀬煌、メンディー サイモン友、増田大空、石井友啓、真壁英人、菊地純太郎、大徳剛矢、島谷義進、上田哲郎、昇純希、山元琉士、安藤晃希、中崎真旺、古川蒼真、山中碧人、加島宏樹、平野万緑、水谷啓太、金子琉久、オゲテバ有規、大藤颯太、福田明史、熊木虎太郎、渡辺謙也

<帝京高校> 監督:藤倉寛
荒川喜道、高橋怜、須藤大誠、中川慈司、谷津勇月、小林爽人、田中菱、山下大翔、高橋遼、川崎大空、吉澤頌裕、小山凱文、永野太一、原田蒼裕、西島廉人、加賀屋翼、杉岡侑樹、波辺莉太、佐々木優太、住野空来、木村恵真、高橋佳法、宮本理央、赤坂大夢叶、木嶋翔海、宮本周征、久保惠音、山田知希

<修徳高校> 監督:土屋慶太
廣田大和、小川凜、和泉慎太郎、山口大树、久保陽大、林航琉、並木秀磨、袖山斗也、野瀬武虎、横井勇瑛、武居凜太郎、大谷凌大、坪田侑己、荒井洗、東山輝瑠、館美駿、澤田琉輝、秋元大輝、黒須海飛、齋藤拓人、村松圭吾、新翔友、冨田一騎、瀧口隼、高橋虎太郎、ミルポード大河、筒井凜、加藤響志朗

<桐学園高校> 監督:鈴木勝大
斎藤謙也、三浦陸玖、飯野凌斗、小林輝流、武山陽介、田中智也、川谷駿斗、陶山響、笠羽健太、井原令雄、菅野雅也、茂木侑平、米川洋輝、宇留江生叶、松岡奏友、萩原慶、徳住陽向、山田留偉、天野雅久、西田太陽、山田悠太、福原涼太、山口幹人、西城大翔、倉持慶太、町田夕透、菊池雄太、塩瀬海成

決勝
大津 2 (前半0-0 後半1-1) 2 神村学園
PK 2
●2025年8月2日 12:30 ●Jヴィレッジスタジアム ●試合時間:70分、延長20分、PK ●審判員:[主審]平塚将哲 [副審]北沢倫幸/本多文哉 [第4の審判員]佐藤青 ●マッチコミッショナー:川人健太郎 ●観衆:1,700人
大津(監督:山城朋大):[GK](1)村上葵 [DF](3)今井獅温(4)松野秀亮(5)村上慶(14)渡部友翔<-70+3'(13)松岡謙> [MF](6)福島悠士(7)岩崎天利(10)福島京次(11)有村康太<-HT(2)開地之介->46'(15)内村涼夏-86'(12)緒方涼央慈> [FW](9)山下虎太郎(17)山本翼<-70+3'(20)宇生陸>
控え:(16)野沢遼太(8)菊地奏楽(18)田中咲翔(19)泉陽光
神村学園(監督:有村圭一郎):[GK](17)寺田健太郎 [DF](3)今村太樹(5)中野陽斗<-79'(4)鎌田心>(8)荒木仁翔(20)竹野楓太<-89'(2)中村大志> [MF](6)塚ノ口瑛太<-70+1'(15)岡本桂乙>(10)佐々木悠太<-70+1'(7)細山田怜真>(14)福島和毅<-83'(16)花城瑛汰> [FW](9)倉中悠篤(12)伏原樹空<-HT(11)徳村楓大>(13)日高元<-89'(22)東若泰雅>
控え:(1)江田優大(19)新名優樹弘
得点 [大津]49'山本翼(1-0)、82'岩崎天利(2-2)
[神村学園]70+6'日高元(1-1)、80'細山田怜真(1-2)
警告 [神村学園]40'今村太樹
PK [大津]先(4)○(5)○(3)○(10)×(6)○(20)○(12)○(13)×
[神村学園](11)×(16)○(7)○(9)○(8)○(15)○(3)○(22)○

<桐蔭学園高校> 監督:八城修
近江星雄大、小島望蒼、藤本怜、松田朋拓、上本陸、中田陸、横山優雅、森蒼汰、山本龍海、吉原崇朗、小川想真、水本優心、鈴木大智、鈴木奏、土山玄貴、松居聖那、八尋海斗、米谷晴、中西康和、玉川偉大、渡邊慶二郎、中山智裕、中嶋桔平、高橋悠、瀨尾凌太、渡辺啓太郎、武本陽向、早坂莉人

<山梨学院高校> 監督:大場健史
齋藤怜生、藤田泰成、岩間由将、藤井サリウ、岩崎詢平、影山登哉、横内皇大、神山康介、中村嘉希、冨井悠真、井口結斗、明石琉聖、石井航、山田琉翔、田中雄大、高見啓太、細田康貴、横田栞、市川大登、野野壮二郎、富山亜斗夢、比嘉純太郎、小沼流之介、オノボ フランシス日華、竹内蓮、マース ソムナン、手塚塚一郎、山崎陽

<都市大塩尻高校> 監督:小松憲太
齋藤怜生、藤田泰成、岩間由将、藤井サリウ、岩崎詢平、影山登哉、横内皇大、神山康介、中村嘉希、冨井悠真、井口結斗、明石琉聖、石井航、山田琉翔、田中雄大、高見啓太、細田康貴、横田栞、市川大登、野野壮二郎、富山亜斗夢、比嘉純太郎、小沼流之介、オノボ フランシス日華、竹内蓮、マース ソムナン、手塚塚一郎、山崎陽

<帝京長岡高校> 監督:古沢徹
仲七瑠、中口悠生、世間圭吾、リウキン辻アーロン、吉田龍龍、桑原侑斗、西馬礼、平松永宇、井上虎太郎、堀田宙吾、稲垣純、曾我悠雅、小嶋輝空、水澤那月、中澤晃介、植村央甫、和食陽向、樋口夕音、吉原巧也、茂木勇樹、松田隼輝、秋山陽登、児山雅稀、春日龍二、杉本謙矢、上田十輝、齋藤剛、岡中舜

<富山第一高校> 監督:加納靖典
魚住陸斗、堀川昇崇、谷永陽陽、廣瀬一誠、木下空、大川未来望、鈴木来夢、田中陽路、松永功大、横田舜大、上梨斗輝、砂田海斗、中井智明、富川貴翔、丸山哲平、辰巳遼太、釜親遥斗、岩田将英、高山陽、中居大和、石黒煥汰、藤田鈴那、山田聖心、高瀬新大、米本琉人、餘久保翼、池森結仁、千田唯人

<金沢学院大附属高校> 監督:北一真
石山アレックス、新山創太、沼田倫太郎、黒沢耀、阿部翔夏、佐久間幹太、水見悠羽、目黒旺樹、小野瀬竹郎、近藤凌、玉野圭祐、餅田大夢、平本侑士、北村龍芽、山田結互、武井波琉、竹林大輝、木村太一、大橋遼士、大熊健太、中村旬、金子空翔、高橋心幸、古田匡範、篠崎寛太、青谷龍哉、家遺凜太郎、石渡玲音

<丸岡高校> 監督:小阪康弘
野坂泰正、松永幸知、西田将輝、新宅晴生、二夕見聖希、谷口蓮斗、松下逸輝、三原整士郎、辻中瑛人、太田遥人、谷口龍之介、伊藤駿佑、西村陽輝、宮越悠生、溝口暖、下口叶汰、湯本透羽、廣野蒼空、津張歩夢、大西永逸、木村楓大、山下大地、久木蓮也、佐藤奨悟、小関彼方人、浦野凌輔、佐藤隆乃介、内田琉生

<浜松開誠館高校> 監督:青嶋文明
吉田壮馬、宮井駿、松浦迅、清水彩生、濱中伊吹、岩瀬琢朗、鈴木翔湧、磯部舜也、水谷健斗、佐野兼勇、中村碧人、加藤涼、間瀬吉咲、服部流太郎、川合聖門、古橋藍伍、志賀朋希、高橋成、藤原葵、金子彪真、小川煌斗、石川塔梧、田窪悠己、岡田瑛太、日下航斗、松下蓮、宗像玲瑠、鎌田康勢

<愛工大名電高校> 監督:宮口典久
相原諒、小林柁斗、進藤大暉、竹本海里、杉浦功真、山下雄大、山崎瑛太、木村颯叶、宮田悠生、志村隼、杉山悠、大澤俊哉、杉本悠悟、中根陽向、佐藤悠樹、高瀬叶翔、高木悠作、岩田清太郎、瀧澤太、森内涼介、宮斗斗矢、高橋幸誠、江頭海、渡部琥南、小野敦史、酒井詩音、本幡観大、近藤圭悟

<四日市中央工業高校> 監督:伊室陽介
篠田啓斗、伊藤令瑠、加藤聖大、池口賢成、安井侑悟、双津賢星、高橋大叶、川井航、牧野隼斗、村上幸羽、野田大誌、与那覇哲一、上野圭太、近藤匠磨、太田奏、丹羽伶介、工藤悠真、鈴木蓮士、出口俊祐、前川奏太、服部銀登、館心翔、時任奏良、林龍輝、増田莉久、玉井義人、大久保智紀、鈴木悠大

<帝京大児宮高校> 監督:仲井正剛
水野駿、原田修汰、井藤大善、松田晃一、杉田結飛、浅野旺介、板頭一磨、加藤稜大、石川娘人、佐藤弘汰、塩見咲哉、角岡篤季、大村琉星、伊藤彰一、後藤真生、青木嘉宏、加藤千洋、今藤叶、金武寛泰、齋藤銀二、黒沢一斗、若杉風太、高津佐香樹、坂口聖七、持山圭佐、井上蓮斗、小林龍一、高田憲慎

<立命館守山高校> 監督:吉田貴彦
園部蒼明、藤森広大、高田健介、井上朔、森圭児、滝川康大、平尾新、谷本瑛汰、山之口諒、上妻茂之佑、成田惺真、山本泰生、中村輔、永井優翔、逢坂柁真、小笠原啓太、李川凌成、谷口寛太、下村圭吾、木村晴樹、山本心太郎、小網拓輝、李川晃瑛、榎田天音、伊藤琉馬、本郷隆太、中村謙吾、夢田翔正

<京都橘高校> 監督:米澤一成
平誠郎、大庭弘登、太田宗佑、青木俊介、磯井拓夢、田中晃輔、西山朝陽、早苗優介、森侑人、森大嘉、村井駿斗、李亨柱、上田逸生、高谷由翔、野中瑛泰、河村頼輝、中野斗馬、岸村晃成、宮田奏、佐々木唯虎、升田真真、村岡柁登、前山成、伊藤湊太、秋保宏樹、永井瞭太郎、大志万蓮、奥山志

<阪南大高校> 監督:濱田豪
徳田凌三、藤沼咲、乾龍斗、竹村翔、村田敬太、梅原翔久、松本圭史、河村駿、長野晴、坂井雅哉、前田陵汰、山下陽路、萩原颯樹、牧恭輔、小澤瑠久、杉山和志、瀬尾優斗、三浦悠人、原田尚幸、伊藤成康、谷上希、岡田翔太郎、中村篤仁、秦翔太郎、増野OSCAR太陽、平岡貴敏、中野瑛太、吉田晴晴

<大阪産大附属高校> 監督:中西幸司
岡本智晴、野中聖斗、藤原寿真、村山結也、松本真真、佃井大悟、福田結心、水谷柁斗、櫻木杏士、大高翔、榎井汰一、村田柁己陽、大原斗雅、谷端日樹、久保颯汰、西尾祐哉、辻叶太、北浦光規、大島颯太、安武航平、三宅隆太、小河原暁、大江宗次朗、三角俊也、松本龍利、阿部光希、葛浦新、藤原奏夢

<滝川第二高校> 監督:小森康宏
岩橋晃大、大久保蒼真、土屋桜花、山田悠生、浜口巧成、滝澤呂澤、吉井悠、大西堅三、酒井賢徳、杉本剣士朗、大槻飛孝、井上大誠、水谷颯翔、南壮一郎、田坂彩人、北村勇貴、米田空真、塩崎優之介、宮本蒼大、中込凱斗、在間悠真、山本運、森友月、空久保善、大橋相太、坂田淳哉、波多野蒼大、本城圭太

<奈良育英高校> 監督:梶村卓
内村篤紀、後藤壮真、真田海舟、吉川魁、仲谷陽馬、西澤雅崇、田村颯良、内藤奏、東愛流、宮本寂矢、藤岡天晴、片岡大護、西村優士、林怜志、根本凜伍、森嶋大琥、石井統也、建野達太郎、横田陽人、森大樹、福西恭英、寺内連志郎、今西巧、辻佑真、堀大輔、榎谷朋矢、布村大地、大羽快利

<近大和歌山高校> 監督:藪真啓
田中猛寅、山本蒼空、野平颯人、船谷昂生、平澤善、平澤築、北村大悟、高木大地、河島寛太郎、野上蒼太、須藤広翔、米澤心、松本涼英、渋谷英生、濱中恒、谷口央典、小村太一、神出愁斗、三島陵生、小林征太郎、小畑海斗、田中陽翔、山本優志、金尾駿、宮井快琉、山本新大、田中瑛大、森永亮太

<米子北高校> 監督:城市徳之
酒井律輝、松崎莉空、高瀬壮太、藤原大空、熊野俊典、浜梶優大、水上拓海、貝原実、生駒奏輝、竹内晴太、照井玲翔、熊谷弾、湯月哲大、宮崎亮翔、山下圭一、細川斗輝、山本輝、山崎涼、奥村悠生、金定秀芽、徳山歩真、横山通生、猪股久修、田中太賀、石飛五光、畑中大河、妹川将基、塚田愛心

<立正大南高校> 監督:野尻豪
山田新、福岡琢叶、中澤銀河、北河龍磨、重原唯人、宮林彪真、禹導勲、樋口大悟、寺門明瑠、川本晁大、森本海志、植田浩生、服部光将、西森真真、西川生夏、川村緑、豊田寛太、加藤崇夢、杉谷虎珀、奥田愛基人、相宗龍基、石川蒼生、長谷川晃政、若槻大雲、久保侑聖、村崎斗士輝、野田歩、金子将大

<岡山学芸館高校> 監督:高原良明
坂口蒼佑、岡田建斗、杉本桜汰、平尾駿成、田中大翔、江口陽向、高橋陽斗、大島篤樹、小川明郎、徳村保成、田中海成、吉岡大和、青川凌大、堀口友聖、万代大和、酒井万瑛、栢森太希、近藤綾真、沖然太、田和昂、藤田詩穂、辻琥白、山田悠斗、岸昂希、山田琉斗、日野伊織、本村悠斗、太田玲央

<瀬戸内高校> 監督:石川喬棟
田平悠斗、河端勇壮、岸田湊、宮崎世樹、岡村蓮汰、保手濱慶次、山村悠斗、渡邊楓太、大塚八寛、井上礼治、鈴木嵩大、濱田圭吾、下瀬陽太、澤原聖七、中川祐紀、濱陽斗、森下昇太、池田在、丸山諒大、岡朝太郎、田川英知、田近悠翔、橋本育人、川崎敦史、山口朔空、片岡優、岡崎輝、大西崇輝

<高川学園高校> 監督:江本孝
高城梓哉、木村應介、龍田恋、香川総一郎、西尾慎、三嶋泰司、水田岬希、渡邊柚士郎、北川孟樹、有吉陸、山本大馳、示野楽空、望月啓太、庄司志絆、濱本夏輝、矢野太陽、宮城太郎、勝連遼、前永悠太、藤井啓太、伊藤悠翔、大野撞威、吉村晃健、倉光章介、大森風牙、大谷龍斗、大東寅之亮、岸田優心

<寒川高校> 監督:岡田勝
合田光栄、大島蒼史、上川航平、伊藤環美、吉村拓大、藤原康騎、大舘蒼太郎、山田庸介、浅野一翔、浅岡波波徠、金丸天晴、福田悠人、浅野大河、下川晴路、西蓮翔、泉納裕、加藤優咲、宮脇翔和、山部知輝、多田輝輝、山盛唯翔、來住泰典、奥和真、渋谷丈慈、森垣庵治、相原運人、小西叶翔、尾木原庵

<徳島市立高校> 監督:河野博幸
李ハソソ、前原琢人、増谷羽竜、伏田珂偉、柏木優一郎、川村康生、松山哲也、湯浅大輝、加藤遼馬、水内心博、坂本翔真、山添拓海、石川陽向、篠原仁、松本椋奨、森口翔生、中城達斗、芳田翠、玉田唯織、見島至咲、平川泰成、山口真由、中橋智、増田想生、山下蒼士、藤岡亮哉、河野匠竜、藤村優太、高尾瑞希

<松山北高校> 監督:兵頭龍哉
市中磨生、小島悠希、黒田健斗、倉本信繁、末光瑛翔、遠藤優仁、赤松航成、池田昇之佑、陽水駿仁、立花和、玉岡頼人、森崇人、渡邊俊史、松永悠吾、河窪紘夢、河上和嗣、宮本久遠、中村莊太郎、渡部蒼央、山沖朋己、大西然、川口絢三、矢野泰聖、藤山純斗、重岡悠、高岡大詩、森田涼介、久保田千晴

<高知中央高校> 監督:近藤健一朗
守安正騎、川村恭平、飛鷹一誠、山川翔永、加茂翔大、白川聡太、森田大雅、新井永康、中西蓮、青木春玖、坂本翔真、山添拓海、石川陽向、篠原仁、松本椋奨、森口翔生、中城達斗、小林夢歩、三井虎翔、小川龍輝、吉村穂寿弥、細谷迦伊、大重遼河、中土颯馬、井上哲太、浦田桜介、友重倫惺、伊藤勇心

<飯塚高校> 監督:中辻喜敏
原夢希、小田詩文、高田大雅、鮫島遼介、木下宗祐、坂本馳空、古賀俊之介、森本快、貞金大樹、權藤葵、鄭晃大、石井颯人、保科剛、古畑魁斗、恒松海史、鶴元銀乃介、新垣類、三日市証、野村深、大橋翔太、志坪唯月、仁田野天咲、藤川翔馬、今泉瑛翔、塚本一咲、金城龍都、高野一、杉本凜琥

<佐賀東高校> 監督:浦原晶昭
下川蓮羽、渡邊敬互、鶴丸蓮、諸石優、假屋朋希、丸尾太一、田中颯大、才木隆功、井手晴也、永野湜大、倉員春太、菅壮吾、中村友、稗田幹太、垣田裕輝、雨水蓮輝、岡崎瑛大、岡本裕輝、山本舜、若下蒼南、藤戸翔太、原田龍真、進藤晃太、柴田陽太郎、石川佑祐、三原拓実、尾崎健成、高倉龍展

<長崎総合大附属高校> 監督:定方敬和
三浦史瑛、田川大琥、高野歩、伊賀閻之介、上原翼、徳田周真、本多董偉、鶴田徳聖、桑原力飛、山本優空、芳賀恵斗、高橋椋覇、副島稜生、吉田夢空、甲斐蒼斗、河野泰良、寺井海人、川出幸輝、一宮優優、藤井新生、時盛希翼、高瀬巧麻、樹田結心人、山川太陽、伊藤凌成、竹嶋優、伊藤社丈、佐野心優

<大津高校> 監督:山城朋大
村上葵、野沢遼太、篠原伊吹、開地心之介、今井獅温、松野秀亮、村上慶、緒方涼央慈、渡部友輝、木下斗稀、山本一貴、梅原大和、福島悠士、岩崎天利、福島京次、有村颯太、内村夏夏、山本翼、田中咲翔、芋生陵、松場次元、山口結叶、古後海慧、菊地奏楽、山下虎太郎、松岡凜、和泉陽光、村中稜塾

<大分鶴崎高校> 監督:首藤謙二
桑原颯太、大倉光亮、三浦春汰、片島啓太、吉元俊輔、山本一晟、高野将大、諸永侑斗、川野聖、藤戸瑛太、廣川敬太、横田啓、尾本泰雅、染矢宏輝、奈良三志朗、河野歩夢、森茲二、河野真剣、小野陽士、軸丸生己、帆足海、二宮秀太、中西俊喜、木許史雅、山下紫凰、川崎太洋、高松我空、安部銀之助

<日章学園高校> 監督:原啓太
西森和浩、高岸縁、今門唯斗、柴尾大夢、藤山真、久田朝日、小林佑輔、福田瑛大、前田千楓、松田恭成、山下結叶、渡会楓馬、脇元亮汰、吉田青空、野口昊平、吉崎太珠、武藤蒼大、谷恭輔、松田航空、田口真、大谷兜真、重松虎之介、村井力磨、矢野瑛大、岩元航希、秋鷹青太、大平陽稀、黒木宏大

<神村学園高等部> 監督:有村圭一郎
江田優大、寺田健太郎、久保侑工、中村大志、今村太樹、鎌田心、中野陽斗、堀ノ口瑛太、竹野優太、富松龍人、由利偉大、米村颯真、手塚海都、細山田怜真、荒木仁翔、佐々木悠太、福島和毅、岡本桂乙、花城瑛汰、新名優樹弘、東若泰雅、倉中悠寛、徳村楓大、伏原利空、日高元、樹本琉空、岡野綱人、小園晟之朗

<那覇西高校> 監督:運天直樹
金城青空、宮里純一、與那覇虎太郎、屋富祖和雅、平良祐翔、上原叶翔、宮里豪、与那覇正虎、備瀬光絆、中村瑠唯、真境名駿平、喜名颯太郎、比嘉洗太郎、上地玲央、平安優介、比嘉祐太、宮城響己、當間蓮、金城瑠旺、國吉權士、赤嶺友介、池根翔太、具志堅洗、田仲翔、上原文太郎、仲道晴也、金本椿、石川元淳

第40回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟とJFAが主催する本大会は、JFAに第3種もしくは準加盟登録し、日本クラブユースサッカー連盟に2025年5月9日までに加盟登録したチームで、2010年4月2日から2013年4月1日までに生まれた選手に出場資格が与えられた。今大会は9地域の48チームが参加して8月15日～25日、北海道で開催された。

※70ページに関連記事あり

■グループステージ

Table with 11 columns: 順位, Aグループ, 浦和, 名古屋EAST, ソレツソ, 愛媛, 勝ち点, 勝, 分, 負, 得点, 失点, 差. Rows 1-4.

Table with 11 columns: 順位, Bグループ, 鳥栖, 湘南EAST, 富山, グランデ, 勝ち点, 勝, 分, 負, 得点, 失点, 差. Rows 1-4.

Table with 11 columns: 順位, Cグループ, 神戸, 名古屋, F東京むさし, ロアッソ, 勝ち点, 勝, 分, 負, 得点, 失点, 差. Rows 1-4.

Table with 11 columns: 順位, Dグループ, 東京V, Honda, 琉球, パテオ, 勝ち点, 勝, 分, 負, 得点, 失点, 差. Rows 1-4.

順位	Eグループ	鹿島	原田	山形村山	高槻	勝	分	負	得点	失点	差
1	鹿島アントラーズジュニアユース(関東6)	2△2	4○1	4○0	7	2	1	0	10	3	7
2	原田学園SC U-15(九州5)	2△2	2○0	2○1	7	2	1	0	6	3	3
3	モンテディオ山形ジュニアユース(東北1)	1●4	0●2	0△0	1	0	1	2	1	6	-5
4	高槻シーグFC(関西3)	0●4	1●2	0△0	1	0	1	2	1	6	-5

順位	Gグループ	大阪門真	広島	SSS	大宮	勝	分	負	得点	失点	差
1	ガンバ大阪門真ジュニアユース(関西6)	0●1	1○0	4○2	6	2	0	1	5	3	2
2	サンフレッチェ広島FCジュニアユース(中国1)	1○0	0△0	3△3	5	1	2	0	4	3	1
3	SSSジュニアユース(北海道2)	0●1	0△0	2○1	4	1	1	1	2	2	0
4	RB大宮アルディージャU15(関東12)	2●4	3△3	1●2	1	0	1	2	6	9	-3

順位	Iグループ	フォーリャッテ	柏	川越	讃岐	勝	分	負	得点	失点	差
1	FCフォーリャッテ仙台(東北2)	2●3	5○1	3○1	6	2	0	1	10	5	5
2	柏レイソルU-15(関東3)	3○2	0●1	2○1	6	2	0	1	5	4	1
3	1FC川越水上公園(関東14)	1●5	1○0	2○1	6	2	0	1	4	6	-2
4	カマタマーレ讃岐U-15(四国2)	1●3	1●2	1●2	0	0	0	3	3	7	-4

順位	Kグループ	前橋	G大阪	東急	全沢	勝	分	負	得点	失点	差
1	前橋FC(関東15)	2○1	1○0	3○2	9	3	0	0	6	3	3
2	セレッソ大阪U-15(関東7)	1●2	2○0	5○1	6	2	0	1	8	3	5
3	東急SレイスFC U-15(関東4)	0●1	0●2	1○0	3	1	0	2	1	3	-2
4	ツエーゲン全沢U-15(北信越3)	2●3	1●5	0●1	0	0	0	3	3	9	-6

順位	Fグループ	川崎生田	京都	清水	福岡	勝	分	負	得点	失点	差
1	川崎フロンターレU-15生田(関東5)	3○0	2○1	1○0	9	3	0	0	6	1	5
2	京都サンガF.C. U-15(関西4)	0●3	2○1	2△2	4	1	1	1	4	6	-2
3	清水エスパルスジュニアユース(近畿3)	1●2	1●2	3○0	3	1	0	2	5	4	1
4	アビスパ福岡U-15(九州2)	0●1	2△2	0●3	1	0	1	2	2	6	-4

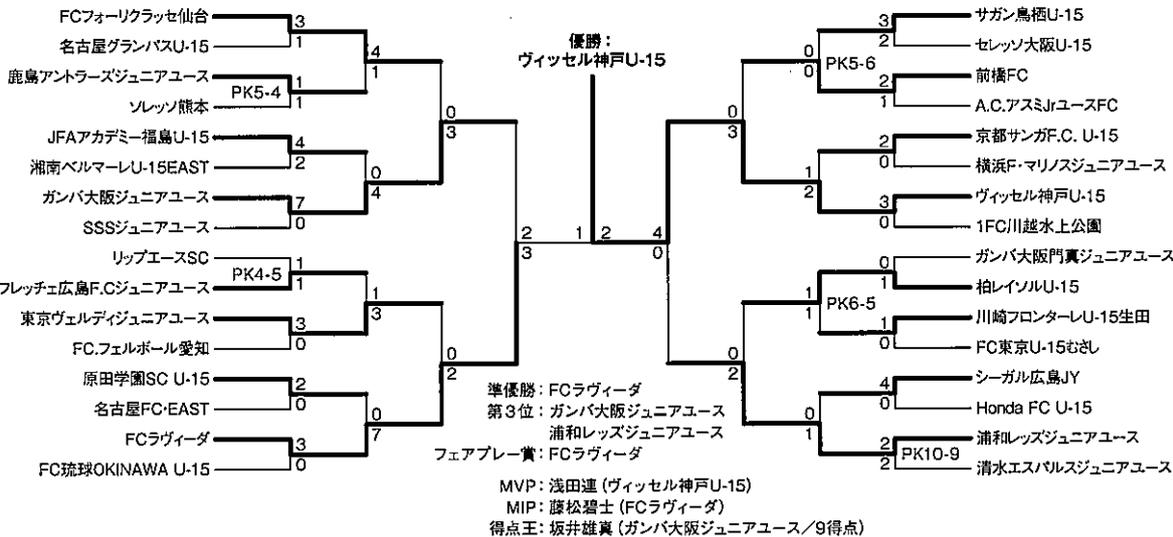
順位	Hグループ	ラヴィータ	ec福島	清水三島	札幌	勝	分	負	得点	失点	差
1	FCラヴィータ(関東1)	1△1	5○0	2○0	7	2	1	0	8	1	7
2	JFAアカデミー福島U-15(東北3)	1△1	3○1	3○0	7	2	1	0	7	2	5
3	清水エスパルスジュニアユース三島(東海5)	0●5	1●3	5○1	3	1	0	2	6	9	-3
4	札幌ジュニアFC(北海道1)	0●2	0●3	1●5	0	0	0	3	1	10	-9

順位	Jグループ	リッパース	横浜FM	愛知	びんご	勝	分	負	得点	失点	差
1	リッパースSC(関東2)	1△1	2○0	2○1	7	2	1	0	5	2	3
2	横浜F・マリノスジュニアユース(関東9)	1△1	2○0	1○0	7	2	1	0	4	1	3
3	FC.フェルボール愛知(東海2)	0●2	0●2	2○0	3	1	0	2	2	4	-2
4	サンフレッチェびんごジュニアユース(中国2)	1●2	0●1	0●2	0	0	0	3	1	5	-4

順位	Lグループ	G大阪	シーガル	アスミ	沖崎	勝	分	負	得点	失点	差
1	ガンバ大阪ジュニアユース(関西1)	2○0	8○0	3○0	9	3	0	0	13	0	13
2	シーガル広島JY(中国3)	0●2	1△1	2○1	4	1	1	1	3	4	-1
3	A.C.アスミルユースFC(関東11)	0●8	1△1	2○0	4	1	1	1	3	9	-6
4	ヴィクトリア清洲FCジュニアユース(九州)	0●3	1●2	0●2	0	0	0	3	1	7	-6

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



準決勝

ガンバ大阪ジュニアユース 2 (前半1-0 後半1-3) **3 FCラヴィータ**

●2025年8月23日 11:00 ●白旗山競技場サッカー場B ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]山田翔也 [副審]山本雄大/谷淳平 [第4の審判員]大町悠馬 ●観衆:300人

G大阪(監督:児玉新):[GK](16)稲田玲皇 [DF](2)西山瑛翔(4)竹原玲音<-59'(12)安東瑛大>(15)金子卓豊(19)松下裕紀 [MF](6)藤井英翔(7)助川峻英(8)笠井直樹(9)砂田暁一登<-HT(18)佐野亮成> [FW](10)加賀野統(11)坂井雄真

控え:(21)田口倅太郎(3)澁川葵士(13)青山輝(14)藤堂優心(17)朝尾桜介(22)中本旬(24)西出迅

ラヴィータ(監督:村松明人):[GK](33)近藤大和 [DF](2)赤塚晴紀(3)鏡内真翼(5)中山織汰(6)山岸悠人 [MF](4)臼井幹太(11)掛水楓空(14)堀ノ内湊大<-57'(17)笠井作彌> [FW](9)藤松碧士<-73'(7)高田悠月>(10)オツコロ海桜(28)鈴木想来<-34'(19)金子巴起->73'(22)長井隆之介>

控え:(1)岩杉颯太(8)上杉玲王(15)田中凜大(18)矢野翔己(30)鈴木陽翔

得点 [G大阪]6'坂井雄真(1-0)、64'安東瑛大(2-2) [ラヴィータ]42'藤松碧士(1-1)、62'中山織汰(1-2)、80+4'オツコロ海桜(2-3)

準決勝

ヴィッセル神戸U-15 4 (前半0-0 後半4-0) **0 浦和レッズジュニアユース**

●2025年8月23日 13:30 ●白旗山競技場サッカー場B ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]二谷夢翔 [副審]諸原由弥/宮本翼 [第4の審判員]土屋花 ●観衆:200人

神戸(監督:山道高平):[GK](1)田口創一朗 [DF](2)李在淵<-80+5'(14)姫野佑斗>(3)三谷友浩(5)高谷瑛人<-80+5'(16)小迫聰介>(20)水口航志 [MF](7)石井海翔(10)浅田連<-80+5'(25)波多野叶人>(17)中村孝太郎<-50'(15)村吉正宗>(28)岡部遥希<-78'(6)松田拓士> [FW](9)山田凌也(11)山下真翔

控え:(12)久留米勝希(21)森昂琉(13)畑野陸十(36)藪田一輝

浦和(監督:萩村滋則):[GK](51)尾崎孝太郎 [DF](43)印出晴<-54'(59)山崎步>(49)戸所偉大(52)二唐琉真<-54'(58)森泉迅>(57)森井琉生(45)児玉樹樹<-77'(62)秋山大翔>(47)佐々木煌翔<-HT(46)小松大馳>(53)野口蒼太(60)吉野登馬 [FW](44)菊池大河(48)執行悠斗<-71'(54)福田誠人>

控え:(61)白川龍斗(64)伊藤大智(66)ウチエフナクリストファー・チゾバ(72)中山空

得点 [神戸]49'中村孝太郎(1-0)、53'村吉正宗(2-0)、79'、80+1'山下真翔(3-0)(4-0)

警告 [浦和]72'、75'森井琉生

退場 [浦和]75'森井琉生

【参加選手】

<札幌ジュニア> 監督:土門祐基

望月陽太、羽田成禮、木嶋郁仁、菊池蓮太郎、吉田琉人、大浦壮樹、伊藤權、加藤一鷹、滝本恵吾、有倉寛太、鶴岡隼、國澤瑛人、木嶋泰仁、岩筋結聖、山本知良、鈴木陽翔、清水泰斗、田嶋結心、岡部颯輝、榎方銀、浜田直生、種市奏斗、小川大翔、山保英士、鈴木晴太、加野理仁、山本柚人、横山敢大、田中煌大、與儀旭

<SSSジュニアユース> 監督:岩越英治

中本晴斗、岡田航惺、門馬拓哉、國田惺称、森田琉和、中尾謙佑、西森悠翔、中田結人、林虎来、酒谷元崇、山口蔵人、ニコウラ蓮華、藤田陸斗、畠中希竜、村田翔空斗、舟橋来毅、横谷瑠偉、橋本昇樹、西村武留、永田翔空、木村将太郎、坂本棕南、前田啓士郎、富樫功晴、荒木勇人、藤野琉加、田中汰一、見角健真、大口漣、前橋湊鳴

<モンテディオ山形村山> 監督:平吹永太郎

小野琥大朗、佐藤廉、鈴木瑠輝、阿部悠吾、安達楓李、軽部有輝、渡邊璃久、山川夢生、武田淳平、横山大、鈴木葵、清野太智、中川風磨、野口虎徹、佐藤至、山本虎志郎、太田明利、上野紘之介、都泰熙、仁平倫織、工藤治樹、日野結仁、宮田禅、石山瑞稀、名和葵斗、横山十彩、正野麗亜瑛、矢羽木聡幸、木村仁、高橋悠晟

<フォーリクラッセ仙台> 監督:飛奈優太

武田翔吾、内藤陽大、菅原快、菅生朔ノ介、秀島一輝、愛場大輝、菊池陸斗、及川慧太、金木翔大、阿部将悟、黒澤成、及川大登、佐藤颯之介、吉田駿也、中島大和、中平悠慎、大原一真、千葉悠生、田村獅道、花坂優仁、石井奏多、大友慶、小野駿大、奥田遥稀、福井樹、阿部幹大、三井寺真、今野春翔、菊地暁、渚璃空

<JFAアカデミー福島> 監督:猿澤真治

米沢仁水、河原圭哉、山本蒼介、瀬賀結臣、藤井陽太、石田藤士、宮澤新、森春輝、中村悠真、石川遥太、小瀧音叶、小林煌空、櫻岡陽向、尾崎恵介、河村颯太、塩澤脩、磯沼剣聖、岡崎皇我、大橋晴一郎、富貴塚琉央、井ノ川晴夏、國田渚、紺野瑠良、高塚琉生、氏原脩斗、堀田あつ馬、泉谷虎太郎、坂口海音、ダボ・アブドゥライ・ハビー、古川來空

<FCラヴィーダ> 監督:村松明人

岩杉颯太、大鷲奏人、近藤大和、赤塚晴紀、鏡内颯真、中山織汰、山岸悠人、若尾悠羽、岡村和輝、臼井幹太、高田悠月、上杉玲王、掛水楓空、堀ノ内湊大、田中凜大、笠井作彌、矢野翔己、金子巴起、乾大我、齋藤隆、小林龍聖、鈴木陽翔、藤松碧士、オツコロ海桜、今井叶汰、長井隆之介、松田虹虎、武田輝、鈴木想徳

<東京ヴェルディ> 監督:坂谷武春

福田誠太、牧岡奏佑、小野和紘、松岡瑛太、神山悠樹、武本桜雅、渡部直宏、梅野琉南、朝倉啓介、鈴木直人、永橋大翔、永田遼、矢坂仁、ゼイナー大輝、小泉英寿、西田翔愛、松並木絆史、橋爪英太、澤邊奏平、児玉都武、前田暁生、岸崎人、増本陸、森岡亜陽、沼田晃人、石川大雅、大井然、丸山篤生、中山陽路、西山宗佑

<柏レイソル> 監督:御牧考介

吉口雄二郎、大屋湊亮、安藤力希、井澤照瑛、柏尚希、遠山越、山口蒼空、貞清亜門、岩谷奏汰、熊田清久郎、眞下竜輝、久保俊貴、林田昂大、飯島啓太、沼端健吾、菊池夢翔、石川斗音真、福田凌久、高橋佑成、富澤尚真、深谷壮馬、佐藤泰旺、本多眞武、進藤新大、以倉温、八木橋源太、金原羽流、川野仁蒼、岡野丈オサロ、中塩桔平

<東急SELEIS> 監督:佐藤智

貝塚大幸、藤井文温、梅木悠聖、安田柊蓮、福島創士、今野翔空、長倉一馬、山本健斗、伊藤凜大朗、庄司瑛人、板垣圭祐、浅野藍、横井日來、吉田隼磨、渡邊佑樹、尾白晃史、熊谷伊弦、清水桜介、岡戸一太、ベック・ジャクソン、坪井凱聖、山口佑里、鈴木大雅、高橋季真、レジャー・カルダー、スチュワートボックス憲治、鈴木蒼旺、佐々木晴哉、武田佳悟、佐々木晟輝

<川崎フロンターレ生田> 監督:久野智昭

小村風人、青木馨、中島嵩登、根岸佑成、出口翔太、對馬羽流、上野煌士郎、吉田琉海、濱野礼、森本信路、志田龍彦、月見里遥希、望月楓史、荒井瑞樹、渡邊拓真、中野大虎、川上翔、夏目瑛斗、富田嵐丸、吉澤映杜、徳政岬、戸澤蓮太、新堀卓、笠倉運央、高橋一真、土肥瑠星、高越遼平、佐藤慶、中島温、都島タヒル光真

<鹿島アントラーズ> 監督:杉本真

山崎駿輔、根本皓生、三崎斗馬、笹沼元之介、清水瑛、竹澤未咲、栗田遥斗、高田斗真、岩淵羽流、金森直生、石神光、岡嶋隼之心、川戸暖真、畑研一、瀬尾桔平、新田健悟、大川芯和、武藤琉馬、高橋佑次、宗方颯人、渡邊秀壘、古閑莉空、安田結翔、東城樹、古河瑠亜、磯部怜夢、梶孝輔、草野敏輝、福原希実、平根遙人

<浦和レッズ> 監督:萩村滋則

尾崎孝太郎、白川龍斗、高橋蒼、富山優斗、印出晴、戸所偉大、中村純之介、二唐琉真、細川泰斗、森井琉生、秋山大翔、片山蒼太郎、鈴木奏、児玉樹吹、佐々木瑠輝、野口蒼太、松元咲人、森泉迅、山崎步、吉野登馬、伊藤大智、宇佐美飛斗、中山空、箕輪大世、菊池大河、小松大馳、執行悠斗、福田誠人、ウチエフナクリストファー チゾバ、宋勝

<FC東京むさし> 監督:藤山竜仁

フランク ローラン 顕佑、朝来野透和、森下悠聖、石井七汰、池田創、高野壮輔、高橋快、鳥海暁史朗、早川瑛斗、多々野舜太、三口大海、岩崎隼人、佐藤直紀、松村太晴、松野拓実、川田朔太郎、米川祐輝、北浦陽向、江森友哉、佐藤晃之介、矢部志穂、佐々木アンドレオウス、中島由翔、大熊悠斗、棟石雄、服部幸之介、伊藤航、上田颯真、北林翔、沢山怜生

<横浜F・マリノス> 監督:梅津博徳

井上勇翔、佐藤良多、金子隼人、池永龍ノ介、長倉結人、中山柊斗、金沢俐京、瀬戸山玲音、村瀬颯、白子輝、今井恒、永井煌大、齋藤陸斗、関一成、井上玲央、武田隼一、田中大雅、松井皓、木下樹、田上慶一郎、山田湊斗、板東仁、日下部凌、三國準之助、後藤惺二、佐野翼、松尾健吾、藤澤斗亜、鈴木遼、中島颯汰

決勝

FCラヴィーダ 1 (前半1-2 後半0-0) 2 ヴィッセル神戸U-15

●2025年8月25日 11:00 ●札幌サッカーミュージアムパーク天然芝サッカー場 ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]宗像瞭 [副審]堀悠雅/二谷夢翔 [第4の審判員]佐藤裕一 ●観衆:300人

ラヴィーダ(監督:村松明人):[GK](33)近藤大和 [DF](2)赤塚晴紀(3)鏡内颯真(5)中山織汰(6)山岸悠人 [MF](4)臼井幹太(11)掛水楓空(14)堀ノ内湊大<→HT(17)笠井作彌>(19)金子巴起<→53'(30)鈴木陽翔> [FW](9)藤松碧士(10)オツコロ海桜

控え:(1)岩杉颯太(7)高田悠月(8)上杉玲王(15)田中凜大(18)矢野翔己(22)長井隆之介(28)鈴木想徳

神戸(監督:山道高平):[GK](1)田口創一朗 [DF](2)李在潤(3)三谷友浩(4)川崎悠生(5)高谷瑛人 [MF](7)石井海翔(10)浅田連(28)岡部遥希<→76'(6)松田拓士> [FW](9)山田凌也<→73'(17)中村孝太郎>(11)山下真翔(15)村吉正宗<→80+1'(13)畑野陸十>

控え:(12)久留米勝希(14)姫野佑斗(16)小迫聡介(20)水口航志(25)波多野叶人(36)藪田一輝

得点	[ラヴィーダ]4' 藤松碧士(1-0) [神戸]28' 村吉正宗(1-1)、39' 岡部遥希(1-2)
警告	[ラヴィーダ]66' 中山織汰

<グランデFC> 監督:坂口照幸

郭ミンソ、小澤昊士朗、太田悠陽、程塚桜太、加藤慧悟、藤田勇輝、二宮力樹、折原將泰、平山達仁、梶田莉杏、松田海翔、町井喜輝、木谷悠斗、萩谷勇悟、山川雅人、林勇瑠、木内遥翔、朝倉瑛仁、松山朱琉、浜島哲太、高橋彪斗、赤松旺人、赤谷海音、塩崎猛流、山添智己、井芹響美、柳澤大樹、吉川愛琉、中村陽彩、川田空丸

<A.C.アズミ> 監督:戸田直人

三村太陽、大橋涼太、村佐篤人、石原星波、樋口大翔、桑原暖輝、岸彪牙、加藤蒼空、中村涼雅、相田健吾、谷川晴哉、樋口大雅、鈴木悠大、大野琥馬、成田壮吾、佐藤温真、浅井瑠珂、渡辺翔、大宮世成、濱智希、田口威颯、佐藤啓太、西尾和真、山本悠楽、祐佐怜央、谷川友祐、大野悠斗、諏訪雅人、木村創士、熊谷晃汰

<RB大宮アルディージャ> 監督:中谷優介

新村和史、藤森陸真、藤ノ木翔太、西江凛人、児玉蓮、木村秀心、松下遥哉、池野航志郎、奥村颯斗、佐藤春希、三上尚紘、中川皇輝、高橋征矢、宮島佳佑、清野然太、宮内琥太郎、土谷光、迫田凌和、狩野純輝、藤田湊介、猪瀬るい、安井康真、柳山与一、安住琉星、飯塚篤人、岡本翔太郎、湯浅慧真、山田陽斗、加藤亜輝、亀山陽士

<湘南ベルマーレEAST> 監督:岡村政幸

山田琥太郎、長嶋結太、岸谷涼太、米田暁、川島想世、石田蓮太郎、奥川勝斗、半田風月、野崎禮央、久保颯吾、西航希、大藤瑠伊、空星貴太、水嶋奏雅、寺島怜、村雨亮吾、山際志道、劉奕凱、山本真士、渡邊颯馬、長柄航洋、村上大志、西山譲、黒岩諒、山崎幹司、渡邊瑛心、宗次琢磨、ジョンソン ラセルズ大牙、石川瞬人、富永有飛

<1FC川越水上公園> 監督:桑川幸司

春日来登、天沼陽斗、富田蒼、山口央輝、伊賀由泰、上野颯介、齋藤翼、小川響、青田湊悟、加賀谷琥介、高橋珠吏、堀池紅、大石晴太、松永明也、岡田一慶、中島凜雄、白石陸翔、翁井恒瑠、白石大翔、山崎律希、松井翔海、浜田拓希、平野功遥、安藤皇賢、春本蒼生、上堀内翼、渡辺蓮、豊田怜央、久和蒼真、蒲池智遼

<前橋FC> 監督:湯浅英明

石井奏音、渡辺大雅、中尾惺、鈴木空亮、堀越謙信、栗屋光、加藤志樹、平元悠介、那須葵、向山瑠斗、能登修太郎、富沢大地、新藤礼稀、松本大輝、名瀬波暖、佐藤詩月、片貝陸大、阿久津大空、大胡虹太、南壮佑、七島光加、林優空、小林諒矢、坂本鼓晴、田中陽、本橋龍空、内野楓斗、阿多翔大

<カターレ富山> 監督:徳田弥武

安孫子承太郎、江蔵律音、中嶋工有輔、福田優翔、伊藤叶夢、木村賢太郎、小幡陸斗、齋藤与、景山優杏、濱田遼空、辻口緒斗、中居一倅、濱谷賢矢、岡田咲希、牧野奏嗣、井上絆理、金本昊喜、木村友哉、堀川啓仁、角陽琉希、村上翔哉、林碧生、野崎透輝、尾近優太、北村朝陽、秋元優汰、堀越介、柴田遥麻、三浦里喜、江添結輝

<パテオFC金沢> 監督:木村龍朗

徳田晃大、西田聡一郎、梅谷実輝、大多悠翔、東琉生、中西海音、小山瑛光、藤谷奏佑、田谷壮真、中野煌大、相澤悠貴、杉森相剛、中村凌、吉野湧太、藤島空大、稲本理仁、宮野来鳳、茶谷友貴、高木恒星、磯部奏空、岡田玲音、前川廉成、前沢百春、油野七生、西宮翔琉、中島暖偉、西尾葵碧、山中零士、青山結輝、木沢蒼

<ツエーゲン金沢> 監督:寺中克典

南谷大和、笹嶋希輝、上瀬夢翔、汐見弦太郎、北陸斗、浅田迅、竹松駿、山田樹生、横川太雅、清水健斗、永井健磨、牧野大舞、森川颯太、中野遥仁、得永温太、下崎仁太、大野虎次郎、中田恵彰、五島加偉、永野想大、川端天真、中村大絆、重田奏佑、新古悠貴、林大夢、赤田桜翔、フェルベ・オリベira、国原大輝、疋田拓、干場春尚

<名古屋グランパス> 監督:小山優

利田夏惟、水谷来夢、小林謙太、長谷川朝陽、伊藤隼翔、瀧上暁史、滝川林太郎、川村壇平、稲浪颯士朗、伊藤朝、柳原秀、清水謙年、福田隼太、松本宗史朗、田邊幹大、中嶋晃誠、深谷朔共、野村卓史、中根佳祐、谷本来侍、右田実生、岩田愛白、岡崎航汰、渡邊波季、末永光基、竹内悠三、塚本飛翔、宮永尚空、戸田湊愛、山本耀生

データボックス

<FC.フェルボール愛知> 監督:細萱信行

佐藤央基、田中沈成、浅井海星、久野篤人、鈴木嶺太、三橋侑矢、村井奏太、社本昊、天野寛大、窪陸太、高橋洸貴、小倉政一、水野晴斗、森田翔葵、藤部我清、青木大和、前陸斗、左虹斗、高橋快生、安達史来、安藤嘉人、伊藤碧志、三浦永和、黒森新、水谷悠馬、堀田剛史、伊藤仁人、伊藤新之助、奥村友哉、下川蒼太

<清水エスパルス> 監督:岩下潤

小栗佑翔、瀧澤人、工藤大海、松尾悠生、後藤将真、清田理仁、蓮見遥、鈴木大牙、渡邊恒名、藤田凱斗、池野楓、田代琉偉、望月勤太郎、栗田大雅、福代成琉、兵元大祐、遠藤優空、宮城島輔、中井風雅、橋本勇人、杉浦玄理、山本新、栗田虎空、沙明、望月崇汰、谷武和、丸山翔、鈴木勝造、成澤勇介、喜多川教輔

<Honda FC> 監督:石橋真和

木村匠太郎、氏原瑛聖、岩下ゴエス マチアスキよし、千葉佑莉、大隅海吏、鈴木雄斗、仲田光希、安藤篤信、フジヤマ・デリキ・リュウ、河野新平、安達慶人、永田健太、泉澤奏汰、茨田淳平、鈴木暁大、大庭怜王、小阪幸生、森虎太郎、大谷颯希、竹山昂、向島潤、鈴木登輝、田中琉翔、村上祐、細谷壮汰

<清水エスパルス三島> 監督:池田昇平

平澤廣祐、小笠原正真、中野晴仁、勝又瑞貴、岡本大和、西湖綜大、若林蓮、門脇怜雄也、名倉飛翔、佐々木善生志、木村太一、野村太良、眞野大実、菊地彩暖、水谷恵介、興裕学、金谷直哉、梅野湖大、柏木元太、小林葵葵、尾崎央人、岩邊朝空、渡邊希晟、川口蒼樹、岡本率、内田漢斗、宇田心羽、土屋善史、安道雄平、齋藤歩斗

<名古屋FC-EAST> 監督:中尾友也

渡辺虹太、春田耀生、大崎遼平、中戸道大、加門旺志朗、杉原理、藤瀬結大、三輪晃太郎、中谷流太、津村一颯、仲林結大、森哲太、植田琉太、緒方蒼一郎、菅井琉生、植田瑛太、林颯也、木寺海誓、北風希、山元崇哉、岡田星飛、内野永聖、岡村颯太、伊藤大貴、知念倫央、佐伯蓮輝、池尻煌人、平井廣昌、科野兼伸

<ガンバ大阪> 監督:児玉新

小畑颯亮、福田怜皇、田口倅太郎、東一星エリック、西山瑛翔、澁川葵士、竹原玲音、樋口健志、安東瑛大、金子卓豊、松下裕紀、西出迅、菅原大我、原田漢斗、田原希空、藤井英翔、助川峻英、笠井直樹、砂田暎一登、朝尾桜介、佐野央成、中本旬、吉川瑠、白井大翔、加賀野誠、坂井雄真、青山輝、藤堂優心、垂水隆、仲嶋大輝

<リッパースC> 監督:今村康太

竹井幸大、北野歩生、田中晴彦、山下恵輝、川口侑汰、川畑陽翔、吉延志龍、垣内祥太良、中谷流太、津村一颯、仲林結大、森哲太、植田琉太、緒方蒼一郎、菅井琉生、植田瑛太、林颯也、木寺海誓、北風希、山元崇哉、岡田星飛、内野永聖、岡村颯太、伊藤大貴、知念倫央、佐伯蓮輝、池尻煌人、平井廣昌、科野兼伸

<高槻シーグFC> 監督:甲斐裕介

平木圭、渡辺悠有、山口駿、湯口琉生、福永大雅、守山凜人、川岸扇、大西蒼介、安田亮太郎、藤本翔真、堤琉慎、安徳勇輝、駿河蹴青、吉田壮佑、福元佑征、前田陽介、蛸澤遼士、江良幸一郎、前田圭佑、高橋運次郎、杉山大知、田中佳橋、木村貴太郎、山根雅貴、内田陽翔、下野松、吉村澤希、神宮司彪斗、二神榮則、長田晴太

<京都サンガF.C.> 監督:高崎康嗣

加曾利悠馬、山崎新太、植田力輔、宮川達平、上村知弘、西井玄篤、山下巧祐、金淳優、中村将也、中村光希、藤井凌寛、古田侑真、北川徳夢、三輪万葉、朝倉叶翔、片岡慎二郎、高本大志、横谷彪翔、吉岡志志、吉村洸登、杉本凌、植木涼介、西途蒼、竹沢日向、仲辻徳、児玉智大、因幡春臣、関根実杜、土田欣吾、山本旺和

<ヴィッセル神戸> 監督:山道高平

田口創一朗、久留米勝希、森昂琉、小松大空、李在潤、三谷友浩、川崎悠生、高谷瑛人、姫野佑斗、小迫聡介、水口航志、平田一翔、原旺也、松田拓士、石井海翔、花元蒼絆、浅田連、中村孝太郎、高見琉生、波多野叶人、岡部遥希、岡田隼輝、蔵元颯人、山田凌也、山下真翔、畑野陸十、村吉正宗、住友大翔、島晃之介、穀田一輝

<ガンバ大阪門真> 監督:宗像剛

秋丸京太郎、本田琉翔、三上讓、河崎里空、久保田雄誠、坂東奏音、新井悠友、西川陽翔、川崎翔琉、西谷彪生、光山宗志、矢田航、中野凌成、梅田琉生、福田愛良、原裕都、奥田来、内藤佑斗、山崎峻彦、中井颯思、西村賢人、春名来希、藤浦田駿、和久昊世、小林祐、江阪隼斗、原口晃輝、中啓、村上愛翔、辻井陸

<セレッソ大阪> 監督:久川直裕

松瀬横斗、山口尚琉、石本悠人、鈴木漢斗、エラファ、米山志同、山本航太郎、丸岡仁、澤坂優愛、定本結太郎、高田康志、榎原帆高、竹添大祐、田中中央、眞木琉之介、金森類、藤原怜生、李昊亮、中瀬莉旺、鎌田理叶、藤田大智、波床瑛士、山本大樹、紙谷勢虎、大田琉維、篠原ジェアンカルロス、伊東雅葵、足立匠輝、熊野照大、北田泰心

<サンフレッチェ広島> 監督:岡本知剛

高山一輝、野上結矢、河野央貴、久本暁大、森田琉希、松川斗祈、窪田京、森岡詩太、橋本英知、西中颯大、長尾昊馬、柴田葵生、末岡祐陽、住岡励海、片山新、笹川秀斗、空史琉、西本展、池田然、榎木優汰、堀江葵斗、坂藤龍之介、川本絆、岩成浩和、田中怜汰、貞森大雅、竹岡真叶、片山順三郎、山田晃士朗、駒野友春

<サンフレッチェびんご> 監督:梨和実

川本光真、宮地達真、中田晴惟、白神颯祐、原田直太郎、島村拓海、廣井陽大、亀井遥翔、村上稜征、枝廣潤、奥田達也、渡邊蒼斗、小田央士朗、山崎大翔、松本琉生、中野暖己、寺本幹太、岡田七星、馬場奏佑、実井莉央真、石原暖大、桑田昊空、高橋陽泰、平山葵介、大和祐太、落合桜史、村上颯大、豊田運、前直玖、杉原翔

<シーガル広島> 監督:森龍弥

羽原尚弥、俣手濱陽太、弘中深人、大下蒼空、岡鯉太郎、楠本蒼太、朝原悠斗、栗田翔成、高野匠人、谷村虎太郎、佐々木晴宙、眞田晴幸、長宗桃聖、廣田晴也、松本陸季、大睦新太、黒川将輝、中西奎斗、福島颯大、古本侑飛、山崎叶、長谷川大希、川野琉大、河本悠磨、池田彩人、高橋瑛央、鏡本樹、平塩裕翔、八藤悠斗、土井長優斗

<愛媛FC> 監督:小笠原佑生

門屋悠真、三浦悠斗、濱松斗真、瀧田連王、中野海音、宮岡虎磨、中山誠風、向井紡己、鶴身颯士、吉村匠人、善家嵐、西田聡一郎、光宗桃志、青木千真、若藤昊生、大沼曉良、村上脩、一柳颯汰、藤堂巧武、坂本琉、赤松諒乙、三好修真、日浦小治郎、中矢隼人、毛利圭吾、橋本桜太、山岡暉斗、塩田伊織、青木瑠希、渡部駿

<カマタマレ讃岐> 監督:篠原真樹

チーマ・ハサンアリ、泉本陽向、大住和輝、小野山安、安藝倫太郎、横山龍翔、山原大雅、井元奏汰、畑康佑、宮内太基、飯間晴一、馬場桜也、仁尾亮太、山添成海、米田斗緒磨、香川煌介、磯田真翔、鏡原翔、大屋敷拓、滑田健琉、寺坂弘毅、山下士琉、小川瑠斗、鎌田颯、井上大慈、山崎圭翔、久保暁、多田朱希、石原立規、劉軒祐

<ソレック熊本> 監督:広川龍介

庄村虎之亮、世戸結人、山下凌央、小浦春、田中駿佑、蔵原聡次郎、上農崇斗、松藤真生、小塚星那、吉田廉、後藤一颯、有田宇梁、宮嶋良治、橋元結仁、前田七星、前田蒼真、小柳徹心、坂本瑛斗、澤辺涼、野口孝斗、千田和輝、満原愛夢、寺田漢真、太田翔月、佐藤涼羽、島中隆伍、鹿釜達、太田晴都、前田風晴、辻村星輝

<アビスパ福岡> 監督:宮本亨

青木将一郎、奥村諒介、武重智也、清水椋、森内雅也、久米愛斗、花田一翔、後藤彰吾、西村翔雲、村上煌、川東隼治、納富統生、古賀颯来、竹信瑛治、長坂桜侍、堀結葵、牛島弘貴、行徳颯真、溝上順一朗、大塚希世仁、筒井孝汰、方海翔、篠田善太、山内佑馬、丸山裕誠、大津悦亮、伊藤凜人、ラマ・ブラウス、吉村隆希、伏原歩

<ヴィクサーレ沖繩> 監督:福地聡太

新崎健生、佐々木琉生、瀬底龍登、飛梅太我、上地恒輝、照屋千武、平良大典、新里陽朗、銘河竜貴、野原昊、金城旺武、大宜見悠琉、大城武礼、久保田凜、仲宗根嶺、西原運介、椎屋理人、古波倉侖、澤澤琉、亀崎研汰、久保田壘、大城漢斗、新里江琉、川上琉輝、赤嶺顕吾、嶺岡虹、我如古雄心、今井琉陽

<ロアッソ熊本> 監督:園田拓也

横山豪大、城本穂希、村上千那、田尻成羅、濱本拓宏、福田陽真、北里莉亜歩、森琉偉真、上祐利、田中陽琉、嵯原悠月、八田航希、向井健太、香月泰叶、東山隼斗、喜久本昇吾、上杉迅、井上太陽、田中悠士郎、久保蒼真、早坂良貴、川崎仁、太田漢空、有吉涉、下田翔太、東郷令和、曾根隆世、井上啓夢、村上瑛斗、宮本愛叶

<原田学園SC> 監督:吉井孝輔

福留輝星、有馬光信、黒崎隆志、中江太一、久保佑真、原田響、峯那麻斗、辻勤太、家入胡虎、田中竣陽、田中陸斗、馬場宗太郎、栗田桜我、山田朋弥、山崎夢斗、宮田晴斗、楠元星那、長瀬来琉、岩元温、藤元遼斗、是枝幸希、椎原慶太、明石佑士、立石之雲、村田幸祐、鳥越翔太、田中悠登、山下潤仁、吉永麗央、松元太洋

<サガン鳥栖> 監督:森憲佑

大坪那瑠、山田真羽、荒木崇秀、門口優希、荒木悠也、原口斗真、下村彩斗、高祖海斗、井上祐利、田中陽琉、嵯原悠月、八田航希、向井健太、香月泰叶、東山隼斗、喜久本昇吾、上杉迅、井上太陽、田中悠士郎、久保蒼真、早坂良貴、川崎仁、太田漢空、有吉涉、下田翔太、東郷令和、曾根隆世、井上啓夢、村上瑛斗、宮本愛叶

<FC琉球> 監督:秋本倫孝

知念弘樹、與古田憲剛、島崎真弘、宮城涉、白銀天翔、川田泰、新垣珠和、佐藤呂威、中村優希、兼聖太樹、上江洲瑠也、前田将輝、島山朔人、仲里龍光、長谷川愛翔、高岡歩武、新垣瑛大、崎原有悟、池宮城迅、津波古大翔、岸本泰河、大庭蓮、宮城光沃、ホームズ ケイデン、徳山煌、岡田遼、新城奏介、宮城洸志、田里友雅、東勇之介

令和7年度 全国中学校体育大会 第56回全国中学校サッカー大会

本大会は、公益財団法人日本中学校体育連盟、宮崎県、宮崎市、都城市、新富町の各教育委員会およびJFAが主催し、全国大会参加資格を得た一校単位で組織するチームでJFAに加盟、かつ当該チームに所属する都道府県中学校体育連盟加盟の中学校に在籍する生徒（ただし2010年4月2日以降に生まれた者に限る）に参加資格が与えられた。今大会は8月17日～22日、32チームが参加して宮崎県で開催された。

※ 71 ページに関連記事あり



準決勝

日章学園中学校 4 (前半1-0 後半3-1) **駒場東邦中学校** 1

●2025年8月21日 9:33 ●ひなた宮崎県総合運動公園陸上競技場 ●試合時間:60分
●審判員:[主審]厚地梨央 [副審]國師えりな/岩田紗瑛 [第4の審判員]宮本航希
●マッチコミッショナー:藤原良輔 ●観衆:350人

日章学園(監督:福島将太):[GK](1)勝俣勇星<->51'(17)原連太> [DF](3)越川權斗(4)新徳一太(5)田中響樹<->46'(15)黒木鈴斗>(6)宮田修英<->43'(12)古庄琥煌> [MF](2)奥村皇太<->43'(18)別府咲>(7)福瀨桜祐<->60+2'(14)尼子竜聖>(10)岩切琳太郎<->51'(16)白木陸翔>(14)尼子竜聖<->38'(11)柿田楓和> [FW](9)飯野結喜<->43'(13)平西千真>(11)柿田楓和<->HT(8)宮原咲人>

駒場東邦(監督:福富貴之):[GK](1)中嶋颯太 [DF](3)山田一心(4)石原遼<->43'(9)中村太軌<->60+3'(6)佐藤巧>(5)秋元健吾 [MF](6)佐藤巧<->21'(16)長与祐樹>HT(2)大東佳弘>(7)永井漣(8)辻野貴良(11)鈴木照盛(13)今野礼偉<->10'(15)阿島奏太朗<->44'(14)久保伶司>56'(17)勝俣航河<->60+3'(99)地主光> [FW](9)中村太軌<->21'(99)地主光>HT(6)佐藤巧<->37'(13)今野礼<->60+3'(4)石原遼>(10)吉澤巧真

控え:(12)広江奏太郎

得点 [日章学園]11'宮田修英(1-0)、36'尼子竜聖(2-0)、40'飯野結喜(3-0)、42'柿田楓和(4-0)
[駒場東邦]60'勝俣航河(4-1)

【参加選手】

<岩見沢市拠点校サッカー部> 監督:砂沢悠太
髙原瑞元、上岡新、三浦涉聖、木川涼涼、木澤翔哉、木村旺雅、郷原太陽、東志夢月、富山愛斗、林航平、定塚輝真、今龍之介、老田奏叶、小山内翔琉、新井田奨、田中結也、増田成真、谷口琉河

<札幌大谷中学校> 監督:川高亮介
山内慈丸、篠田龍臣、石田修都、阿部心太郎、千葉竣平、本田雄大、番場悠太、村中佑吏、小室直也、齋藤蒼季、太田悠成、中山琥時郎、近藤光太、藤井洸太郎、熊谷心我、本間諒斗、七條颯太、南野峻之介

<青森山田中学校> 監督:成田鷹晃
佐藤陽心、美馬空羽、米田隼、矢萩寿虎、中野颯馬、溝口陽月、横川温大、齋藤連介、菊地玲真、篠崎楓、古川瑛大、坂本愛斗、吉田斗雄、加藤関羽、高田莉玖、伊藤勇磨、越田輝虎、大沼空雄

<千厩FC> 監督:菊池孝幸
熊谷悠心、高橋恋桜、小野寺勇人、葛西孔明、澤口陽奈汰、千葉翔太、小野寺俐人、三浦陸翔、千葉空、金野達来、藤本明登、吉田瑞樹、水戸翔輝、遠藤奏汰、鈴木斗翔、及川葉月、藤野結人、菅原架依

<滝沢市立滝沢南中学校> 監督:大森厚輔
成澤洗稀、五枚橋仁一、鍋倉颯太、佐々木颯真、吉谷地真大、鍛冶屋敷椋太、元居啓介、小野寺麟、武藏悠音、佐藤敏人、尾形希将、武藏奏音、高橋叶、佐藤陽向、田村理人、富谷奏亮、高橋彰真、中村健太郎

<さいたま市立南浦和中学校> 監督:清野大輔
今平瑛太、北谷郁真、杉澤朝陽、井上泰一、町田祥崇、鉈峰颯真、武海斗、佐々木泰雅、藤井真輝、大倉泰志朗、関本悠吾、沼尻汰汰、大城豊和、中沢輝星、小川凌世、関塚遼、森大樹、伊藤聖都

準決勝

神村学園中等部 0 (前半0-0 後半0-1) **静岡学園中学校** 1

●2025年8月21日 9:33 ●ひなた宮崎県総合運動公園サッカー場 ●試合時間:60分
●審判員:[主審]山内恵美 [副審]岩本穂花/海野晴香 [第4の審判員]宮井麗央 ●マッチコミッショナー:布施純一郎 ●観衆:250人

神村学園(監督:松本翔):[GK](1)石原碧己 [DF](2)細川龍之介(5)内田虹音(6)池村康晴(19)上野瑛人 [MF](8)那須貴晶(10)江田國将(14)永山大陽<->HT(20)切通武流<->40'(9)渡部翔介>(16)高浪蒼空<->50'(14)永山大陽> [FW](12)盛陽海(18)松元玲雄<->60'(21)外川内竜誠>

控え:(25)東口葵音(11)比嘉渉人(13)高田海心(15)森岡蒼太

静岡学園(監督:岡島弘高):[GK](1)樋渡悠真 [DF](2)三保琥太郎(3)石川貴久(4)秋山奏翼(5)木原結大 [MF](6)西谷朱雀(7)山田菜汰(8)北村岬輝(10)亀川潤(18)宮坂脩斗<->60+1'(15)河野夏斐> [FW](9)吉澤心

控え:(17)平松晃(11)中山叶翔(12)山田優志(13)古澤樹(14)佐野天空(16)小池望良

得点 [静岡学園]52'北村岬輝(0-1)

決勝

日章学園中学校 0 (前半0-0 後半0-4) **静岡学園中学校** 4

●2025年8月22日 9:30 ●いちご宮崎新富サッカー場 ●試合時間:60分 ●審判員:[主審]岩本穂花 [副審]國師えりな/山内恵美 [第4の審判員]厚地梨央 ●マッチコミッショナー:藤原良輔 ●観衆:1200人

日章学園(監督:福島将太):[GK](1)勝俣勇星 [DF](3)越川權斗(4)新徳一太(5)田中響樹(6)宮田修英 [MF](2)奥村皇太(7)福瀨桜祐(10)岩切琳太郎(14)尼子竜聖<->43'(8)宮原咲人> [FW](9)飯野結喜(11)柿田楓和<->55'(14)尼子竜聖>

控え:(17)原連太(12)古庄琥煌(13)平西千真(15)黒木鈴斗(16)白木陸翔(18)別府咲

静岡学園(監督:岡島弘高):[GK](1)樋渡悠真<->60+5'(17)平松晃> [DF](2)三保琥太郎(3)石川貴久(4)秋山奏翼(5)木原結大<->60+3'(16)小池望良> [MF](6)西谷朱雀<->57'(12)山田優志>(7)山田菜汰(8)北村岬輝<->60+5'(13)古澤樹>(10)亀川潤<->60+3'(14)佐野天空>(18)宮坂脩斗<->57'(15)河野夏斐> [FW](9)吉澤心<->60+5'(11)中山叶翔>

得点 [静岡学園]34'、54'西谷朱雀(0-1)(0-3)、53'三保琥太郎(0-2)、60+6'山田優志(0-4)

警告 [日章学園]飯野結喜

<さいたま市立尾間木中学校> 監督:廣井洋平
澤野春紀、網谷壮琉、竹内颯汰、塚原蓮、飯山開翔、秋本望希、大谷歩夢、中村真、中村維、水上瀨那、前川直輝、加藤健晟、越戸俊晴、山崎漢斗、伊藤虎太郎、山崎瑛太、酒井唯唯、長峯斗

<皖星国際中学校> 監督:小林飛雄馬
鈴木颯哉、松原平、捧蓮二、朱嚙誠、鈴木蓮、武藤理仁、加瀬與冠、久野太誠、石寺想大、三谷聖我、諏訪海人、高橋虎太郎、高橋來希、米澤光紀、吉田泰蔵、兼田岳、鶴岡鉄将、川崎輝人

<駒場東邦中学校> 監督:稲富貴之
中嶋颯太、広江奏太郎、大東佳弘、山田一心、石原遼、秋元健吾、阿島奏太郎、佐藤巧、永井連、辻野貴良、鈴木照盛、今野礼偉、長与祐樹、勝俣航河、中村太軌、吉澤巧真、久保怜司、地主光

<甲府市立城南中学校> 監督:竹中翼
横谷悠、栗袋陸斗、安永桜太、中山桜汰、太田土善、齊藤聖風、雨宮彩仁、水上麗、日向慶心、濱田柁吾、塚田結基、萩原琉偉、石原蓮斗、阪本樹希、松土碑樹、佐野寛太、安達優翔、柳澤大和

<多摩大学目黒中学校> 監督:鈴木雄
葵一心、小林颯馬、吉田光太郎、川尻拓海、飯塚達也、畑中颯介、吉田朋生、萩野隼哉、神原時丞、渡邊晴人、後藤亮二、江原壮亮、石井連、川口瑠久、向井心一、長谷部優心、廣田凌、滝澤孝英

<流通経済大学付属柏中学校> 監督:塩倉高弘
本田蒼音、岡崎琉騎、原田教、山田瑞生、洞澤樹、江部壮太郎、木内瑛太、佐藤修吾、古川遼乃丞、村井瑛太、吉澤悠、新藤大翔、松井瑛太、杉本優真、中島幸心、森海翔、松井千晃、金村茂巳智

<金沢学院大学附属中学校> 監督:飯高登起康
平野颯大、豊田虎太郎、打出啓二郎、島田和季、中澤悠月、高松昂生、茅橋直也、小林郁斗、横山大豊、山口透海、野竹永慈、今村皇陽、杉本類士、小園辰朗、河原寿来、吉川十威、小林蓮、新出真弘

<星稜中学校> 監督:河二尊
末廣謙心、宮田康平、牧村拓実、亀井小次郎、桑原琉聖、本西燦互、井上昊、寺岡歩高、赤澤瑛、黒氏友朋、森勇波、根野大雅、森江蒼生、柴田碧士、今崎琉輝聖、久本直人、柳田将文、麦元漢

<常葉大学附属橘中学校> 監督:松下義生
藤井大喜、石川翔蒼、鈴木章太、鈴木奏汰、北村琉希也、鈴木海輝、喜納奈希、新井唯斗、赤池翼、佐藤睦、良知聖南、有働翔貴、小野田優生、村松陸羽、市川翔、臨川大毅、倉橋蓮聡、原田夢生

<静岡学園中学校> 監督:岡島弘高
橋渡悠真、平松晃、三保琥太郎、石川貴久、秋山奏翼、木原結大、山田優志、小池望良、西谷朱雀、山田菜汰、北村輝輝、亀川潤、古澤樹、佐野天空、宮城脩斗、吉澤心、中山叶翔、河野夏葵

<帝京大学可児中学校> 監督:堀部直樹
垣内亮賀、矢入慧音、山本誠輝、郡司蒼、村田陸翔、安藤優馬、岡田晴翔、安藤瑛真、河口陽翔、嶋田記良、加藤了大、久保雅那、宮崎大知、北川隼惟、志賀一斗、磯西紘澄、宮崎快理、岩本和樹

<アサンプション国際中学校> 監督:キローラ・菜入
布柴三四郎、真野博大、藤井太信、高木祇龍、米田翔海、岩本哲侍、浜本涉中、三原洗希、遠山駿育、西村一吹、国本陸巧、牧野乃稀、坂本尊彦、末平太一、山本弥正、西村飛翔、榎谷悠希、出石京志龍

<京都精華学園中学校> 監督:加藤康介
中嶋一貴、阿武真都、村上帆、高橋玖翔、水谷翔、加藤龍晟、溝口真ノ介、藤井那生、高橋颯真、荒木駿太、中谷遥馬、大坪丈信、野口雄成、山内隼、霜崎權、尾根歩真、中村峻、柘植慎之介

<近畿大学附属和歌山中学校> 監督:山本成輝
佐々木蓮、島本穂心、伊澤遼、將口駿介、和田惟心、西本颯介、保田幹太、山口理王、山田晃裕、久保成喜、原爽介、岩谷太陽、和田歩大、藤田創也、山田偉織、上野新太、井口慎太郎、池田敬之介

<賢明学院中学校> 監督:白垣友康
平山蒼太郎、福本誠二郎、樋口怜邑、渡邊颯、山口遼大、田畑愉人、隅莖利一、松岡一颯、辻幸之介、水元翔己、詠田涼、香川篤人、和田一真、福田悠人、南條涼太、川端舜、山崎天翔、横井健人

<和歌山大学教育学部附属中学校> 監督:流川謙語
網野佑音、下田隆士朗、眞野蓮生、眞木陽向、藤井龍利、鎌田煌大、北山翔希、宮村陽介、坂井健悟、森岡聡真、田中風、山本蓮人、高江洲伸一郎、小池恒史郎、吉野太土、和田典真、中西新太、田中歩

<岡山学芸館清秀中学校> 監督:太田憲秀
實末翔汰、白井愛己、恒次康祐、玉置佑也、中原慧人、金崎賢晋、小坂尚矢、水谷謙心、森平詩葵、濱崎美涼、丸濱諒人、曾谷幸士朗、白井翔己、岡崎将都、上原悠慎、山本奏風、森田悠斗、松嶋海樹

<高川学園中学校> 監督:末次峻太郎
長崎風篤、貞政大誠、西永嘉七音、加藤凛太郎、児玉空飛、中村汰道、田村琉悳、洞々瀬歩夢、須山平和、松永胡永、菅日輪、藤田慶真、小田天摩、野口友誠、藪木翔太、井田剛人、佐々木煌華、徳若琳唐

<吉野川SC Jr.ユース> 監督:橋本大知
松浦晃希、東條圭悟、堀本清正、酒井樹希、戸井和歩、伊月蒼真、吉本岳空、藤川桜太、堀江海翔、河野斗真、赤田晴紀、藤本健希、藤井琉衣、宇坂健汰、高井大輔、森田琉輝、蔵井亮介、久次米歩斗

<高知中学校> 監督:森本稔
角田蒼輝、出間永愛、田井東尚生、矢野悠宇、泉棟馬、片岡主、齋藤諒伍、茅野颯太、中岡美翔、谷脇穂岳、杉村信、松田大翔、岸本陽向、西森祐太、栗本陣之、岡崎岳、市川海音、黒木穂希

<みやこ町立厚川・豊津中学校> 監督:藏田響樹
佐々木優、渡邊大洋、鈴木聖和、坪石虎汰郎、徳永大河、杉本悠輝、川端昌邑、竹本一湧、川内亮平、大東龍之亮、進翔翔、小池海斗、福田日葵、植村勇心、渡引蒼太、廣島太一、竹本悠大、中村亮介

<神村学園中等部> 監督:松本翔
石原碧己、東口葵音、細川龍之介、上野瑛人、切通武琉、内田虹査、池村康晴、高田海心、外川内帝誠、那須貴晶、江田國将、比嘉涉人、永山大陽、森岡蒼太、高浪蒼空、渡部翔介、盛陽海、松元玲雄

<那覇市立小椋中学校> 監督:古波藏淳
神里研太、上原成翔、中村王武、花城怜音、喜屋武純也、与那嶺真樹、上原篤人、與那覇政陽、上原旬、金城琉音、峰野陽、宮城隼士、吉田悠晴、喜屋武巧大、天願藍、城間翔、棚原櫻介、沖山陽昌

<日章学園 鹿児島育英館中学校> 監督:山平義幸
黒暮翔絆、大久保碧空、前川歩生、井手原卓希、清水結太、濱脩斗、瀬戸口樹、井上輝羅、上村虎太郎、藤井疏良、上之大輝、安田穂積、岡琉生、加藤俊、藤井光希、田邊丈、入江魁生、日高優

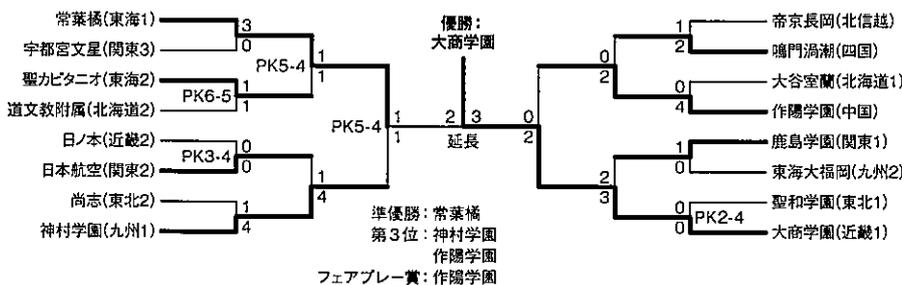
<日章学園中学校> 監督:福島将大
勝俣勇星、原連太、越川耀斗、新徳一太、田中響樹、宮田修英、古庄琉煌、黒木鈴斗、白木陸翔、奥村皇太、福渡桜祐、宮原咲人、岩切琳太郎、平西千真、尾子竜聖、別府咲、飯野結喜、柿田楓和

<宮崎日本大学中学校> 監督:吉行亮太
外山巧樹、藤本帆哉、中村琉人、平原碧鯉、林千聡、篠原豪希、菅原悠亜、末永吏久斗、志岐昌哉、久留木文、岩崎遥月、村上璃空、高橋和真、増田旺河、増田隼人、河野真平、横山佳明、平元桜雅

令和7年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(女子)

本大会は、公益財団法人全国高校体育連盟、北海道、室蘭市、伊達市と各教育委員会 JFA の主催で、7月28日～8月2日に16チームが参加して北海道で開催された。参加資格は、学校教育法第1条に規定する高校(中等教育学校(後期課程を含む))に在籍し、都道府県高校体育連盟に加盟、かつ2025年度JFA第2種登録を完了した2006(平成18)年4月2日以降生まれの選手に与えられた。

※ 67 ページに関連記事あり



大会優秀選手: 17名 (次ページ [参加選手] 内下線の選手/高校体育連盟選出)

準決勝	
常葉橋	1 (前半0-1 後半1-0) 1 PK5-4
●2025年8月1日 9:30 ●日鋼室蘭スポーツパーク(入江運動公園陸上競技場) ●試合時間:70分、PK ●審判員:[主審]新妻久美 [副審]荒木裕里香/小松祐也 [第4の審判員]鈴木陽和 ●マッチコミッショナー:松木俊博 ●観衆:250人	
常葉橋(監督:落合史裕):[GK](1)福川真紀<→69'(16)望月心愛> [DF](2)小澤瑠奈(4)松永紗依(5)望月寧々(13)大村楓 [MF](6)兵庫彩夏(7)佐藤煌(8)小島あのん(17)松井さつき [FW](9)石内日彩(11)竹川花音<→59'(10)松浦芽育子>	
控え:(3)上杉恵(12)鈴木亜子(14)佐野杏心(15)玉川志乃(18)木内優衣(19)田村彩心(20)花村芽咲	
神村学園(監督:寺師勇太):[GK](13)濱田桃奈<→70+2'(1)新屋奈々> [DF](2)梶島千和(5)遠島祐衣(6)折田陽和(19)生田凜 [MF](7)山野蒼空(8)佐々木由貴(10)舟之川桃果 [FW](9)原口鈴音(14)原田真心(20)池脇愛音<→48'(11)坂元めい>	
控え:(3)中地沙里(12)藤本理杏(15)中野結菜(16)日高美空(17)一木知華(18)濱砂安凜(26)船場彩乃	
得点	[常葉橋]67'小島あのん(1-1) [神村学園]3'原口鈴音(0-1)
PK	[常葉橋](8)○(6)○(5)○(4)○(2)○ [神村学園]先(9)×(14)○(6)○(2)○(10)○

【参加選手】

<大谷室蘭高校> 監督:石井一矢
洞口柚美、松本蓮菜、工藤梨々花、研谷楓、戴重晴、佐武すずね、乙坂柚菜、小林詩葉、山本菜々、鈴木萌杏菜、鶴巻花音、成田結理、江藤心璃、大原理桜、大橋心、小館のあ、芳賀美咲、平田陽奈乃、宮崎愛結風、榎田純怜、白濱彩夏、工藤凜奈、樋口夢来、上野一華

<道文教附属高校> 監督:清野訓晴
陶光莉、西田結衣、菅原朱李、長岡珂菜、山口乃愛、石田ひなの、熊田凜、吉田紗雪、山田海愛、加藤綾華、高谷紫月、近藤結空、阿部純、田村もも、寺崎華子、水口琳琴、上谷優依、佐々木碧、出張星空、畑知花、尾形仁萌、小笠原ひなの、古村光、石黒月、大友悠楓、鈴木花歩、大谷ゆい、五十嵐葵香

<聖和学園高校> 監督:曾山加奈子
福田知未、政延亜弥、日下奈美、室井紗和、佐藤あい奈、佐野美尋、大橋歩実、鈴木梨子、野村心夏、大口風紗、柳原瑠夏、角屋千海、小林凜、岸本莉依、保立七海、木村かの、鈴木夢保、伊藤花恋、高橋海空、折目蒼空、三輪琴音、村上雛音、嘉藤莉緒、平沢杏、佐藤美玖、野崎凜愛、大黒ひなの、上田愛央

<尚志高校> 監督:松本克典
飯干璃音、荒井晴香、大橋弘沙妃、女屋暖華、森川若葉、吉田明依、徳丸凜音、宇都木碧衣、古波純麗、三浦愛来、古庄梨枝、渡辺琉華、荒川遥瑠海、橋本侑奈、菊池莉央、鋤田菜音、土屋美海、渡部和奏、荒井櫻花、樋口風薫、草野理子、宇都木柚芭、井坂愛瑠、渋谷瑠南、川尻あい、齋藤佳歩、金谷笑花、塩田亜莉紗

<鹿島学園高校> 監督:晝間健太
佐藤璃星、土屋和、金子紗耶香、中西杏奈、阿南愛羽、津久井桜、市川心愛、権田海羽、明石桜空、西野愛衣、青木友楓、安住蒼空、藤原かのん、阿部陽菜多、大林亜未、渡辺奈緒、渡邊柚花、吉澤菜奈乃、竹田朱里、新井未来、須賀和音、本多由歩、添野結々愛、田口結菜、宿野野夏澄、吉田夏葵、山本彩加、本宮心夢

<日本航空高校> 監督:堀祥太郎
中嶋莉子、前田美沙、小原梨音、片岡さら、稲川璃、北浦彩夢、西出愛悠、入山葉月、大島美森、根橋涼花、石山桜、倉本葵衣、岸本成美、小堀美海、横山向日葵、小林愛佳、木村優、北井咲白、佐々木佑子、木村茉那、後藤すいな、岡本楼那、畠中瑞季、佐藤愛真、大橋莓果、羽中田来愛、宮崎心桜、魚津綺香

<宇都宮文星高校> 監督:鈴木秀明
鈴木夢歩、米川愛彩、田澤凜、上島桃那、小川優愛、柿沼愛、大野瑠華、立石楓恋、中澤和、大島叶愛、前林凜花、福田莉子、増山結菜、高橋結亜、福島智葉、鈴木さくら、渡辺笑彩、森田葵空、鯨藍、倉持咲希、白石葵琉、橋本百々花、青木心美、青木琴美、阿部菜々子、安澤心音、榎田陽暉、木村美咲

<帝京長岡高校> 監督:松野智樹
福浦光葵、荒木真彩、草野心来、池田仁香、林真紘、瀧口聖風、岸岡弥恵子、植田彩奈、大鳥彩、石井梨乃、西澤莉生、三上亜音、桑子愛央、中川果怜、西澤一葉、榎原千夏、齋藤葵衣、野田京初、船野玲、仲野新奈、高西和夏、柏木ちな、中彩夏、星山七海、甲口紗英、樋口歩寧、菅原美優、長谷川ほの

<常葉大橋高校> 監督:落合史裕
福川真紀、望月心愛、小澤瑠奈、上杉恵、松永紗依、望月寧々、鈴木亜子、佐野杏心、木内優衣、小川結蘭、佐野菜月、兵庫彩夏、佐藤煌、小島あのん、大村楓、玉川志乃、田村彩心、花村芽咲、菊池一花、高田心愛、石内日彩、松浦芽育子、竹川花音、松井さつき

<聖カピタニオ高校> 監督:多田利浩
藤原空、谷倉小雪、伊藤舞香、雛田莉央、畠山結佳、森星空、高瀬未愛、簡莉乃杏、鈴木心々、佐川愛恵、小林愛依、藤井あんな、佐藤翠、中屋敷夕音、加藤英麻、塩川十鈴星、伊藤叶葉、谷内珠梨、中谷心羅、南口美咲、出下優子、水野美和、村上奈瓜、小澤いづな、田内友梨、安野馨月、沖本倭季、南優音

準決勝	
作陽学園	0 (前半0-1 後半0-1) 2
●2025年8月1日 12:30 ●日鋼室蘭スポーツパーク(入江運動公園陸上競技場) ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]別府朋香 [副審]影本奈美/長浜杏名 [第4の審判員]土屋花 ●マッチコミッショナー:床爪克至 ●観衆:300人	
作陽学園(監督:山川莉々加):[GK](16)青木凜羽 [DF](2)前田御里(3)藤井いろは(4)森口羅夢(10)片口恵花 [MF](6)須崎沙都(7)賀田愛(8)小久保里望(12)高木萌映<→42'(13)松崎朱音>(20)太幸愛<→28'(9)田中沙羅> [FW](14)西田朱里<→64'(19)佐野柚希>	
控え:(1)後藤のぞみ(5)難波いぶき(11)吉田芽生菜(15)中尾花夏(17)村中亜優(18)岡野晏奈	
大商学園(監督:岡久奨):[GK](1)福田みのり [DF](2)中野梨緒(3)牧野生成(4)佐竹結愛<→70+2'(16)渡邊彩乃>(5)西村日花 [MF](6)近藤柚月<→70+2'(19)柴山温安>(7)村上杏奈<→68'(15)坂口里緒>(10)笠崎愛乃(13)近藤花<→70+2'(14)花田ここな> [FW](9)佐藤ももサロワウエキ(11)高山よぞら<→46'(8)上村真生子>	
控え:(12)西桃花(17)吉良凜(18)福山ひなの(20)土肥夕月	
得点	[大商学園]7'近藤柚月(0-1)、67'佐藤ももサロワウエキ(0-2)

決勝	
常葉橋	2 (前半1-1 後半1-1 延前0-0 延後0-1) 3
●2025年8月2日 12:00 ●日鋼室蘭スポーツパーク(入江運動公園陸上競技場) ●試合時間:70分 延長20分 ●審判員:[主審]影本奈美 [副審]荒木裕里香/土屋花 [第4の審判員]高橋柚菜 ●マッチコミッショナー:松木俊博 ●観衆:600人	
常葉橋(監督:落合史裕):[GK](1)福川真紀 [DF](2)小澤瑠奈(4)松永紗依(5)望月寧々(13)大村楓 [MF](6)兵庫彩夏(7)佐藤煌(8)小島あのん(17)松井さつき [FW](9)石内日彩<→86'(10)松浦芽育子>(11)竹川花音	
控え:(16)望月心愛(3)上杉恵(12)鈴木亜子(14)佐野杏心(15)玉川志乃(18)木内優衣(19)田村彩心(20)花村芽咲	
大商学園(監督:岡久奨):[GK](1)福田みのり [DF](2)中野梨緒(3)牧野生成(4)佐竹結愛<→88'(16)渡邊彩乃>(5)西村日花<→55'(14)花田ここな> [MF](6)近藤柚月(7)村上杏奈<→90+1'(15)坂口里緒>(10)笠崎愛乃(13)近藤花 [FW](9)佐藤ももサロワウエキ(11)高山よぞら<→46'(8)上村真生子>	
控え:(12)西桃花(17)吉良凜(18)福山ひなの(19)柴山温安(20)土肥夕月	
得点	[常葉橋]27'小島あのん(1-1)、39'竹川花音(2-1) [大商学園]12'、69'佐藤ももサロワウエキ(0-1)(2-2)、86'花田ここな(2-3)
警告	[大商学園]66'笠崎愛乃

<大商学園高校> 監督:岡久奨
福田みのり、西桃花、東愛結、中野梨緒、牧野生成、佐竹結愛、西村日花、近藤花、渡邊彩乃、福山ひなの、森田結衣花、高橋佑里、近藤柚月、村上杏奈、笠崎愛乃、坂口里緒、吉良凜、柴山温安、土肥夕月、中村美南、福田愛子、山田千咲紀、上村真生子、佐藤ももサロワウエキ、高山よぞら、花田ここな、白井心、中村彩葉

<日ノ本高校> 監督:酒井允
湯ノ口愛佑菜、福垣蓮、大塚理紗子、中内咲那、細田若那、中里美咲、赤羽桃萌、下山司、今村木虹、塩谷花央、高橋あすか、林華衣、木下奈南、高橋れある、白鞘愛留、色川翔夏、山口真樹、原琴美、太田遥香、高岡怜愛、吉野温音、椎葉心華、上田妃菜里、玉井那奈、坂東麻耶、五味由和、古川瑠華、河村芽那

<作陽学園高校> 監督:山川莉々加
後藤のぞみ、青木凜羽、前田御里、藤井いろは、森口羅夢、難波いぶき、宮崎風緑、川崎碧、奥村橙子、須崎沙都、賀田愛、小久保里望、片口恵花、高木萌映、西田朱里、中尾花夏、村中亜優、岡野晏奈、太幸愛、福垣結、越智春妃、中島乃々、薮花絵海、田中沙羅、吉田芽生菜、松崎朱音、佐野柚希、木戸菜姫

<鳴門渦潮高校> 監督:佐藤城介
松尾心真、仙波愛衣、南雲虹幸、岩田蒼生、千代紘、堺真央、長瀬莉世、西脇莉音奈、流谷麻代、大野羽月、井上理子、今岡心美、立野姫愛、上林璃桜、山口蒼織、藤岡虹羽、河月とあ、里見想羅、片岡未羽、村井沙帆、杉本雪奈、香山妙瑛、佐藤美風、高石ひなた、堀沙那、中垣文花、太尾花玖弥、福原由麻

<神村学園高等部> 監督:寺師勇太
新屋奈々、濱田桃奈、津曲和美、梶島千和、園田結凜、遠島祐衣、折田陽和、藤本理杏、生田凜、岩下沙羽、廣田凜、船場彩乃、中地沙里、山野蒼空、佐々木由貴、舟之川桃果、坂元めい、原田真心、中野結菜、日高美空、一木知華、濱砂安凜、池脇愛音、中村葵、土山紗也佳、坂本日和、原口鈴音、五十嵐碧

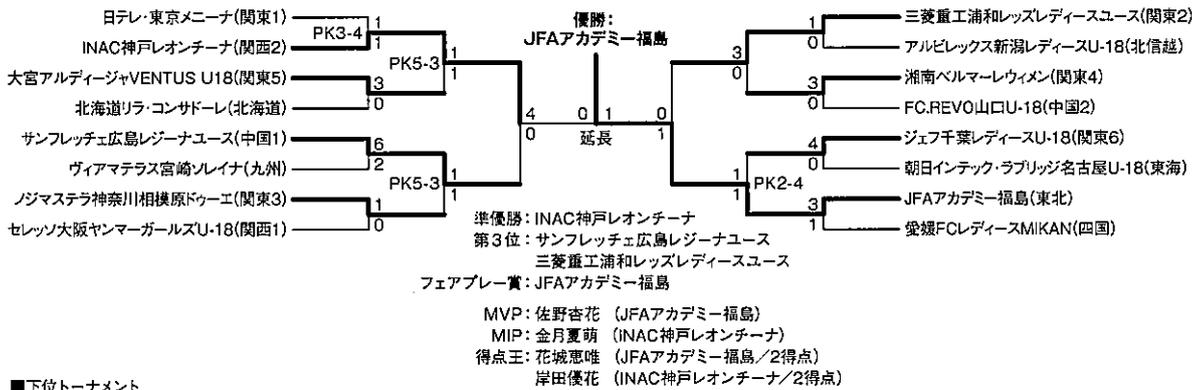
<東海大福岡高校> 監督:山本ひろな
弓立詩葉、伊藤蓮花、松井美空、須田弥美樹、重信捺、梶原愛梨、富沢侑和、神田心未、山部愛凜、山岡可歩、野田夏帆、内田衣怜、岡崎愛未、梶原莉乃、岐部桜、田中結菜、菅原菜楠、伊藤翼、三根亜澄、深町ひなの、宮口莉乃、福本来実花、嶋崎綾香、草原愛莉、藤本萌空、水室かな、井手穂花、柳空希

データボックス

第7回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)

JFAが主催する本大会は、JFAに女子登録した加盟チームおよび日本クラブユースサッカー連盟に2025年5月9日までに登録された2007(平成18)年4月2日から2013(平成24)年4月1日までに生まれた選手に出場資格が与えられた。今大会は7月28日～8月1日、群馬県で開催され、16チームが出場した。

※69ページに関連記事あり



■下位トーナメント

日テレ・東京メリーナ(関東1) 11-0 北海道リラ・コンサドーレ(北海道)
 ザリアマテラス宮崎ソレイナ(九州) 1-15 セレッソ大阪ヤマーガールズU-18(関西1)
 アルビレックス新潟レディースU-18(北信越) 2-0 FC.REVO山口U-18(中国2)
 朝日インテック・ラブリッジ名古屋U-18(東海) 0-1 愛媛FCレディースMIKAN(四国)

準決勝

INAC神戸レオンチーナ 4 (前半3-0 後半1-0) 0 **サンフレッチェ広島レジーナユース**

●2025年7月31日 18:00 ●パニース群馬宮城総合運動場 陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]田澤友梨奈 [副審]山内恵美/富士彩乃 [第4の審判員]西余美紀 ●観衆:20人

I神戸レ(監督:谷奥優作):[GK](37)宮地純花 [DF](2)森結愛<-67'(28)関根来結>(4)山脇菜花(5)金月夏萌(10)中平怜那<-67'(19)友永衣美>(14)岸田優花<-67'(7)三木杏莉>(53)北村礼 [MF](6)衣川杏樹(22)野村七虹<-59'(26)野村香帆>(27)大田ありす<-47'(24)森川美優> [FW](9)平七海

控え:(12)花村夕莉(38)岡本紗和(29)定兼愛莉

S広島R(監督:田邊友恵):[GK](1)内田萌々音 [DF](7)伊藤夏帆(8)尾上実那(10)中川奈南(14)長谷川芽衣<-59'(15)山本真凛>(17)近藤音々 [MF](3)塩井風羽<->HT(19)田中心結>(5)原田結衣<-21'(11)中島采音>(9)金子ここな(13)武島杏菜 [FW](16)中原千尋<-63'(18)小出彩乃>

控え:(21)山岡彩雪(2)金子なのは(4)那須あかり(6)石原沙来(24)西森咲華

得点: [I神戸レ]14'岸田優花(1-0), 33'北村礼(2-0), 35+1'山脇菜花(3-0), 65'中平怜那(4-0)

警告: [I神戸レ]56'森結愛

【参加選手】

<北海道リラ・コンサドーレ> 監督:佐々木滋

松原怜生、清水あいこ、竹原芽生、加藤紗穂、高橋凛、齊藤来々、近藤真由、澤野咲希子、藤野柚希、小池ひかり、田中ひなた、柴田沙耶、一ノ瀬菜月、千葉心、熊原椿乃、青木小羽、佐藤乃那、岸田人咲、窪田花乃、徳差幸来、渡部このか、松本明花里、山内菜里衣、安田歩夢、小林陽菜、松坂綾音、高橋彩羽、坂本芽依、白髭鈴衣、松原菜生

<JFAアカデミー福島> 監督:見汐翔太

福田真央、神田瑠伽、若月りる葉、立花美那、原ひばり、古川心尋、林椿、伊藤杏莉、西ひまり、小林羽留、高橋柚乃、渡邊優奈、石井音羽、佐野杏花、松本有波、橋愛花、高橋心花、松下遥南、北島景子、佐々木樹璃、山路真白、福田こまち、松井望花、福島望愛、鳥尾芽生、花城恵唯、野田美多葉、田中愛純香

<日テレ・東京メリーナ> 監督:坂口佳祐

永井愛理、加登臨心羽、小野崎真菜志、新山愛純、柏村美那、青木夕菜、松岡瑛菜、尾上颯向、朝生珠実、米倉和心、鈴木遙、嶋崎妃南、奥住心音、満屋桃杏、佐藤乃依、粟田七海、須長穂乃果、伊藤風葵、遠藤六花、伊藤葵海、安田ひらり、廣末結麻、金澤星、西尾咲希、式田和、小野菜月、諸田彩澄、西村祐蒼、友利愛紗

<三菱重工浦和レッズレディースユース> 監督:米田徹

熊澤歩、澤浦花穂、熊谷香季、加納由佳子、田中燈里、大坪美蘭、伊勢はな、小宮梢、青田望々、松家ゆり、平山優陽、高久ももか、真崎玲愛、熊田姫依、黒川青空、高橋佑奈、黒鳥レイラ、谷田柚、岩下佑愛、平川陽菜、片岡菜葉、増田彩衣里、中野杏奈、新田彩和、辻あみる、中原心愛

<ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ> 監督:坂元要介

地主実来、五十嵐香奈、池田桃花、久山紗季、中光優、中村光里、大長相花、比嘉マキ、表まつり、木村小春、清水和菜、平山樹歩、朝田夕葉、矢野朝和子、天野美海、田村菜優、市川未悠、原真琴、明詩音梨、中原愛麻、加藤紗奈、野口みどり、佐藤桜咲、児玉咲月、武内明香里、緒方咲季、青山千晴、石山愛唯、蘭平芽依、松川明愛

<湘南ベルマーレウイメン> 監督:清水郷介

金沢咲季、生越ゆら、金井碧苑、諫原莉桜、鍛持葵、中地雅妃、望月葵季、押田美海、小松友香、高橋莉子、森夏希、川手怜奈、松下芽生、平田愛華、森清夏、江黒南実、鳥根希実、安井桃、岩岸奏、河井美空、安井楓楓、滝本侑杏、渡邊愛大、原田美菜子、塚本清絵、中井柚、島村理愛、平野陽香、山田結菜、内田柑那

準決勝

三菱重工浦和レッズレディースユース 0 (前半0-1 後半0-0) 1 **JFAアカデミー福島**

●2025年7月31日 18:00 ●大野工業大胡総合運動公園 陸上競技場・サッカー場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]松尾久美子 [副審]草越和江/須永久美 [第4の審判員]村上優衣 ●観衆:50人

浦和LY(監督:米田徹):[GK](1)熊澤歩 [DF](3)小宮梢(4)青田望々(15)高久ももか(19)真崎玲愛 [MF](14)黒鳥レイラ<->HT(6)熊田姫依>(17)谷田柚<->HT(20)岩下佑愛>(44)片岡菜葉<-51'(7)黒川青空> [FW](8)中野杏奈<-59'(13)平山優陽>(9)新田彩和<-69'(16)中原心愛>(10)辻あみる

控え:(12)澤浦花穂(18)熊谷香季(5)松家ゆり(52)増田彩衣里

ac福島(監督:見汐翔太):[GK](1)福田真央 [DF](5)古川心尋(9)林椿(13)伊藤杏莉(15)西ひまり [MF](4)佐野杏花(20)北島景子(24)山路真白<-48'(19)松下遥南> [FW](8)福島望愛(14)花城恵唯<-68'(3)石井音羽>(17)野田美多葉<-61'(16)高橋心花>

控え:(12)神田瑠伽(18)若月りる葉(6)松本有波(22)佐々木樹璃(23)田中愛純香

得点: [ac福島]30'花城恵唯(0-1)

決勝

INAC神戸レオンチーナ 0 (前半0-0 後半0-0 延長0-1) 1 **JFAアカデミー福島**

●2025年8月1日 18:01 ●正田醤油スタジアム群馬 ●試合時間:70分、延長20分 ●審判員:[主審]草越和江 [副審]山内恵美/若佐莉奈 [第4の審判員]長谷川也須子 ●観衆:150人

I神戸レ(監督:谷奥優作):[GK](37)宮地純花 [DF](2)森結愛(4)山脇菜花(5)金月夏萌(10)中平怜那(14)岸田優花<-89'(7)三木杏莉>(53)北村礼 [MF](6)衣川杏樹(22)野村七虹<-85'(19)友永衣美>(27)大田ありす<-57'(24)森川美優> [FW](9)平七海

控え:(12)花村夕莉(38)岡本紗和(26)野村香帆(28)関根来結(29)定兼愛莉

ac福島(監督:見汐翔太):[GK](1)福田真央 [DF](5)古川心尋(9)林椿(13)伊藤杏莉(15)西ひまり [MF](4)佐野杏花(19)松下遥南<-83'(3)石井音羽>(20)北島景子(24)山路真白<-79'(23)田中愛純香> [FW](8)福島望愛(17)野田美多葉<-56'(7)松井望花>

控え:(12)神田瑠伽(18)若月りる葉(6)松本有波(14)花城恵唯(16)高橋心花(22)佐々木樹璃

得点: [ac福島]90+2'石井音羽(0-1)

<大宮アルディージャVENTUS U18> 監督:大石裕弘

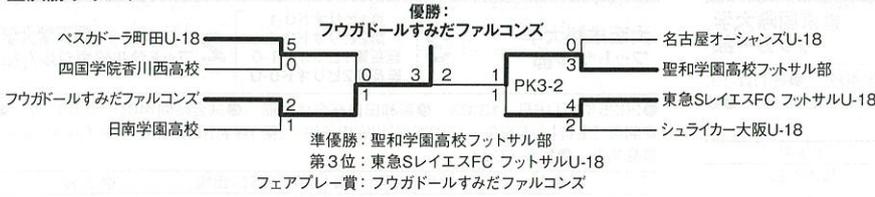
寺本唯香、國分こころ、奥山杏美、土肥歩未、加世田唯愛、金野有沙、長谷川和花、内山わか菜、大井みのり、佐藤百音、片桐潮音、茂木昂来、山田小桜、渡部夏菜、甲斐さくら、末岡美嘉、渡辺夕那、飯田かれん、岩田紗久良、鈴木凜和、諏訪穂香、中村優那、三浦葵、宮下詩、尾崎美有、茂木未宙、福島花菜、宮崎さやか

<ジェフ千葉レディースU-18> 監督:根本尚子

足立楓、瓜生芽、内村穂乃花、井上果鈴、足立梓、宮澤沙織那、辻野友里愛、須永さくら、曾根花杏、鈴木沙弥、深澤瑠那、大西真緒、久保田真帆、高橋楓、角谷瑠菜、根津里莉日、狩野智佳、永田真帆、小峯陽、久保陽矢、江藤はな、吉川葵、小峯紗、上見遥香、中川咲歩、吉川莉子、田尻美奈海、小久保まい、鈴木瑠菜、中村美優

データボックス

■決勝ラウンド



<3位決定戦> ヘスカドーラ町田U-18 1-2 東急SレイエスFC フットサルU-18

準決勝

ヘスカドーラ町田U-18 0 [第1ピリオド0-0 第2ピリオド0-1] 1 フウガドルすみだファルコンズ

●2025年8月2日 16:30 ●浜松アリーナ ピッチA ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]吉川竜平 [第2審判]松本和馬 [第3審判]柴田澤 [タイムキーパー]今優真 ●観衆:385人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
宮園大瑤	○	1	GK	GK	3	○	伊藤鳳起
小野晃平	○	4	FP	FP	4	△	西村秀太
高橋怜准	△	5	FP	FP	5	△	小山隼人
高野琥士郎	○	6	FP	FP	6	○	岩井琢真
福島和	△	7	FP	FP	7	○	行木詩心優
青島峻平	○	8	FP	FP	8	○	新電兵
小倉旬	△	9	FP	FP	11	△	間彦太陽
小師宗大	△	11	FP	GK	15		林朋垂
青砥圭汰	○	18	FP	FP	18		町田康樹
長谷部陽	△	22	FP	FP	21	○	早川士道
阿部悠也	△	23	FP	FP	23	△	望月蓮琉
高橋滯音	△	35	FP	FP	25		松久一弓
伊藤聖悟	△	46	GK	FP	52	△	市場新汰
鵜飼大晴	△	51	FP	FP	56	△	片岡幸村
北隅智宙			監督				小倉勇

得点 [フウガドル]23'片岡幸村(0-1)

警告 [ヘスカドーラ]13'小倉旬

○:先発 △:交代出場

3位決定戦

ヘスカドーラ町田U-18 1 [第1ピリオド0-1 第2ピリオド1-1] 2 東急SレイエスFCフットサルU-18

●2025年8月3日 10:00 ●浜松アリーナ ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]武田裕樹 [第2審判]島村一瑛 [第3審判]佐山志功 [タイムキーパー]金刺大 ●観衆:380人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
宮園大瑤	△	1	GK	GK	2	○	飯森温冬
小野晃平	○	4	FP	FP	4	○	植田来翔
高橋怜准	△	5	FP	FP	5	△	金子江星
高野琥士郎	○	6	FP	FP	6	△	大芝孝
福島和	△	7	FP	FP	7	△	小林蒼空
青島峻平	○	8	FP	FP	8	△	福岡絆聖
小倉旬	△	9	FP	FP	9	△	小泉慧弥
有馬優人	△	15	FP	FP	10	○	大西望
小野夕音	△	17	FP	FP	13	△	星京杜
青砥圭汰	○	18	FP	FP	14	○	難波皓也
長谷部陽	△	22	FP	FP	17	○	葛島歎咲
阿部悠也	△	23	FP	FP	18	○	小林碧
高橋滯音	△	35	FP	FP	19	△	波多野碧
伊藤聖悟	○	46	GK	GK	20	△	北村悠翔
北隅智宙			監督				荻窪孝

得点 [ヘスカドーラ町田]40'高橋滯音(1-2) [東急Sレイエス]18'小林碧(0-1)、25'葛島歎咲(0-2)

警告 [ヘスカドーラ町田]19'福島和

○:先発 △:交代出場

【参加選手】

<北星学園大学附属高校> 監督:下天摩達弥

穴戸一心、石川獅王、下倉悠聖、北間航翔、山本朋弥、児玉博音、岩間陽音、三澤快童、内山銀時、亀代世和、塚本純平、佐藤大志、高城陸飛、小西海翔、三瓶千尋、成田誉、高橋瑞空、阿部蓮也、尾形琉生、笹井蓮生

<北海道釧路北陽高校> 監督:伊藤修

高橋翼大、大和田康太郎、鈴木雄大、一條奨真、舟崎唯人、増川雄大、重巢琉偉、吉光寺快人、佐野佑真、千葉元太、中島瑛大、林陸斗、二色耶雲、吉田斗暁

<聖和学園高校フットサル部> 監督:菊池宏志

加藤星成、鈴木邦河、小堀央翔、酒井紫恩、宇那田悠太、千葉喜一、田中柊生、伊藤惟翔、田倉瑛太、伊藤永人、小野陽大、橋野一颯、阿部尚俊、岩井瑠哉、戸ヶ瀬藍斗、須貝康太、佐々木敦喜

準決勝

聖和学園高校フットサル部 1 [第1ピリオド1-1 第2ピリオド0-0] 1 東急SレイエスFCフットサルU-18

●2025年8月2日 16:30 ●浜松アリーナ ピッチB ●試合時間:40分、PK ●審判員:[主審]水谷宗太郎 [第2審判]姥名一樹 [第3審判]武田裕樹 [タイムキーパー]島村一瑛 ●観衆:385人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
加藤星成	○	1	GK	GK	2	○	飯森温冬
酒井紫恩	○	3	FP	FP	4	△	植田来翔
宇那田悠太	○	4	FP	FP	5	△	金子江星
千葉喜一	○	5	FP	FP	6	○	大芝孝
田中柊生	△	6	FP	FP	7	△	小林蒼空
伊藤惟翔	△	7	FP	FP	8	○	福岡絆聖
田倉瑛太	△	8	FP	FP	9	○	小泉慧弥
伊藤永人	△	9	FP	FP	10	△	大西望
小野陽大	○	10	FP	FP	13	△	星京杜
橋野一颯	○	11	FP	FP	14		難波皓也
小堀央翔	○	12	GK	FP	17	○	葛島歎咲
岩井瑠哉	○	14	FP	FP	18	△	小林碧
須貝康太	○	16	FP	FP	19		波多野碧
			GK		20		北村悠翔
菊池宏志			監督				荻窪孝

得点 [聖和学園]17'橋野一颯(1-1) [東急Sレイエス]12'福岡絆聖(0-1)

PK [聖和学園](11)○(14)×(16)○(8)○ [東急Sレイエス]先(19)○(18)×(10)○(17)×(8)×

○:先発 △:交代出場

決勝

フウガドルすみだファルコンズ 3 [第1ピリオド3-2 第2ピリオド0-0] 2 聖和学園高校フットサル部

●2025年8月3日 13:00 ●浜松アリーナ ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]柴田澤 [第2審判]伊藤聖那 [第3審判]北島和都 [タイムキーパー]小川智弘 ●観衆:423人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
伊藤鳳起	○	3	GK	GK	1	○	加藤星成
西村秀太	△	4	FP	FP	3		酒井紫恩
岩井琢真	○	6	FP	FP	4		宇那田悠太
行木詩心優	○	7	FP	FP	5		千葉喜一
新電兵	○	8	FP	FP	6	△	田中柊生
間彦太陽	○	11	FP	FP	7	△	伊藤惟翔
林朋垂	○	15	GK	FP	8	△	田倉瑛太
町田康樹	△	18	FP	FP	9	△	伊藤永人
早川士道	○	21	FP	FP	10	○	小野陽大
望月蓮琉	△	23	FP	FP	11	○	橋野一颯
松久一弓	△	25	FP	GK	12		小堀央翔
木戸維更	△	29	FP	FP	14	○	岩井瑠哉
市場新汰	△	52	FP	FP	16	○	須貝康太
片岡幸村	△	56	FP				
小倉勇			監督				菊池宏志

得点 [フウガドル]1'オウンゴール(1-0)、13'片岡幸村(2-0)、19'行木詩心優(3-2) [聖和学園]16'小野陽大(2-1)、16'岩井瑠哉(2-2)

○:先発 △:交代出場

<東急SレイエスFC フットサルU-18> 監督:荻窪孝

黒田陵斗、飯森温冬、宮川創、北村悠翔、植田来翔、金子江星、大芝孝、小林蒼空、福岡絆聖、小泉慧弥、大西望、星京杜、難波皓也、山根優南、葛島歎咲、小林碧、波多野碧

<フウガドルすみだファルコンズ> 監督:小倉勇

伊藤鳳起、林朋垂、松原汰汰、西村秀太、小山隼人、岩井琢真、行木詩心優、新電兵、間彦太陽、町田康樹、押江翼己、早川士道、望月蓮琉、荻原佑輔、松久一弓、木戸維更、岡田真馬、市場新汰、片岡幸村

<SBFCロンドリーナU18> 監督:刈込真人

中山光大、富川眺毅、仁藤幸也、加藤朝、鈴木千陽、平井瑠人、船田大希、佐藤海風、大久保樹羽、曾根結斗、齋藤遼真、小倉波琉、岩田涼央、鈴木通日、清水陽斗、佐藤楓人、長井隆真、神宮司凌輝、渡辺未来斗

<ベスカドーラ町田U-18> 監督:北隅智由
 宮園大瑛、伊藤聖悟、小野晃平、高橋怜准、高野琥士郎、福島和、青島峻平、小倉旬、小師宗大、三沢一颯、有馬優人、河内魁太、小野汐音、青砥圭汰、永田千紘、松本友貴、長谷部陽、阿部悠也、高橋澤音、舘岡大晴

<遊学館高校> 監督:岸玲衣
 山中万風、西本侃弘、向歩人、熊野瑠威、西村空翔、渡辺柊悟、保田蒼登、李孝樹、花岡佑星、本多岳人、石川有聖、佐土原輝明、堀川脩人、山下莉央、立松陸廣、永盛太己、横山颯、佐々木漢十郎、井上宗之介、澤館大翔

<名古屋オーシャンズU-18> 監督:仲井大貴
 伊藤連太郎、岡雅宗、山田航聖、手嶋悠登、竹本千朗、柘植結仁、松尾悠希、西ヶ谷賢次、増山響、高須暉翔、田邊隆之介、谷山蒼空、城殿飛鳥、儀賀然、藤田悠、柘植玲皇、細野光生、川瀬凱大、三宅ヤゴ、高橋リゲティ オタビオ

<シュライカー大阪U-18> 監督:林浩平
 上久保真真、耳野樹生、土師大誠、狩森圭吾、松井利憲、梅澤音和、高橋陽、榮永純心、西村永翔、村本大河、徳田結也、前田篤輝、古川碧樹、犬東玖隆、門田真翔

<作陽学園高校> 監督:西山暖人
 下窪零、稲田大聖、徳平琉良、福島希夢、松浦月輝、金村颯太、山下修吾、片山偉月、松本渉、林内瑞悟、二階堂優希、小平健心、桐畑空、新美太聡、磯部蒼

<四国学院香川西高校> 監督:大浦翔
 阿久津利真、石川真裕、菊池伶登、安里瑛太、安永一颯、大坪侑輝、岸上一吹、植田絆、桐ヶ谷颯、細川剛空、井上瑛大、平山鳳雅、鈴木颯太、瀬戸大陸、猪谷魁生、中村心優斗、小澤暁人、国見ユウキ、十河陽人、瀬尾遥希

<高松商業高校> 監督:川原寅之亮
 川西涼太、原田明日翔、迎健成、浜浦一平、黒川翔吾、金光大帆、門大和、松浦空斗、中島大晴、伊瀬海翔、森本健輝、小川隆希、柴村庵利、吉田健敏、熊野仁紅、十河奏空、泉一颯、植林天志郎、飯間一景、大久保成海

<バサジ大分U-18> 監督:瀧辰雄
 宮本侑旺、市原龍生、式村龍馬、藤原伊吹、山崎力仁、芦田孝太郎、安部凜音、戸高直斗、矢野田大夢、亀園凌岳、川野大志、吉武東里、田島李風、大室響、亀園斗慎、大戸朝陽

<日南学園高校> 監督:宮崎混大
 長江侶望利、並川龍真、小川哲平、須川泰幸、杉山盛、永井稔、永井星胆、海江元翔和、高岡雄大、永井績達、野辺旺芽、前河裕大、田中大哉、平野瑠空斗、徳村夢生

<東海大学付属静岡翔洋高校フットサル部> 監督:久保田勇輝
 野澤一太、望月維佐、栗田都亜、井出拳斗、高橋晶翔、渡邊祐陽、山脇和弥、向島蒼太、八木流星、竹中琢真、宇佐美陽向、中村海王、脇本和真、藤田暖、中島快星、望月琉生、望月優、望月蓮人

JFA バーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会

JFAが主催する本大会は、2025年度にJFAのフットサル個人登録およびフットサル大会登録を行った12歳未満(ただし、小学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない)の選手により構成されたチームで、当該チームに登録された選手に出場資格が与えられた。今大会は8月15日~17日に東京都の駒沢オリンピック公園総合運動場体育館・屋内球技場で開催され、48チームが出場した。

※74ページに関連記事あり

■1次ラウンド

順位	グループA	ともぞう	徳島	いわき	函館	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	ともぞうSC (栃木県)	6○1	8○2	5○1	9	3	0	0	19	4	15	
2	徳島ヴォルティスジュニア(徳島県)	1●6	6○3	3○2	6	2	0	1	10	11	-1	
3	いわきアビエーションジュニア(福島県)	2●8	3●6	6○2	3	1	0	2	11	16	-5	
4	プレイフル函館ジュニア(北海道2)	1●5	2●3	2●6	0	0	0	3	5	14	-9	

順位	グループB	プリンカール	武生	浜山	アスラン	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	プリンカールFC (愛知県)	5○3	8○4	4○3	9	3	0	0	17	10	7	
2	武生FCブルーキッズ(福井県)	3●5	3○0	6○3	6	2	0	1	12	8	4	
3	浜山FC (島根県)	4●8	0●3	5○3	3	1	0	2	9	14	-5	
4	アスランFC (宮城県)	3●4	3●6	3●5	0	0	0	3	9	15	-6	

順位	グループC	篠ノ井	DCMセントラル	折尾	アルコイリス	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	篠ノ井ジュニアSC (長野県)	3○2	2△2	1○0	7	2	1	0	6	4	2	
2	DCMセントラルシガ(滋賀県)	2●3	3○0	5○3	6	2	0	1	10	6	4	
3	折尾FC (福岡県)	2△2	0●3	2△2	2	0	2	1	4	7	-3	
4	FCアルコイリス(埼玉県)	0●1	3●5	2△2	1	0	1	2	5	8	-3	

順位	グループD	グランディール	琉球	長岡	鹿島つくば	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	グランディールFC (和歌山県)	5○4	3△3	6○3	7	2	1	0	14	10	4	
2	FC琉球U-12 (沖縄県)	4●5	3○2	4△4	4	1	1	1	11	11	0	
3	長岡JYFC U-12 (新潟県)	3△3	2●3	5○1	4	1	1	1	10	7	3	
4	鹿島アントラーズつくばジュニア(茨城県)	3●6	4△4	1●5	1	0	1	2	8	15	-7	

順位	グループE	神戸	長崎	パレイストラ	徳引	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	ヴィッセル神戸U-12 (兵庫県)	2○0	15○0	6○1	9	3	0	0	23	1	22	
2	長崎ドリームFCジュニア(長崎県)	0●2	7○2	6○1	6	2	0	1	13	5	8	
3	パレイストラU-12 (群馬県)	0●15	2●7	3○2	3	1	0	2	5	24	-19	
4	サルバトーレ徳引SCジュニア(山形県)	1●6	1●6	2●3	0	0	0	3	4	15	-11	

順位	グループF	マルバ千葉	TSA	大西	カンピオーネ	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	マルバ千葉fc (千葉県)	8○2	7○1	11○1	9	3	0	0	26	4	22	
2	TSAフットサルスクール(大阪府)	2●8	10○3	9○1	6	2	0	1	21	12	9	
3	大西キッカーズ(愛媛県)	1●7	3●10	5○4	3	1	0	2	9	21	-12	
4	FC.カンピオーネ福岡(富山県)	1●11	1●9	4●5	0	0	0	3	6	25	-19	

順位	グループG	リオン	リバイバル	フェンブ	フェリアズーロ	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	リオンジュニア (静岡県)	7○1	3△3	8○1	7	2	1	0	18	5	13	
2	リバイバル佐賀(佐賀県)	1●7	2○1	4○0	6	2	0	1	7	8	-1	
3	フェンブFS (山梨県)	3△3	1●2	2○1	4	1	1	1	6	6	0	
4	フェリアズーロFC (岡山県)	1●8	0●4	1●2	0	0	0	3	2	14	-12	

順位	グループH	町田	宮城	郡山	カベッサ	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	FCトリアネーロ町田(東京都)	7○1	6○2	12○2	9	3	0	0	25	5	20	
2	ファンティコス宮城(宮城県)	1●7	3○2	6○4	6	2	0	1	10	13	-3	
3	郡山FC (奈良県)	2●6	2●3	9○6	3	1	0	2	13	15	-2	
4	カベッサ熊本(熊本県)	2●12	4●6	6●9	0	0	0	3	12	27	-15	

順位	グループI	デサフィオ	スリーエス	アンフィニ	山口	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	デサフィオC.F (香川県)	6○1	4○2	1●4	6	2	0	1	11	7	4	
2	スリーエス札幌サッカースクール(北海道1)	1●6	5○2	5○2	6	2	0	1	11	10	1	
3	FCアンフィニ(岐阜県)	2●4	2●5	4○3	3	1	0	2	8	12	-4	
4	レノファ山口FC U12(山口県)	4○1	2●5	3●4	3	1	0	2	9	10	-1	

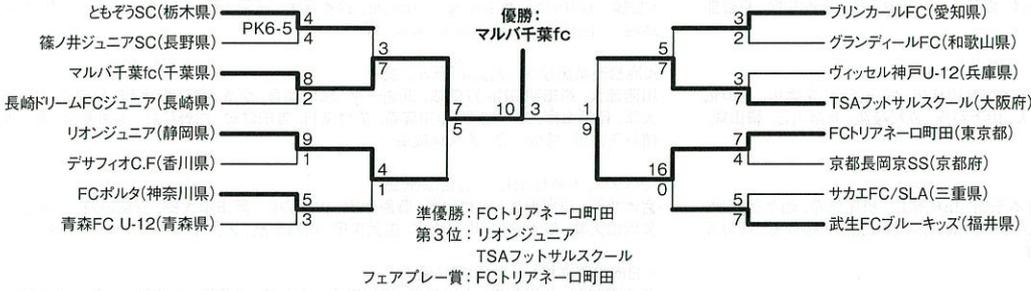
順位	グループJ	長岡京	青森	カティオーラ	ソルティエーロ	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	京都長岡京SS (京都府)	7○4	6○4	5○3	9	3	0	0	18	11	7	
2	青森FC U-12 (青森県)	4●7	6○2	16○1	6	2	0	1	26	10	16	
3	カティオーラFC U-12(大分県)	4●6	2●6	3○1	3	1	0	2	9	13	-4	
4	ソルティエーロセイリョウFC(石川県)	3●5	1●16	1●3	0	0	0	3	5	24	-19	

順位	グループK	サカエ	鹿取	仁井田	ゴッツ	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	サカエFC/SLA (三重県)	6○2	10○1	7○1	9	3	0	0	23	4	19	
2	鹿取KFC U-12 (鳥取県)	2●6	1○0	6○1	6	2	0	1	9	7	2	
3	仁井田レッドスター(徳島県)	1●10	0●1	4○2	3	1	0	2	5	13	-8	
4	ゴッツFC (高知県)	1●7	1●6	2●4	0	0	0	3	4	17	-13	

順位	グループL	ポルタ	盛岡太田東	福山	川上	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	FCポルタ (神奈川県)	2○0	10○2	4○0	9	3	0	0	16	2	14	
2	盛岡太田東サッカー少年団(岩手県)	0●2	2△2	3○0	4	1	1	1	5	4	1	
3	福山ローズ・セレソ(広島県)	2●10	2△2	4△4	2	0	2	1	8	16	-8	
4	川上FC (鹿児島県)	0●4	0●3	4△4	1	0	1	2	4	11	-7	

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■決勝ラウンド



準決勝

マルバ千葉fc 7 [第1ヒリオド1-1 第2ヒリオド6-4] 5 リオンジュニア

●2025年8月17日 12:00 ●駒沢オリンピック公園総合運動場体育館 ピッチ1 ●試合時間:20分 ●審判員:[主審]菅原悠平 [第2審判]袴田健太郎 [第3審判]小林裕之 [タイムキーパー]山崎聖也 ●観衆:902人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
太田泰誠	○	1	GK	GK	1	○	西山隼瑠
平山モイズ	△	3	FP	FP	3	○	松島光希
園田丈琉	△	5	FP	FP	5		中村麟太郎
高橋聡介	△	6	FP	FP	6		柴田来輝
佐藤篤志	○	7	FP	FP	10	○	犬飼蔵之祐
飯田徹	○	8	FP	FP	18	○	鷹森大和
大内波論	○	9	FP	FP	21		ホリウチ ルッカハルキ
高越啓資	○	10	FP	FP	22		齊藤寛弥
村岡武龍	△	11	FP	FP	88	○	中居翔己
関斗希	△	15	FP				
浅野智久			監督				犬飼大地

得点 [マルバ千葉]9'、12'、14'、15'、20' 高越啓資(1-1)(2-2)(4-3)(5-3)(7-5)、13' 大内波論(3-2)、19' 関斗希(6-3)
[リオンジュニア]1' 中居翔己(0-1)、11'、19' 犬飼 蔵之祐(1-2)(6-4)、14'、20' 松島光希(3-3)(6-5)

警告 [マルバ千葉]14' 園田丈琉、20' 浅野智久

○:先発、△:交代出場

準決勝

TSAフットサルスクール 1 [第1ヒリオド1-7 第2ヒリオド0-2] 9 FCトリアネーロ町田

●2025年8月17日 12:00 ●駒沢オリンピック公園総合運動場体育館 ピッチ2 ●試合時間:20分 ●審判員:[主審]石田悦志 [第2審判]葛西翔 [第3審判]川村勝治 [タイムキーパー]板橋海 ●観衆:902人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
池上輝	○	1	GK	GK	1	△	西村俊亮
田中翼	△	3	FP	FP	3	△	田村洋空
田中優翔	△	6	FP	FP	4	○	平尾快斗
岡田樹	○	7	FP	FP	5	△	福地瑠斗
三輪枝園	○	8	FP	FP	7	○	篠塚大耀
村井智哉	○	9	FP	FP	8	△	永瀬快斗
三木淳翔	○	10	FP	FP	10	○	東海林貴大
速水十	△	11	FP	FP	11	○	森岡潤陽
今井謙	△	14	FP	FP	16	△	阿部綺翔
中嶋俊介	△	15	FP	GK	21	○	浜崎琉
矢野健介			監督				若山聖祐

得点 [TSA]8' 村井智哉(1-6)
[トリアネーロ町田]1'、4'、6' 東海林 貴大(0-1)(0-2)(0-5)、4' 森岡潤陽(0-3)、5' 平尾快斗(0-4)、8'、9' 篠塚大耀(0-6)(1-7)、14'、15' 永瀬快斗(1-8)(1-9)

グリーン [TSA]試合後チーム
カード [トリアネーロ町田]試合後チーム

○:先発、△:交代出場

【参加選手】

<スリーエス札幌サッカースクール> 監督:山瀬幸宏
熊谷剛成、吉田侑生、佐藤亘、大前龍聖、葛西陽向、山田樹、中村吏登、秋場啓史郎、佐藤叶真、白木亮輔、野原隼汰、中山空徠、木村海、齊藤雅

<プレイフル函館ジュニア> 監督:宮川文仁
武藤陽翔、古里龍空、田中朝陽、民谷叶空、佐々木空、平澤希空、坂田光柳、清江惺仁、木村薫虹、小川楓真、荒木冬愛、荒木結愛

<青森FC U-12> 監督:伊藤豪
種山晃祐、山田一心、田中瑛大、蒔苗桔平、種中空太郎、佐々木康成、須藤晴功、石山華義、我満崇介、山本大輝、五十洲倫之助、三上礼央、坂本悠真、川村咲久哉

<盛岡太田東サッカー少年団> 監督:岩泉慎之介
大澤陽輝、芳賀翼、佐々木啓太、藤原純、立山未空、遠藤優心、日山耕之介、小野寺陽翔、山谷飛一、高橋壮汰、石角悠、外館悠

<ファンテコス宮城> 監督:中里真志
椎谷煌平、赤間陸斗、谷津愛奈、本多一翔、下山颯太、餅田敬太、村山朝陽、藤田渚輝

<仁井田レッドスターズ> 監督:井上祥房
五十嵐大翔、保坂優心、船木海晴、末岡拓真、山上澄空、阿部隼太、鈴木来輝、井上耀太、藤井燈、伊藤虹空、豊澤直央、鈴木唯色、佐々木優輔、赤川功樹、関谷澤王、岩谷旦陽、境屋琉輝斗、野極大夢、佐藤柊

<サルバトーレ楡引SCジュニア> 監督:中里征晴
澁谷羽亜人、井上睦稀、佐藤蓮集、上野彩集、佐藤玲玖人、菊池琉心、難波文翔、上野利彦、薄衣奏、齋藤富士丸、姉崎瑠輝愛、佐藤京汰、鋸持希愛

<いわきアビレーションジュニア> 監督:池田光忠
秋山寧輝、石綿斗理、下遠野佑、坂本誠馬、辻内孝旺、岡崎英、大山将虎、石田来志、川口敬叶、山本陽基、藤田大翔、板垣颯、緑川颯楓、桑島万哩、松永健吾

<鹿島アントラーズつくばジュニア> 監督:那須川将大
萩原牙月、永瀬陽谷、谷口絢、阿部樹、阿部隼士、藤井士道、菊地晃生、新井祐真、新國耀士、加藤諒太、栗林輝、由見新、茨城真太郎、奥山柊弥、小野翼、小室瑠生、菅沼壮介、永田龍樹、小暮和馬、保坂太陽

決勝

マルバ千葉fc 10 [第1ヒリオド6-1 第2ヒリオド4-2] 3 FCトリアネーロ町田

●2025年8月17日 15:02 ●駒沢オリンピック公園総合運動場体育館 ●試合時間:20分 ●審判員:[主審]金指友翔 [第2審判]宮崎碧 [第3審判]板橋海 [タイムキーパー]川村勝治 ●観衆:1,009人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
太田泰誠	○	1	GK	GK	1		西村俊亮
平山モイズ	△	3	FP	FP	3		田村洋空
園田丈琉	△	5	FP	FP	4	○	平尾快斗
高橋聡介	△	6	FP	FP	5		福地瑠斗
佐藤篤志	○	7	FP	FP	7	○	篠塚大耀
飯田徹	○	8	FP	FP	8	△	永瀬快斗
大内波論	○	9	FP	FP	10	○	東海林貴大
高越啓資	○	10	FP	FP	11	○	森岡潤陽
村岡武龍	△	11	FP	FP	16		阿部綺翔
関斗希	△	15	FP	GK	21	○	浜崎琉
浅野智久			監督				若山聖祐

得点 [マルバ千葉]1'、2'、6'、7' 高越啓資(1-0)(2-0)(5-0)(6-0)、3'、19' 大内波論(3-0)(9-3)、5' 飯田徹(4-0)、16' 関斗希(7-2)、17' 園田丈琉(8-3)、20' 平山モイズ(10-3)
[トリアネーロ町田]9'、11' 平尾快斗(6-1)(6-2)、16' 東海林貴大(7-3)

グリーン [マルバ千葉]試合後チーム
カード [トリアネーロ町田]試合後チーム

○:先発、△:交代出場

<ともぞうSC> 監督:長谷川具三
山本廉人、田中悠介、五十嵐新太、福田理人、一色快、福田凌央、湯之上創、黒崎侑斗、大野陽南太、國井康佑

<バレイストラU-12> 監督:土田健太
荻原祐祐、鈴木陽、泉悠都、設楽慶多、藤田晴、入山市之介、山川喜誉、桐生司、熱田環人、坂井柚月、奥村惟央、原口幸大、三浦翔太、佐々木晴風、小島颯馬、桑子琉輝人、小林蓮風、平井海都、岡野成史郎、長沼頼依

<FCアルコイリス> 監督:山野井善直
長谷川翔太、川又慎太郎、川口悠仁、酒井琉希、菊地敏人、河上晃輔、迫畑蒼良、高嶋輝、宮本迅、渡辺大輝、笠井朝斗、大野崇、山田耕平、齋藤暖斗、石原海翔、落合晴、磯部夏空、濱野耀志、沼口智希、田中瑞季

<マルバ千葉fc> 監督:浅野智久

太田泰誠、浅井拓海、中山旺咲、平山モイズ、園田丈瑠、高橋聡介、佐藤篤志、飯田徹、大内波論、高越啓賢、村岡武龍、関斗希、岡田悠成、蓮澤佑斗、植竹桜蒼、加藤雄太、佐藤泰志、平内大聖

<FCトリアネーロ町田> 監督:若山聖祐

西村俊亮、浜崎琉、田村洋空、平尾快斗、福地瑠斗、若井郁人、篠塚大輝、永瀬快斗、東海林貴大、森岡潤陽、田島伊織、田中颯太、阿部翔輝、栗川竜次、醍醐新、中島旺太郎、菅野真之介、川井駿

<FCポルタ> 監督:山形直人

リ・シュンセキ、宮内誠仁、和田陽希、隈笠人、石田渚々、前平大翔、土田泰良、稻見創太、田上結翔、唐川結愛、久保田源、上田遥琉

<フュンフFS> 監督:板山尚史

和泉川翼、飯塚颯、江口瑛、堀口莉奈、遠藤央基、新井颯真、滝沢奏人、野沢光希、秋山空翔、風間斗歩、安航平、浦山教貴

<篠ノ井ジュニアSC> 監督:石井良

風間叶流、村原杜和、久保田空知、清水心平、中山大地、原巧真、藤田将澄、室賀匠哉、矢島和、宮澤和樹、今井成優、野口陽翔

<長岡JYFC U-12> 監督:本田光

米山蒼矢、那須航、荒木優空、遠田莉人、五十嵐晴、皆川花弦、沼田悠貴、高山楓、金子一翔、西脇玲馬、小杉篤永、大崎羽流、内藤維月、星野崇太、関誠之介、大塚悠真、吉原れな、堀井文乃、小玉遥仁、菊入溪心

<FC.カンピオーネ福岡> 監督:山元信一

小野賢人、角口凜、浅田智也、平野剛、中谷律太、加藤智貴、平野駿、中山陽翔、増田浩平、石倉輝弥、吉田孝誠、北川凌太郎、有澤優芽

<ソルティエロセリョウFC> 監督:佐藤悠

柳田直哉、杉本悠都、小泉宗介、松林翼、越能海桜、松川大智、高野隼星、山田陽太、山田泰雅、水谷生瑠、亀井正樹、土田航瑠、林虹空、荒井大晴、杉浦春翔、細山海翔

<武生FCブルーキッズ> 監督:田辺守

紵谷彬、中村飛遊我、山岸蒼生、森陽生、山内葵、姉崎空悟、清水岳、小辻奏太、中山蒼士、細川大智、笹岡竜輝、西村諒城、大橋渚、山田凜太郎、藤井琉、植村俊太、細川航平、佐藤生歩己

<リオンジュニア> 監督:犬飼大地

西山隼輝、相島光希、中村麟太郎、柴田来輝、犬飼蔵之祐、廣森大和、ホリウチ ルッカハルキ、斎藤寛弥、中居翔己

<プリンカールFC> 監督:古居俊平

杉浦碧斗、森永琉生、西河篤杜、小林慶大、稻垣遥斗、小黒俐旺斗、山根デリキ、岩木呂大和、水澤玲央、平野朔久、浅井虎生、幅大和

<サカエFC/SLA> 監督:山中雄介

澤澤星晴、磯部翔輝、宮村悠佑、界外佑吾、赤間彪我、新井貴太、石田駿介、前田直太郎、三村京士、荒木寛也、國井皇佑、岡部拓哉

<FCアンフィニ> 監督:志津健一

佐合希一、大東周平、竜橋凜、森一翔、伊藤慧真、遠山煌大、遠山稀大、岩崎大空、高田日々人、日浅偉力、福井琉聖

<DCMセントラルシガ> 監督:中野裕介

星侑斗、林悠馬、庵前秀虎、南碧峰、松田愛平、井上凌羽、澤田拓実、門川昊次良、辻琉来、野田健介、吉川斗純、坂口潤

<京都長岡京SS> 監督:小嶋重毅

森田黎、大津喜一郎、井上晴琉、中島理々斗、沖元凌空、末永龍心、植野剛、佐藤廉誠、中川昇輝、近原俊葵、小林寛一郎

<TSAフットサルスクール> 監督:矢野健介

池上輝、植田和弦、田中翼、村西翔伍、中原麟、田中優翔、岡田樹、三輪枝園、村井智哉、三木淳翔、速水十、今上博斗、佐友奏太、今井謙、中嶋俊介、江口琉偉、川崎信太郎

<ヴィッセル神戸U-12> 監督:坪内秀介

小松太陽、山下アリスター賢悟、宮本裕理、谷山奏琉、亀村統吾、和田大知、八十原圭偉、根津圭一郎、楠田司沙、米田柊那、正面時季、デーキン龍武、福澤文太、吉元玖杜、三木蓮太郎、北川夕輝、山口凜雄翔

<郡山FC> 監督:植田健太

金光樹生、上田海瑠、山元愛蘭、池田諒、並河晴基、石丸蓮、三木廉輝、東慶汰、越前清哉、奥朝也、平川凌成、堀内瑠音

<グランディールFC> 監督:羽畑公貴

杉若柚斗、和田蒼羽、安久舞大、中村颯、藪下愛斗、芝崎颯央、大林優斗、山本海祐、戸川蓮、見島俊、井戸崎の香

<鳥取KFC U-12> 監督:山本祐次

出澤拓武、金丸旺生、田中絆翔、鈴木莉生、谷本兵都、高木陽路、前田隼良、田中瑛心、中村航希、薫快飛、吉中めぐる、房安楓真

<浜山FC> 監督:板垣雄二

藤林拓海、田口煌馬、石原悠真、別所庸成、大野颯馬、天野結登、石橋海音、布野大翔、川野晃暉、成相大洋、狩野日向、大野結雅、大野結生

<フェリアーズFC> 監督:松本充

和田晴斗、平井達己、末時大貴、森本耀太、岡本悠月、今川航我、根本朝太、池本仁、松沢光基、橋本凌太、大森颯汰、吉村豪洋、南海志、大島みな実、河村優生、守谷遥翔

<福山ローザス・セレソン> 監督:二井岡秀敏

高橋昇馬、広畑瑛翔、岩田十希、占部一沙、若井美菜子、吉田心都、佐藤謙希、井上快斗、高山琉雅、村上正真、宮後蒼介、三島慶吾

<レノファ山口FC U12> 監督:佐藤翔

山近春稀、帆足銀仁郎、小田村瑠人、宮原六寛、安清蒼斗、田坂篤弥、尾中理人、宮川徠翔、井上怜音、三原一護、竹垣圭、浪松幸佑

<デサフィオC.F.> 監督:村松圭吾

齋藤和、笹尾謙志、石垣斗羅、福井統馬、藤本來斗、中塚真冬、三好央流、永安海翔、堀川諒多、鎌田正宗、田代丈太郎、南谷翔皇、酒井光伸、岡崎煌河、川田壮一朗

<徳島ヴォルティスジュニア> 監督:行友亮二

阿部碧斗、藤崎翼、大久保漢翔、岡谷真翔、大久保漢翔、古賀太陽、八十嶋佑飛、谷池悠星、藤田尊己、森脇葵、宇濱川幹汰、濱田竜之介、須恵登恒、安崎晴賀、松浦拓登、塩田翼、齋藤航希、齋幸之介、中佐古晃希

<大西キッカーズ> 監督:塚田伸

宮田唯斗、溝口幸、山崎太朗、越智琉羽玖、村上輝琉、小巻照斗、田口青、大出一、築澤空斗、大木啓佑、越智心太郎、越智崇太

<ゴッツFC> 監督:犬塚友輔

曾根伯斗、太田大翔、荻須聖、中田綴、竹中凌、田淵有真、森川晴生、西井倫太郎、荻須祥

<折尾FC> 監督:杉山晃司

有川結輝、元永毅慎、泉瑠輝、前崎透和、宮田梓、齋藤慶太、神品賢志、小川理一、山内樹、櫻本知英、甲斐新之介、深見哉翔

<リバイバル佐賀> 監督:岩淵雅行

内村拓海、中尾清人、鶴丸凌真、藤井奏、梅木優大、堤隆斗、三浦駿馬、竹内蒼佑、橋渡桔平、大鍋奏斗、黒葛原源二、松永愛翔

<長崎ドリームFCジュニア> 監督:川瀬亮

竹田愷、北村正陽、井上恵、平井登理、藤崎叶夢、高比良悠希、阿部弘幸、西岡雅惟、西岡丈太郎、一瀬直人、福島伊吹、菅原奏太、江頭彩人、河野卓人、北尾勇人

<カベッサ熊本> 監督:末吉達也

大塚蒼太、石崎凌斗、内田晃、中野英伸、吉永憲次朗、赤星遼太、岡田侍、石橋凜大、福島櫻士郎、松尾翔太郎、山崎多聞

<カティオーラFC U-12> 監督:佐藤考範

後藤悠真、松尾一輝、黒木仁輔、齊藤蓮太郎、山本葵、木元星杏、松岡陽泰、末永葵空、山崎勇人、高橋英斗

<アスランFC> 監督:今村曉馬

有留大愷、福田波音、山口拓馬、田中大斗、緒方叶和、谷口碧音、若松拓音、濱砂颯志、黒木蓮穂、山元サスケ、吉田葵、兒玉淳平

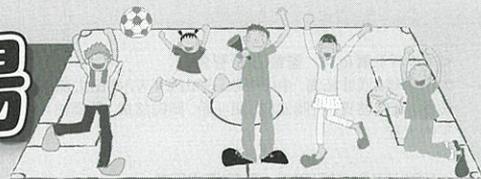
<川上FC> 監督:外園翼

新盛輝、小正力雄規、内園京士郎、山中陸翔、齋永陽向、西原蒼空、武樹樹、高多佑誠、日下大輝、宮本太陽、吉満辰仁

<FC琉球U-12> 監督:山城安幸

浦添旭飛、新城光太郎、新井恋海、又吉佑真、宮城太一、新川諒人、久場兼斗、渡慶次快、神村翼早、儀間宝、宮里泉利、間間宏、吳仁仁太、石川元博、仲村一飛、長濱葵

サッカーファミリー広場



JFAこころのプロジェクト、 フリースクールで初の「夢の教室」を開催

夢先生

日本サッカー協会（JFA）は8月29日、フリースクールで初の「夢の教室」を開催しました。今回は飛鳥未来中部部・初等部 立川教室の協力の下、トライアル授業として実施。ゲームの時間は小・中学生の合同授業として行われ、緊張をほぐしながらみんなで楽しく汗を流しました。トークの時間は、初等部の児童を対象に元Jリーガーの川邊隆弥先生が夢先生を務め、中等部の生徒に対しては、元タカラジェンヌで、現在はメンタルトレーナーとして活躍する酒向杏奈さんが夢先生を務めました。それぞれ異色の経歴を持つ夢先生の話に子どもたちも心を動かされた様子。今まで多くの子どもたちと接してきた川邊先生も「全員の目線や姿勢、発言がとても印象的でした」と語り、フリースクールの先生にとっても子どもたちの新しい一面を知る機会となったようです。

子どものいじめやそれを苦にした自殺が社会問題になっていた2000年代初頭、いじめや自殺をしない強い心を持った子どもたちを育てたいと、2007年、JFAこころのプロジェクトはスタートしました。



夢先生を務めた酒向杏奈さん（左）と川邊隆弥さん

さまざまな事情を抱え、在籍校に通うことが困難な児童・生徒を対象にした夢の教室は、プロジェクトの立ち上げ以来、初めてとなります。JFAは、今回のトライアル授業を機にフリースクールでの開催も広げたいとしており、子どもたちが安心して授業を受けられ、夢や勇気、希望を得られるきっかけになるよう準備を進めていく考えです。

■JFAこころのプロジェクト
https://www.jfa.jp/social_action_programme/yumesen/



小林信也著・川淵三郎監修の書籍 『スポーツの約束』が発刊

※同書を5名様にプレゼント！ 詳細は80ページ参照

スポーツの究極の目的は何か。スポーツマンシップとは何か。スポーツの魅力とは何か。

『スポーツの約束』に書かれているのは、スポーツを楽しむ為に必要な約束事。スポーツをする人も教える人も応援する人も、皆が大事にすること。

今、スポーツが抱えている問題を本質的な解決へ導くヒントがギッシリ詰まった一冊となっています。



スポーツの約束
 —スポーツをするすべての人が結ぶ約束—
 著者：小林信也
 監修：川淵三郎
 絵：黒井健
 発行日：2025年6月30日
 発行所：ミラクル書房株式会社
 定価：本体価格900円+税
 ミラクル書房オンラインショップで販売予定！

『ツネログ』 vol.12発行



宮本恒靖会長のコラムや主な活動を伝える『ツネログ』。2025年8月発行のvol.12では、小西鉄平JFAフットサルテクニカルダイレクターとの対談を実施。

https://www.jfa.jp/about_jfa/president/tsunelog/news/00035433/



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005） 渋谷支店（135）
 普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会
 サッカーファミリー復興支援金口座
 ※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

【フォーム】 https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=jpDYk_b8f0-O_dkmS71Jh3cFKGINHkNBpVZIXnRIR4VUNidQNFJDMFRORDU2NihFU0M2TkplUjFPUS4u

利用方法の詳細は、JFA公式ウェブサイトをご確認ください。
https://www.jfa.jp/violence_eradication/



スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

毎日の体づくりの基本に

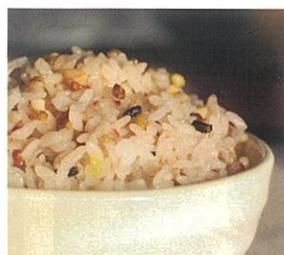
1小袋につき
アミノ酸
4,284
mg



穀物の力 スポーツ雑穀米



16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜 鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂 質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖 質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく構成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

食品から得られる運動前のエネルギー補給・ 運動後のリカバリーに

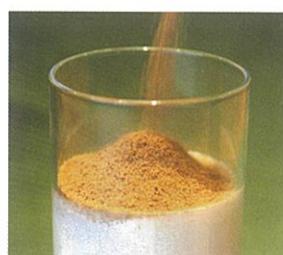
1小袋につき
アミノ酸
3,788
mg



穀物の力パウダー



16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)			
エネルギー	384kcal	亜 鉛	2.1mg
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg
脂 質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg
糖 質	57.2g	ナイアシン	1.7mg
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg
カリウム	1,600mg	たんぱく構成アミノ酸	18,940mg
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg
マグネシウム	190mg		
鉄	4.9mg		

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。



令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会（男子）

【大会概要】

7月26日から8月2日、福島県で開催。各都道府県から1チーム（東京、神奈川、大阪、開催県の福島はそれぞれ2チーム）が出場し、ノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は70分（35分ハーフ）、勝敗が決しない場合はPK戦によって勝者を定める。決勝のみ、20分（10分ハーフ）の延長戦を行い、勝敗が決しない場合はPK戦で勝者を決定する。



神村学園が大会初制覇！

令和7年度全国高校総合体育大会「開け未来への扉 中国総体 2025」のサッカー競技大会（男子）は、昨年に引き続き、暑熱対策のために福島県のJヴィレッジを中心に開催された。

帝京長岡（新潟）や神村学園（鹿児島）など、昨年4強に入ったシード校が勝ち上がる中、前回の第103回全国高校サッカー選手権大会を制した前橋育英（群馬）が高知中央（高知）に逆転負けを喫し、2回戦で敗退。前回大会の覇者、昌平（埼玉）も準々決勝で姿を消した。

準々決勝は、7月30日に気象庁から全国各地に津波警報（※）が発表されたため、第1試合の前半を終えた時点で延期となり、第2試合いずれも、休養日として設けられていた翌31日に行われた。

準決勝に名乗りを上げたのは大津（熊本）、流通経済大柏（千葉）、尚志（福島1）、神村学園の4チーム。初戦から大勝を続けてきた大津は流通経済大柏の守備に苦しんだが、PK戦の末に勝利した。尚志と神村学園による第2試合は、カウンターから根本翔大がゴールネットを揺らして尚志が先制したが、後半に佐々木悠太が2ゴールをたたき込み、神村学園が2-1で逆転勝利。2年連続での決勝進出を決めた。

大津と神村学園による決勝は共に初優勝を目指す、激しい攻防となった。前半は両校が隙を見せず、スコアレスのまま試合

が進む。先に試合を動かしたのは大津だった。49分、左サイドを攻め上がった村上慶がゴール前にクロスを送ると、こぼれ球を山本翼が押し

込んで先制。追い掛ける展開となった神村学園も70+6分に竹野楓太のパスから日高元が同点弾を決める。延長戦に入った80分には、途中出場の細山田怜真がゴールネットを揺らし、試合をひっくり返す。しかし、熱戦はこのままでは終わらない。「最後までやり続ければチャンスはくると思っていた」という山城朋大監督の期待に応え、大津は82分に岩崎天利が技ありシュートを決めて試合を振り出しに戻した。

迎えたPK戦はGK寺田健太郎の活躍もあって、神村学園が7-6で勝利した。試合後、選手たちに胴上げをされた有村圭一郎監督は、「互いの魂がぶつかり合う好ゲームだった。素晴らしい選手たちに出会えてよかった」とチームの奮闘を称えた。

※7月30日にカムチャッカ半島付近で発生した巨大地震による津波警報



決勝は大津の神村学園による九州勢対決に。最後まで試合の行方が分からない好ゲームとなった



大津はキャプテンを務める福島京次（写真中央）が試合をつくったが、悲願の優勝はならなかった



GKとの1対1を制し、試合終了間際に起死回生の同点ゴールを挙げた神村学園の日高元（写真左）



大津の攻撃を防ぐ寺田健太郎（黄色いユニホーム）。PK戦では相手のキックを止めるなど存在感発揮

令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会（女子）

【大会概要】

7月28日から8月2日、北海道室蘭市を中心に開催。各地域の予選を勝ち抜いた16チームが出場し、ノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は70分(35分ハーフ)、勝敗が決しない場合はPK戦によって勝者を決める。決勝のみ、20分(10分ハーフ)の延長戦を行い、勝敗が決しない場合はPK戦で勝者を決定する。



大商学園が2度目の日本一に

令和7年度全国高等学校総合体育大会（通称インターハイ）のサッカー競技大会女子は16チームが北海道に集い、高校チーム夏の女王を目指して熱戦を繰り広げた。2連覇中だった藤枝順心は静岡県大会の決勝で常葉橘に敗北。強豪・藤枝順心を破った常葉橘は東海大会を制し、開催地枠で出場した平成30年度大会以来7年ぶりの出場を果たした。関東大会で3位に入った宇都宮文星（栃木／関東3）は初出場、過去5回の優勝を誇る日ノ本（兵庫／近畿2）は2大会ぶり12回目（きょうごう）の出場となった。

1回戦は8試合のうち3試合がPK戦での決着となり、拮抗した試合が続いた。日ノ本は日本航空（山梨／関東2）にPK戦で敗れ、聖和学園（宮城／東北1）と大商学園（大阪／近畿1）の一戦はPK戦の末、大商学園が競り勝った。2回戦は7月30日に行われる予定だったが、カムチャツカ半島付近で発生した巨大地震に伴う津波警報の影響により、全試合が翌31日に順延された。

不測の事態を乗り越えて決勝に駒を進めたのは、常葉橘と大商学園だった。常葉橘は初戦で宇都宮文星を3-0で下すと、聖カピタニオ（愛知／東海2）との2回戦と神村学園（鹿児島／九州1）との準決勝いずれも先制されながら追いつき、PK戦を制して勝ち上がった。一方、初戦で聖和学園を下した大商学園は、2回戦で鹿島学園（茨城／関東1）に3-2、準決勝では作陽学園（岡山／中国）に2-0で勝利し、2大会連続で決勝の舞台に

立った。

常葉橘が勝てば初優勝、大商学園が勝てば令和4年度大会以来2度目の優勝となる決勝戦は、序盤から主導権を握った大商

学園が12分、佐藤ももサロワノウエキのダイビングヘッドで先制する。常葉橘は劣勢に立たされながらも粘りを見せ、27分に小島あんのミドルシュートで追いつくと、後半開始早々の39分には竹川花音が逆転ゴールを奪う。常葉橘が逃げ切るかと思われた69分、大商学園は佐藤が起死回生のヘディング弾を決めて追いつくと、延長戦に突入した86分には1年生の花田ここなが頭で押し込み、これが決勝点となった。

優勝した大商学園は、JFA U-18女子サッカーファイナルズ2025にインターハイ女王として出場し、第7回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）を制したJFAアカデミー福島と女子U-18年代の日本一を懸けて対戦する。



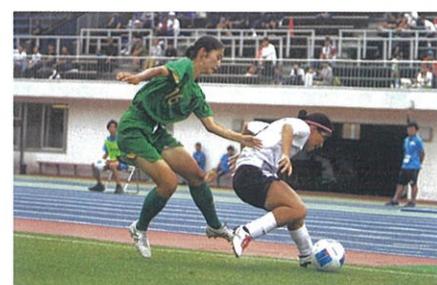
決勝では延長戦の末、3-2で常葉橘を振り切った大商学園。2度目の日本一に輝いた



常葉橘は竹川花音（写真右）のゴールで一時は大商学園からリードを奪うも一歩及ばず



決勝戦で2得点を挙げた佐藤ももサロワノウエキ。年別別日本女子代表の片りんを見せた



大会中、レギュラーな対応を求められた両者だが、決勝でハイパフォーマンスを披露

第49回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会

【大会概要】

7月22日～31日、グループステージから準々決勝を群馬県、大阪府、兵庫県、山口県、広島県、宮崎県、準決勝と決勝は神奈川県各会場で開催。全国9地域の代表32チームが4チームずつに分かれてグループステージ(試合時間70分)を戦い、各グループ上位1チームがノックアウトステージ(試合時間80分)に進出し、優勝を決定する。



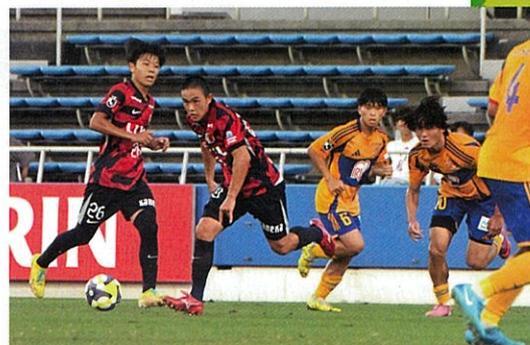
鹿島アントラーズユースが初の栄冠に輝く！

第49回を迎えた日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会は32チームが参加し、8グループに分かれてグループステージを戦った。ノックアウトステージに進出できるのは各グループ1位チームのみ。大会3連覇を目指すガンバ大阪ユース(関西4)がグループステージで敗退するなど厳しい首位争いが繰り広げられる中、鮮やかな勝ち上がりを見せたのがベガルタ仙台ユース(東北1)だった。川崎フロンターレU-18(関東3)、ファジアーノ岡山U-18(中国2)と同居したグループステージを2勝1分けで勝ち上がると、準々決勝では京都サンガF.C. U-18(関西2)にPK戦で勝利。準決勝では名古屋グランパスU-18(東海1)に2-0で快勝を収め、クラブ史上初となる決勝に進出した。

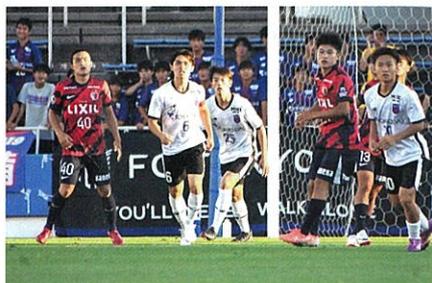
その仙台の前に立ちはだかったのが、今季の高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグEASTで首位(11節終了時点)に立つ鹿島アントラーズユース(関東4)だった。グループステージを3連勝すると、準々決勝ではプレミアリーグWEST首位ヴィッセル神戸U-18(関西1)に5-3で勝利。準決勝では、FC東京U-18(関東5)をPK戦の末に退け、1997年度(第21回)大会以来、28年ぶりの決勝進出を果たした。

仙台と鹿島の決勝戦、立ち上がりこそ慎重な入り方だったが、鹿島は18分に福岡勇和がミドルシュートを突き刺して先制点を決めると、37分には平島大悟の左クロスを高木瑛人がヘディングで合わせてリードを2点に広げる。後半に入っても勢いを落とさない鹿島は53分にまたも平島の左クロスから、今度は中川天蒼がダイビングヘッドで飛び込み3点目。守っても主将の大川佑梧、U-17日本代表の元砂晏翔仁ウデンバを中心に仙台のシュートを2本に封じる鉄壁な守備を發揮し、3-0と快勝した。

これまで高円宮杯プレミアリーグEASTは2度、Jユースカップで3度優勝している鹿島だが、日本クラブユース選手権(U-18)は初制覇。準々決勝、準決勝と連続ゴールを決め、決勝では2アシストを記録して大会MVPに輝いた平島は「しっかりと結果につながれたのは良かった」と笑みをこぼした。



6得点を挙げた鹿島アントラーズユースの吉田湊海(写真左から2人目)が大会得点王に輝いた



鹿島アントラーズユースとFC東京U-18の準決勝は1-1のまま互いに譲らずPK戦へ



名古屋グランパスU-18は準決勝でベガルタ仙台ユースに敗れ、昨年と同じベスト4という結果に。今年もフェアプレー賞を獲得した



ベガルタ仙台ユースはグループステージ無敗の勢いそのまま勝ち進み、クラブ史上初の決勝進出を果たした

第7回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)

【大会概要】

7月28日から8月1日、群馬県前橋市を中心に開催。全国9地域の代表16チームがノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は70分(35分ハーフ)、勝敗が決しない場合はPK戦によって勝者を定める。決勝のみ、20分(10分ハーフ)の延長戦を行い、勝敗が決しない場合はPK戦で勝者を決定する。



JFAアカデミー福島が4年ぶり3度目の王座に就く

7回目を数える日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)では多くのトピックが生まれた。まず、INAC神戸レオンチーナ(関西2)が前大会の覇者、日テレ・東京メニーナ(関東1)を1回戦でPKの末に破り、決勝進出を果たした。また、ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ(関東3)は、22年の第4回大会を制したセレッソ大阪ヤンマーガールズU-18(関西1)を初戦で破った。サンフレッチェ広島レジーナユース(中国1)は、準々決勝でそのノジマを退け、クラブ史上初のベスト4に進出。決勝では、大会初制覇を狙うINACと、前大会で準優勝のJFAアカデミー福島(東北)が相まみえた。

決勝で終始ペースをつかんだのはINAC。「(大会の全)4試合の中でも主導権を握ってボールを回すことができた」とキャプテンの金月夏萌が語るように、最終ラインから長短のパスを織り交せて攻撃を組み立てる。一方のac福島も、焦ることなく堅守を軸に対応。中盤の底に入る佐野杏花が「相手にパスを回させているという意識でプレーしていた」と振り返った通り、自陣に守備ブロックを敷いてINACの攻撃を阻止し、奪ったボールを着実にカウンターアタックにつなげた。

拮抗した展開が続く一戦は70分では動かず、20分の延長戦

へ。ここでも互いに集中力を切らすことなく進む。そのままPK戦に突入するかと思われたが、ラストプレーで

試合が動く。延長後半10分を回ったところでac福島がCKを獲得する。福島望愛のボールに反応した西ひまりのシュートは、INACのGK宮地絢花のセーブに阻まれたが、2回目のCKで再び福島が質の高いボールを送ると、佐野が折り返し、ファーサイドで待ち受ける石井音羽がゴールネットを揺らした。試合は、この1点の直後に試合終了のホイッスルが鳴り響く劇的な幕切れに。ac福島は4年ぶり3度目の王座に輝き、延長戦の末、日テレに敗れた前大会決勝の借りを返した。



堂々たる戦いぶりで決勝進出を果たしたINAC神戸レオンチーナ。決勝ではJFAアカデミー福島と熱戦を繰り広げた



クラブ初の準決勝進出を決めたサンフレッチェ広島レジーナユースが試合後、観客と歓喜のラインダンス



INAC神戸レオンチーナの攻撃を阻むJFAアカデミー福島。ac福島は全4試合で2失点と堅守が光った



JFAアカデミー福島の石井音羽(背番号3)は決勝戦の延長後半アディショナルタイムに決勝点を記録

第40回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

【大会概要】

8月15日から25日、北海道

札幌市、小樽市、夕張市、夕張郡栗山町で開催。全国9地域の代表48チームを12グループに分けてグループステージを行い、各グループの上位2チームと各グループ3位の中から成績上位8チームの計32チームがノックアウトステージに進出する。3位決定戦は行わない。



ヴィッセル神戸U-15が 15大会ぶり2度目の日本一に！

U-15年代のクラブチーム日本一を決する第40回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会が8月15日から25日まで、北海道札幌市を中心に行われた。

ベスト4にはガンバ大阪ジュニアユース(関西1)、FCラヴィータ(関東1)、ヴィッセル神戸U-15(関西5)、浦和レッズジュニアユース(関東7)が勝ち上がった。

準決勝の1試合目、ラヴィータがG大阪を3-2で下して東西第1代表対決を制した。1点ビハインドで試合を折り返したラヴィータは、藤松碧士と中山織汰のゴールで逆転。再び同点とされて迎えた試合終了間際にオツコロ海桜が劇的弾を突き刺して、初の決勝に駒を進めた。

第2試合では神戸が浦和に4-0で快勝した。神戸は49分に中村孝太郎が先制すると、53分に村吉正宗が加点する。75分に浦和に退場者が出たこともあってさらに神戸ペースが加速。79分と80+1分に山下真翔が連続ゴールを決めて駄目を押しした。

ラヴィータと神戸による決勝戦は、初優勝を目指すラヴィータが開始4分、臼井幹太のスルーパスに反応した藤松碧士がトラップから右足で流し込んで先制する。対する神戸も落ち着いて試合を立て直す。すると28分、岡部遥希からリターンパスを受けた

村吉が左足で蹴り込む。39分にはゴール前のこぼれ球を岡部が蹴り込んで一気に試合をひっくり返した。この後、後半も1点のリードを守り抜いた神戸が2009年度以来2度目の日本一をつかんだ。

神戸はグループステージを3連勝で飾り、大会を通して20得点2失点と、攻守のバランスが際立っていた。準決勝以降は、キャプテンの花元誉絆をU-15日本代表の活動で欠くことになったが、その不在を感じさせない戦いをみせた。山道高平監督も「このチームは誰が出場しても質が落ちない。今回の優勝で満足している選手はいないと思う。関西のリーグ戦や冬の高円宮杯(JFA全日本U-15サッカー選手権大会)も控えているので、士気を高めていきたい」と意欲的に話していた。

なお、大会MVPは神戸の浅田連、MIPはラヴィータの藤松碧士が受賞。大会得点王は9得点を決めたG大阪の坂井雄真、フェアプレー賞はラヴィータが獲得した。



決勝で先制点を挙げた藤松碧士(写真左)。幸先良いスタートを切ったラヴィータだったが、その後は主導権を握れず



G大阪とラヴィータによる準決勝第1試合は打ち合いの末、ラヴィータが3-2で勝利した



準決勝第2試合では神戸が浦和に4-0で勝利。攻守がかみ合い、決勝に勝ち上がった



決勝では先制を許した神戸だが、岡部(28番)の得点などで前半のうちに逆転に成功する

令和7年度全国中学校体育大会 第56回全国中学校サッカー大会

【大会概要】

8月17日から22日、宮崎県内9つの試合会場で開催。全国から選出された32チームがノックアウト方式で優勝チームを決する。3位決定戦は行わない。



静岡学園中学校が 15大会ぶり2度目の載冠

令和7年度全国中学校体育大会は九州での開催となり、56回目を迎えた全国中学校サッカー大会は宮崎県で実施された。近年、猛暑の影響が大きく、同大会ではこれまでも熱中症対策として前半と後半に最多4回のクーリングブ레이크が設けられている。今年度からは、クーリングブ레이크に加え、一度交代した選手を再出場させることができる「再交代制度」を導入した。

今大会では私立校と公立校の差が如実に表れた。全32チームのうち、公立校の5チームはいずれも1回戦で敗れた。また、部活動の地域展開が進む中、吉野川SC Jrユース（四国／徳島）が初めてクラブチームとして全国中学校サッカー大会に出場した。

準決勝には3連覇を狙う神村学園中等部（九州／鹿児島）、地元での優勝を目指す日章学園中学校（九州／宮崎）、強力な攻撃陣を擁する静岡学園中学校（東海／静岡）といった常連校に加え、駒場東邦中学校（関東／東京）が進出。駒場東邦は中高一貫校で、都内屈指の受験難関校として知られている。準決勝では日章学園に1-4で敗れたが、選手たちの快進撃は大会を大いに盛り上げた。準決勝のもう一試合は、静岡学園が神村学園の3連覇を阻む勝利を挙げる。白熱した一戦で、52分に北村

岬輝のゴールで均衡を破った静岡学園が決勝に勝ち上がった。

決勝が行われる8月22日は台風12

号が上陸した影響で試合開催の可否が検討された。中止となった場合は大会規定によって両校優勝となるところだったが、幸い無事に試合が開催された。

決勝は、いちご新富サッカー場に集った約1000人の応援団の後押しを受け、日章学園が粘り強い戦いを見せる。しかし、後半は静岡学園が攻勢を強めていく。34分に西谷朱雀が先制点を挙げると、53分には三保琥太郎が追加点をマーク。直後には西谷がこの日2点目となるゴールを突き刺すと、60+6分には途中出場の山田優志が4点目を挙げて快勝劇を締めくくった。

静岡学園の優勝は2009年度以来で、15大会ぶり2度目。全5試合のうち4試合で地元・九州勢を退けた。岡島弘高監督は「相手チームへの声援が大きく、難しい部分もあったけれど、最後まで自分たちのサッカーを見せられた」と誇らしげに話した。



地元開催とあって、決勝はサッカー部員だけでなく大勢の観客が日章学園に声援を送った



前半、日章学園（赤と黒のユニフォーム）は粘り強い守備で静岡学園を無失点に抑えた



後半にシュート10本を放った静岡学園。山田優志（写真中央）は4点目をマークした



日章学園も反撃に出たが、シュート3本に終わり、得点を挙げることはできなかった

第21回全日本大学フットサル大会



【大会概要】

8月14日から16日、大阪府で開催。全国から選出された12チームがノックアウト方式で順位を決する。1回戦、準々決勝の敗者同士による順位決定戦、準決勝の敗者同士による3位決定戦を行う。

大阪成蹊大学フットサル部、大会史上初の4連覇を達成!

日本一の大学フットサルチームを決する第21回全日本大学フットサル大会が8月14日から16日にかけて大阪府の岸和田市総合体育館で開催された。

各チームが序盤から熱戦を繰り広げる中、大阪成蹊大学フットサル部(開催地/大阪)、東北大学フットサル部ディーグッチ(東北/宮城)、東京国際大学サッカー部(関東2/埼玉)、順天堂大学フットサル部ガシル/jfc(関東1/千葉)が準決勝に勝ち進んだ。

大阪成蹊大と東北大による準決勝第1試合は、第1ピリオドに5得点を挙げるなど大阪成蹊大が攻撃力を発揮。大野頼基と鈴木大輝がそれぞれ2ゴールを奪い、東北大を8-2で退けた。準決勝第2試合は東京国際大と順天堂大が対戦し、第1試合とは対照的に0-0のまま時間が進む。32分、順天堂大は佐藤光輝が貴重な先制点を記録。その後、東京国際大の猛反撃にあったが、守備陣がこれをしのいで1-0で決勝行きを決めた。

迎えた決勝では、大会4連覇を目指す大阪成蹊大と、過去5回の優勝経験を誇る順天堂大が対戦した。先手を取ったのは順天堂大。19分、三浦歩漣がカウンターでピッチ中央を突破し、先制点を挙げる。対する大阪成蹊大は今大会初めてのピハ

インドを背負ったが、選手たちは冷静だった。「前回大会の決勝でも先制された後、逆転したから大丈夫」と

ハーフタイムに声を掛け合い、第2ピリオド開始とともに攻撃を仕掛けた。大阪成蹊大は30分に相手のオウンゴールで追いつくと、その直後には廣崎寧央が逆転ゴールを決めて試合をひっくり返す。一方の順天堂大も三浦がパワープレーからこの試合2点目を決め、同点とする。互いの意地がぶつかる一戦は、2-2のまま延長戦に突入した。迎えた44分(延長4分)、大阪成蹊大はCKから河野啓人が勝ち越しゴールを挙げると、延長第2ピリオドは順天堂大の攻撃をシュート0本に抑えて3-2で勝利。佐藤亮前監督(現、フットサル日本代表コーチ兼フィジカルコーチ)からバトンを託され、大阪成蹊大を4連覇に導いた磯村直樹監督は、「選手たちのポテンシャルのおかげ」とチームを称えた。



試合終了の瞬間、喜びを爆発させる大阪成蹊大の選手たち(青いユニフォーム)



東京国際大は準決勝で順天堂大に0-1で惜敗したが、強豪相手に堂々たる戦いを披露



3位決定戦で東京国際大を下した東北大。チームワークの良さが際立っていた



大阪成蹊大に及ばなかったが、決勝で2得点を挙げた順天堂大の三浦(写真中央)

JFA 第12回全日本U-18フットサル選手権大会



【大会概要】

7月31日から8月3日まで静岡県浜松市で開催。全国から選出された16チームが4チームずつ4グループに分かれてリーグ戦を行い、各グループ上位2チームの8チームが決勝ラウンドに進出する。決勝ラウンドは8チームによるノックアウト方式で行う。準決勝の敗者同士による3位決定戦を行う。

フウガドルすみだファルコンズが大会3連覇を達成！

U-18年代のフットサル日本一を決めるJFA第12回全日本U-18フットサル選手権大会が7月31日から8月3日まで静岡県浜松市で行われた。今回もフットサルを専門とするチームと高校のサッカー部として活動するチームが出場した。

全16チームが頂点を目指す中、ペスカドーラ町田U-18（関東4/東京）、フウガドルすみだファルコンズ（関東2/東京）、聖和学園高校フットサル部（東北/宮城）、東急SレイエスFCフットサルU-18（関東1/神奈川）が準決勝に勝ち進んだ。

これら4チームの中で、大会3連覇を狙うすみだが1次ラウンドから安定した戦いぶりを見せる。第1戦、シュライカー大阪U-18（関西/大阪）を6-0で下すと、第2戦では大会初出場のバサジィ大分U-18（九州1/大分）に8-0と無失点勝利。第3戦こそ遊学館高校（北信越/石川）に失点を喫したが、最終的には7-1と快勝し、決勝ラウンド進出を決める。すみだは、準々決勝で日南学園高校（九州2/宮崎）を2-1で退けた後、準決勝で町田と対戦。片岡幸村がセットプレーから決勝点を挙げ、3大会連続の決勝進出を決めた。

すみだとの決勝に名乗りを上げたのは聖和学園だった。聖和学園は1次ラウンドを2勝1敗の2位で通過すると、準々決勝

は名古屋オーシャーズU-18（東海/愛知）に3-0で完封勝利。準決勝ではPK戦の末、東急Sレイエスに競り勝った。聖和学園は第1回大会で同校サッカー部が初代王者に輝いており、今大会はフットサル部として初の決勝行きを果たした。

すみだと聖和学園による決勝は、ここまでわずか2失点のすみだが相手のオウンゴールと片岡の得点で2点をリードする。対する聖和学園も16分に小野陽大と岩井瑠哉が立て続けに得点を挙げ、試合を振り出しに戻す。しかし、すみだが19分、既にトップチームの主力としてフリーグでプレーする行木詩心優の得点で、再びリードを奪った。拮抗した展開になった第2ピリオドを無失点で切り抜けたすみだが3-2で勝利し、大会3連覇を達成。決勝点を挙げた行木は、「やるべきことに集中し、連覇を続けてほしい」と、後輩たちに思いを託した。



決勝ではすみだと聖和学園がし烈な攻防を繰り広げた末、3-2ですみだ勝利を挙げた



町田（黄色いユニフォーム）は1次ラウンドで聖和学園に競り勝ったが、準決勝で敗退した



町田との3位決定戦を制した東急Sレイエス。決勝行きはならなかったが、意地を見せた



決勝で殊勲の決勝点を挙げた行木（写真中央の7番）。大一番での勝負強さが光った

JFA バーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会



【大会概要】

8月15日から17日まで東京都で開催。都道府県予選を勝ち抜いた47チーム、前回大会予選の参加チーム数が最も多い都道府県（前回は北海道）から1チーム、計48チームが出場する。48チームを12グループに分けて1次ラウンドを行い、1次ラウンドを突破した16チームでジャックアウト方式の決勝ラウンドを実施し、優勝を争う。



マルバ千葉fcが大会初制覇！

U-12年代のフットサル日本一を決めるJFAバーモントカップ全日本U-12フットサル選手権大会は、のちに日本代表で活躍する選手を数多く生み出してきた。35回目を迎えた今大会でも各試合でハイレベルなパフォーマンスや全カプレーが繰り広げられた。

初出場ながら健闘を見せるチームや評判通りの強さを発揮するチームなどがある中で決勝に勝ち進んだのは、ともに攻撃力に定評があるマルバ千葉fc(千葉)とFCトリアネーロ町田(東京)だった。準優勝の経験がある千葉は、試合開始早々に得点を奪って主導権を握るスタイルが持ち味。1次ラウンドで26得点4失点と圧巻の強さを見せると、ラウンド16では長崎ドリームFCジュニア(長崎)に8-2、準々決勝ではともぞうSC(栃木)に7-3と順調に勝ち上がる。リオンジュニア(静岡)と激突した準決勝では開始1分に失点し、その後も常にリードを許す苦しい展開となったが、5ゴールを挙げる高越啓資の活躍もあって逆転に成功し、7-5で決勝に駒を進めた。

町田は、ボールを保持しながら緩急をつけたプレーで攻め込むスタイルが特徴。前回大会で8強入りの強豪は、1次ラウンドで25得点5失点と他を寄せつけない強さを見せると、ラウンド

16では京都長岡京SS(京都)に7-4で競り勝つ。準々決勝では武生FCブルーキッズ(福井)に16-0、準決勝ではTSAフットサルスクール(大阪)に9-1と、ともにワイルドカードで勝ち上がったチームを退けた。

激戦が予想された決勝は、開始早々に高越が個人技を發揮して千葉に先制点をもたらすと、ここから千葉がペースを握り、7分までに6点のリードを奪う展開に。町田も第1ピリオド終了間際と第2ピリオド開始早々に平尾快斗が反撃のゴールを奪ったが、千葉が主導権を握る展開は変わらない。試合は、序盤のリードを生かした千葉が10-3で勝利。「準決勝までの疲労で足が止まり気味だと思っていたが、それを感じさせないほどの戦いぶりを見せてくれた」と、浅野智久監督が驚くほどの奮闘で初優勝を達成した。



惜しくも優勝には届かなかったが、FCトリアネーロは攻撃的なスタイルを貫いて準優勝



リオンジュニア(黄色とオレンジ)は1ラウンドで18得点を挙げるなど攻撃力を示した



TSAフットサルスクール(赤)は、プリンカールFC(愛知)など強豪を下してベスト4進出



千葉の攻撃を牽引した高越啓資(右の10番)。決勝戦では4得点を挙げ、優勝に大きく貢献



©2025 adidas Japan K.K. adidas, the 3-Bar logo, the 3-Stripes mark, Predator, F50, Y-3 and Climacool are trademarks of adidas, used with permission.

2025 FIFA主要大会 公式試合球

CONEXT 25

コネクト 25

クオフカンファレンス

2025/26 SOMPO WEリーグの開幕に先立ち、8月4日に東京都内のホテルで2025/26 WEリーグキックオフカンファレンスが開催され、12クラブの代表選手が今シーズンへの意気込みを語った。

自身の推しポイント それぞれアピール

5年目を迎える2025/26 WEリーグは、昨シーズンと同様12クラブが参加し、8月9日に開幕する。

開幕を5日後に控えた同4日、都内のホテルでキックオフカンファレンスが行われ、12クラブを代表する選手たちが今シーズンのユニフォームを身にまとい、集結。WEリーグ中継で実況を務めたことのある元日本代表の田中隼磨さんと軽快なトークを繰り広げた。



普段は仲が良いという東京NBの菅野(前列右)と神戸の成宮(前列左)は、背番号10を背負う者同士。チーム対決はもちろん、「10番対決でも負けない」とライバル心を燃やす

「今シーズンの推しポイント」をテーマとしたトークセッションでは、選手それぞれが自身の見てもらいたいポイントをフ

リップに書いてアピールした。

昨シーズン、チームをWEリーグ初優勝に導き、ベストイレブンにも選ばれた日テレ・東京ヴェルディレザの菅野奏音は「10番」と書いたフリップを挙げた。昨シーズンの8番から10番に変わった背番号、名門クラブの10番の重みを受け止める菅野は、「東京NBの10番として、チームを四冠に導けるように頑張りたい。(10番を背負ってきた)先輩たちは偉大な選手ばかりだが、自分らしさを忘れないようにプレーしたい」と宣言した。

昨シーズン準優勝したINAC神戸レオネッサの成宮唯は「ロングシュート」を推しポイントに選んだ。昨シーズンはクロスバーに当てるが多かったロングシュートを枠内に入れること、また自身の目標として10得点、チームとしては三冠を目指すという意気込みも語った。昨シーズンはゴール前のこぼれ球から得点することが多かったというアルビレックス新潟レディースの滝川結女は、「ゴールへの嗅覚」と挙げ、今シーズンも相手ゴール前で自身の持ち味を発揮すること、そのプレーに注目してほしいと話した。

憧れの選手たちに 小学生がインタビュー

夏休み特別企画として招待された小学生が、憧れのWEリーグ選手にインタビューする時間も設けられた。子どもた

ちは緊張した様子ながらも、それぞれ用意した質問を選手たちに投げかけた。

「子どもの頃、将来は何になりたいと思っていましたか？」という質問に、AC長野パルセイロ・レディースの三谷沙也加は「(質問者と同じ)小学5年生の頃にはサッカーをしていたので、プロサッカー選手を目指していた」と回答。セレッソ大阪ヤンマーレディースの田子夏海も「小学1年生でサッカーを始めてからはずっとプロサッカー選手になりたいと思っていました」と、幼少期から目指していた夢をかなえたことを明かした。また、三菱重工浦和レッズレディースの高橋はなは「私は幼稚園のときはプリキュアになりたいと思っていました」と笑顔で話し、会場を和やかな雰囲気包んだ。



小学生からの質問に丁寧に応えた選手たち。ピッチ外での素顔も見られる時間となった

各クラブの登壇選手と「今シーズンの推しポイント」



左からノジマステラ神奈川相模原：笹井一愛、AC長野パルセイロ・レディース：三谷沙也加、ジェフ千葉レディース：林香奈絵、アルビレックス新潟レディース：滝川結女、INAC神戸レオネッサ：成宮唯、セレッソ大阪ヤンマーレディース：田子夏海、日テレ・東京ヴェルディレザ：菅野奏音、マイナビ仙台：矢形海優、RB大宮アルディージャ WOMEN：仲田歩夢、三菱重工浦和レッズレディース：高橋はな、ちふれASエルフェン埼玉：浅野菜摘、サンフレッチェ広島レジーナ：早間美空

8.9 (SAT) 10 (SUN) 開幕



2025/26 SOMPO WEリーグ
8.9 (SAT) 10 (SUN) 開幕



娘さんもサッカーをしているという田中隼彦さんは、女子サッカーについて「タフでクリーン、フェアでひたむきなプレーが魅力。昨シーズンのWEリーグはレッドカードがゼロ、累積での退場もなかった」と印象を語った

だ。
次のインタビューからは「プロになるために大切なことはどんなこと?」という質問が飛んだ。ジェフ千葉レディースの林香奈絵は「いろいろな人にアドバイスをもらうけども、最後は『自分はこうしたい、こうなりたい』と思って自分で決めて、それを頑張ること」と答え、RB大宮アルディージャWOMENの仲田歩夢は「小学生の頃からいろいろな習い事をしてきたが、一番楽しくてワクワクして自分らしくいられるのがサッカーだった。だから、楽しいと思ったことを続けることが一番の近道だ」と回答。菅野は「誰よりも多くボールに触ることと、未来のプロサッカー選手候補にアドバイスをした。『子どもの頃、はやっていた遊びは?』という質問に対して、成宮は「ドッジボール

をよくしていて、逃げ足はめちゃくちゃ速かった」と振り返った。ノジマステラ神奈川相模原の笹井一愛と、ちふれASエルフェン埼玉の浅野菜摘はそろって「ドロケイ」と回答。GKの浅野は「ドロケイで遊んでいるときも自陣を守る方が好きだった」と話し、当時から守護神の片鱗があったことをうかがわせた。「サッカー以外にはまっていることは?」という問いに対しては、マイナビ仙台の矢形海優は「温泉やサウナでゆっくりすること」を挙げ、サンフレッチェ広島レジーナの早間美空は「小学生のときからやっているピアノを弾くこと。小学生のときには全国大会にも出ていた」と明かし、ピッチでは見られないWEリーグの素顔に会場からは驚きの声も上がっていた。

開幕戦に向け 早くも火花を散らす

開幕節では、昨シーズン、悲願のWEリーグ初優勝を飾った東京NBと、準優勝したI神戸が早くも対戦する。昨シーズンは得失点差5で優勝に手が届かなかったI神戸。その借りを返したいという成宮は「優勝のためには東京NBに2勝することは必須」と話し、対する東京NBの菅野も「WEリーグが始まってからI神戸には勝っていない。連覇を考える前にまずはI神戸に勝つことを考えたい」と勝利への執念をのぞかせた。



開幕戦で対戦する浦和とS広島R。浦和の高橋が「昨シーズンは難しい戦いが続いた。開幕戦からエンジン全開でぶっ倒しに行く」と言えば、S広島Rの早間も「チーム全体で勢いに負けないように、こちらもぶっ倒しに行く」と笑顔で応戦

今シーズン、大宮アルディージャVENTUSからチーム名を変更したRB大宮は、EL埼玉との埼玉ダービーが初陣となる。「チーム名も変わり、よりアグレッシブなサッカーを目指して開幕まで準備してきた」とRB大宮の仲田。東京NBを優勝に導いた松田岳夫監督を招聘したC大阪は「これまで以上に考えてプレーする練習が増え、感覚に頼らないサッカーになった」と田子がチームの変革を伝えた。

年々、クラブの特色が鮮明になってきたWEリーグ。選手それぞれの個性も垣間見え、5シーズン目への期待が高まるキックオフカンファレンスとなった。

2025/26 SOMPO WEリーグ開幕

2025/26 SOMPO WEリーグの第1節が8月9日と10日に開催された。WEリーグは今シーズンも12チームが参加し、2026年5月まで全22節を戦う。5シーズン目の栄冠を手にするのはどのチームか――。

■WEリーグ公式ウェブサイト：<https://weleague.jp/>



2025/26 SOMPO WEリーグ 参加チーム (12チーム)

マイナビ仙台	ノジマステラ神奈川相模原
三菱重工浦和レッズレディース	AC長野パルセイロ・レディース
RB大宮アルディージャWOMEN	アルビレックス新潟レディース
ちふれASエルフエン埼玉	セレッソ大阪ヤンマーレディース
ジェフ千葉レディース	INAC神戸レオネッサ
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	サンフレッチェ広島レジーナ



雨天での開幕となった東京NBと神戸の開幕戦。成宮と新加入の吉田(写真右)が得点して神戸が勝利

大幅補強の東京NB I神戸との開幕戦で黒星

5年目を迎えた2025/26 SOMPO WEリーグが8月9、10日に開幕した。

昨季、リーグで初優勝を飾った日テレ・東京ヴェルディベレーザは、昨季途中まで三菱重工浦和レッズレディースを指揮した楠瀬直木監督を招聘した。その浦和から猶本光と塩越柚歩が電撃移籍。また、ベテランの隅田凜や土光真代が復帰したほか、シंगाポール女子代表経験のあるダネル・タンも加わった。今季はAFC Women's Champions

東京NBは第2節のN相模原戦で5人の選手がゴールを挙げて初白星



League(AWCL) 2025/26の戦いも控えており、四冠を視野に入れた積極的な補強が目立った。開幕戦は昨季準優勝のINAC神戸レオネッサと対戦。初戦からビッグマッチが実現した。

昨季無冠に終わったI神戸は、なでしこジャパン(日本女子代表)元コーチの宮本ともみ氏が監督に就任し、クラブ史上初の女性指揮官に。昨季までちふれASエルフエン埼玉でキャプテンを務めた吉田莉胡は、自身初の移籍先としてI神戸を選び、タイトル獲得に意欲をのぞかせる。東京NBとI神戸には、7月の東アジアE-1サッ

カー選手権2025決勝大会韓国に出場したなでしこジャパンのメンバーのうち9人が在籍しており、各ポジションで代表同士のハイレベルなマッチアップが見られた。

前半は、ダネル・タンのシュートをI神戸のGK大熊茜がセーブしてクロスバーに当たるなど、東京NBがやや優勢に進める。昨季リーグMVPを受賞した山本柚月もチャンスメイクに貢献。しかし、先制したのはI神戸だった。成宮唯が「どちらが先に仕留めるかで結果も左右される試合だった。浮かさず良いコースにシュートできた」と、クロスボールに合わせて先制。東京NBは後半も反撃したが、試合終了前に吉田が移籍後初得点を決め、2-0としたI神戸が開幕戦を制した。初陣を勝利で飾った宮本監督は「最高の相手との注目カードで勝ったことは大きい」と笑顔で喜んだ。

東京NBの村松智子キャプテンは「最初の15分で全てのパワーを出そう」と楠瀬監督からも言われていたが、堅い入りだったと振り返り、「昨季もビッグゲームで勝てていない。チームが変わらなければいけない」と課題を挙げた。東



S広島Rは第2節、9677人の観衆が見守る中、2-1で神戸に競り勝った。写真はクロスボールからオウンゴールを誘った古賀

今季も混戦必至 開幕から熱戦が続く

京NBはその後、ホーム開幕戦の第2節でノジマステラ神奈川相模原に5-0で今季初勝利。波に乗っていたが、第3節の浦和戦で0-1と完封負けを喫し、昨季王者が早くも2敗という波乱の幕開けとなった。

I神戸は開幕2連勝を目指し、第2節はサンフレッチェ広島レジーナのホームに乗り込んだ。しかし、試合は9677人の観客の後押しを受けたS広島Rが、1-1

で迎えた後半終了間際に古賀花野のクロスボールでオウンゴールを誘う劇的な展開で2-1と競り勝ち。初黒星を喫した神戸だが、次の第3節ではE.L.埼玉を2-1で下し、2位に再浮上した。

昨季の皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会を制した浦和は、主力だった遠藤優や石川璃音が海外クラブに移籍する中、アメリカ遠征などで準備を進めて新シーズンに臨んだ。S広島Rとの開幕戦は若手選手が存在感を見せるもスコアレスドロー。第2節のアルビレックス新潟レディース戦では伊藤美紀がハットトリックを



浦和はホームの第1節でS広島Rに引き分けたが、その後は連勝して首位に(第4節時点。写真右は第2節で3得点を決めた伊藤美紀)

でしこジャパンの宝田沙織が復帰。宝田は最前線で起用されて攻撃の起点となり、第3節のN相模原戦では今季初勝利に貢献した。今季、大宮アルディージャVENTUSからチーム名称を変更したRB大宮アルディージャWOMENは、GK福田史織、浜田芽来ら新戦力が活躍。開幕からの全3試合で対戦相手よりシュート数は上回ったが、2分1敗と苦しい船出に。ホーム開幕戦の第2節・C大阪戦で4035人の観客を動員したE.L.埼玉も未勝利が続くシー

マークしたほか、16歳の平川陽菜がWEリーグ初得点を決め、5-0で浦和が勝利した。第3節の東京NB戦では、22歳・丹野凜々香の得点で1-0と制し、第3節終了時点で首位に立った。浦和の堀孝史監督は「チャンピオンチームをリスベクトしすぎず、戦う姿勢を出してくれた」と勝因を挙げ、「今後もう少し成長していきたい」と先を見据えた。

セレッソ大阪ヤンマーレディースは、昨季の東京NBを優勝に導いた松田岳夫監督を迎え、海外でプレーしていたな

ズン序盤となった。今季からGKの8秒ルールやキャプテンオンリーといった競技規則の改正が施行され、多くのチームがそれらをシミュレーションして開幕を迎えた。浦和のGK池田咲紀子は第3節終了後、特にGKの8秒ルールについて「開幕前はストレスを感じるかと思っていたが、(自分がボールをキャッチした後に)フィールドプレイヤーがすぐに的確なポジションを取ったり、DFラインを上げたりと理解してプレーしているので大きなストレスは感じていない」と話していた。



ホームで迎えた第3節、C大阪は田子夏海と北原朱夏の2得点で初勝利を挙げた

●月間ベストオフェンス賞・月間ベストディフェンス賞を新設 ~ファン・サポーター投票も実施

WEリーグは今シーズンより、「月間ベストオフェンス賞」「月間ベストディフェンス賞」を新設。クラブから推薦されたシーン(選手)の中からファン・サポーターが最も優れた攻撃および守備をしたと評価するシーン(選手)に投票し、投票数を参考に選考委員会が月間ベストオフェンス賞・月間ベストディフェンス賞を選出する。

【ファン・サポーター投票方法】

- WEリーグ公式X (https://x.com/WE_League_JP)から投票
- WEリーグ公式Xの当該投稿で投票したいクラブの投稿に「いいね」を押して投票

*クラブから推薦されたシーン(選手)は当該投稿のリブ欄に投稿



●MATCH OF THE WEEKにも注目!

WEリーグでは、注目試合を毎節1試合選定し「MATCH OF THE WEEK」としてDAZNで配信。MATCH OF THE WEEKは通常の中継配信内容をパワーアップしてお届け。

- ✓中継配信はキックオフ10分前からスタート
- ✓カメラ5台を用いた中継にアップグレード
- ✓通常の中継配信より多くの選手・監督へのインタビューを実施(※実施内容は試合ごとに変更予定)

■2025-26シーズンの公式戦 開催概要(抜粋)

●2025/26 SOMPO WEリーグ

大会方式：12チームによるホーム&アウェイ方式2回戦制/全22節/計132試合
開催期間：2025年8月9日(土)~2026年5月17日(日)
※中断期間2025年12月29日(月)~2026年2月13日(金)

●2025/26 WEリーグ クラシエカップ

大会方式：WEリーグ12チームを3グループに分けて各グループで2回戦総当たり(ホーム&アウェイ方式)のリーグ戦を行う。各グループの1位チームと2位のうち成績上位の1チームの計4チームがノックアウトステージに進出する。ノックアウトステージは、準決勝をホーム&アウェイ方式による2回戦制、決勝はセントラル方式による1回戦制で行う。

開催期間：
・グループステージ
2025年10月25日(土)~2026年3月22日(日)
全6節/全36試合
・ノックアウトステージ
準決勝 第1戦 2026年4月11日(土) or 12日(日)
第2戦 2026年4月18日(土) or 19日(日)
決勝 2026年4月29日(水祝)

シーズンは始まったばかりだが、WEリーグ開幕期(第1~2節)の入場者数が合計2万8963人を記録するなど各会場では過去4シーズンを上回る賑わいを見せている。

ピッチ上での選手たちのさらなる熱戦に期待がかかる。開幕節の10日に行われる予定だったN相模原対千葉は、雷雨のため中止。代替日は調整中。

読者プレゼント

応募締切：2025年10月17日(金)当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本サッカー協会のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「ピステトップ(XLサイズ)」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は、日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーンや目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページもご用意しました。今号では「カラビナ付きクリア小物ケース STADIUM LINE (SAMURAI BLUE、マスコット)」をセットで1名様にプレゼントします。



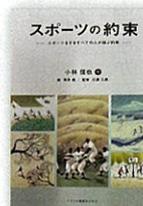
JFA STORE



<https://official-store.jfa.jp/>

『スポーツの約束』 (ミラクル書房株式会社)

2025年6月30日に発売された小林信也著、川淵三郎監修の『スポーツの約束』を5名様にプレゼントします(書籍の詳細は64ページ参照)。



プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/Jn92LWEBVnmdLgD56>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル
公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。発送は2025年11月中旬から下旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいたはがきは返却しません。

JFA公式アプリ JFA Passport

全てのサッカーファミリーのためのJFA公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
- アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
- お得なクーポンやプレゼント情報を紹介

<https://www.jfa.jp/jfapassport/>



【サッカークイズを毎月更新中】

9月のトピックス予定：

リスペクト、FIFA U-20ワールドカップ

SAMURAI BLUEクイズも出題中

◎サッカーのルールを学べるクイズも配信中！

JFA DREAM FUND

JFAの基金窓口を開設。寄せられた寄付金はJFAの理念やビジョンに基づき、主にサッカーの普及や日本代表のさらなる強化に使用します。

<https://jfa.jp/dream-fund/>



JFAクラウドファンディング ～みんなの夢を応援しよう！

JFAがCAMPFIREと共に提供するサッカーに特化したクラウドファンディングサイトです。

<https://jfa.camp-fire.jp/>



<起案者のメリット>

- ✓ お得にクラウドファンディングを実施できる
- ✓ サッカー専用の無料セミナーがあり、初めてでも安心して始められる
- ✓ サッカーに関心がある人が集まるJFA公式サイトに掲載できる

<支援者のメリット>

- ✓ さまざまなサッカー活動の夢と挑戦を応援することができる
- ✓ サッカーに関連するリターンを得ることができる

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

発行人：湯川和之

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代)

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部

編集：編集長 多田寛

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2025年10月情報号は、2025年10月17日発売予定

[特集]ゴールキーパーをしよう(仮題)

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

https://req.qubo.jp/jfa_coach/form/entry

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。



チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

<https://www.jfa.jp/registration/>





サッカーのチカラで、
日本中を笑顔に。



KIRIN キリンはサッカーを愛するすべての人を応援しています。

2024年11月SAMURAI BLUE招集メンバー/2024年10月なでしこジャパン招集メンバ



アスピス!

定価600円(本体545円)